

UFO・超能力・宇宙哲学

UFO

SINCE 1961
GAP-JAPAN NEWSLETTER



UFO・ESP・Cosmic Philosophy
コンタクティー

contactee

月は異星人の基地だった!

私の宇宙哲学実践とUFO目撃
懐疑論者から支持者に転向
アダムスキー哲学と波動感知法
創造のための宇宙哲学
東京大地震は〈近未来に〉発生しない

肉体を超えて大宇宙と一体化する方法

SUMMER
1996

133



CONTENTS <Dedicated to Space Brothers and Cosmic Consciousness>

〈巻頭言〉 信と不信	1
月は異星人の基地だった!	久保田八郎 2
私の宇宙哲学実践とUFO目撃	加藤 純一 10
〈写真〉弘前城のUFO	谷本 秀雄 15
懐疑論者から支持者に転向	ジョン・ローリーノ 16
アダムスキー哲学と波動感知法	林 国宜 20
創造のための宇宙哲学	佐藤 彰 26
宇宙の夢とUFO目撃	吉川 美香 27
科学——SCIENCE	28
GAP短信	30
カルナの意味	寺林 正俊 31
宇宙物理学	浜田 敏博 32
不思議な夢	佐々木八郎 33
東京大地震は〈近未来に〉発生しない	秋山 真人 34
肉体を超えて大宇宙と一体化する方法	ジョージ・アダムスキー 38
〈予告〉第6回秋田支部大会	47
〈投稿欄〉ユークン広場	48
〈広告〉新アダムスキー全集	50
編集後記	51
日本GAP全国月例セミナー案内	52

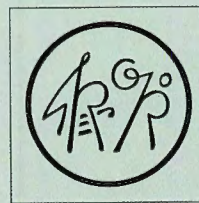
GAPについて

GAPは「知らせる運動」という意味の世界的なグループ活動で、世界中の人々がUFOの真相について「知る」機会を与えられるべきであるという見地に基づいて1959年にジョージ・アダムスキーによって創始されました。彼の願いは「最大多数の人が現代の真実を発見して、来たるべき時代に眼を転じること、人間はすべて“コスミック・パワー”の子であり、そのパワーの諸法則が宇宙に遍満している事実を確信をもって知ること」にありました。この諸法則は他の世界（惑星）から来る友好的な訪問者からもたらされた“生命の科学”の研究と理解を通じて体得できます。

日本GAPの目的はUFOとスペース・ブラザーズ問題を関心ある人々に伝えることにあり、奉仕活動を通じて真実の解明と宇宙の法則の実践を呼びかけることにあります。その中心思想は次のとおりです。

1. この太陽系の他の惑星群には偉大な発達をとげた人類が居住しているが、米・他の大国政府はこの真相を隠している。
2. 他の世界から来る人々はこの世界の政治家や科学者とひそかにコンタクト（接触）しており、危機にひんした地球に対して救援の手をさしのべている。官民を問わずスペース・ブラザーズとコンタクトしている人々が少数存在すると思われるが、通常その真相は洩らされていない。
3. ジョージ・アダムスキーがもたらした哲学は、人類の精神の向上と地球の輝かしい未来を築くために不可欠のものである。

本誌は他の団体・個人と対立するものではなく、政治・宗教と関係のない非営利刊行物です。本誌が読者に対して多少とも役立てば幸いです。



〈表紙写真〉

1965年9月11日、ワシントン市のアダムスキー大会に出席後、ニューヨークへ出た日本GAP黎明会旅行団は、午前11時10分頃にエンバィアステートビルの展望台から4機の白色円形のUFOが飛ぶのを目撃。これはその内の1機で、同行者の大根田匡史氏がビデオカメラで撮影した画面。

一九五五年、ジョージ・アダムスキーが二冊目の著書『宇宙船の内部』を発表したとき（この書は新アダムスキー全集第一巻『第二惑星からの地球訪問者』へ中央アート出版社刊に収録）はおそろしいほどの非難と冷笑をあげた。「空飛ぶ円盤同乗記」と題して日本語版が出た当時、轟々たる悪口と揶揄が渦巻いたことを覚えておられる。イギリスの高名なF.S.作家のアーサー・C・クラークに至っては「こんなでたらめな本は宇宙船に積み込んで宇宙空間へ捨ててしまえ」と放言していた。

（巻頭言）
信と不信



た。

しかしそのクラークでさえも一九七〇年の著書『初めて月に』の中で次のように述べている。
「たとえ何かの生命体が月面上で生きているにしてもそれは原始的なものだろうと想像するのは大変な誤りである。月面のクレーター・ティコの荒涼たる丘陵地帯、ライプニッツ山脈の高度九〇〇メートルの峰、または月の裏側で威容を誇るツィオルコフスキー・クレーター等には何が潜んでいるか分かったものではない」

彼がこうまで転向したのは、アポロ計画による月探査の結果、驚くべき事実が明かされるに至ったからだ。

本号冒頭の記事『月は異星人の基地だった!』は、アダムスキーの月面に關する描写を裏証する決定的な証言が宇宙飛行士の口から出ているのだが、二人の實在する勇氣ある男ビート・サッチェリーとレスター・ハウズの物語は、もともとジョージ・レナードの著書『Somebody Else Is On The Moon』に刺激を受けた結果である。この本は一九七八年に日本語版が『それでも月に何かがある』と題して啓学出版から出たので、ご存じの方も多いだろう。

しかしアポロ宇宙飛行士達が決死の覚悟で三万四千キロ彼方の月に到達して撮影した、月面の人工的な物体の存在を示す貴重な写真類を満載したレナードの辛苦の結晶も、ほとんど世間の耳目を揺るがすことはなかった。生活確保を第一条件として苦闘する地球人にとって、月の生物などはウサギ以外に關心の対象にならなかつたのだ。アメリカは一九六九年から七二年までに九回のアポロ宇宙船を打ち上げて、そのうち六回が月面着陸に成功し、一機の着陸船に二人ずつ乗り込んで、計一二人の宇宙飛行士が、西は嵐の海から東はタウルス山脈までの諸地点に着陸した。そして地球へ持ち帰ったのは計三九〇キロ弱の土と石ころだけと思

わせたが、どっこい物凄い発見をして、NASA（米航空宇宙局）の少数の高官達の度肝を抜いたのである。我らの月にはすでに何者かが住み着いて、そこを基地化していたからだ。

ただし当局はこんな凄い秘密をあからさまに発表するほどの間抜けではなく、宇宙飛行士達には厳重な箝口令をしいて一切沈黙を守らせた。そしてアポロ計画は一七号をもって唐突に打ち切られ、以後は月のツの字も言われなくなつた。月はすでに異星人に占有されていたために方針を変更し、別な惑星へ進出するための中継基地として宇宙空間の巨大な宇宙ステーションの建造を計画したのである。これはアメリカ、カナダ、日本、ロシア、EU（ヨーロッパ連合）が共同で着手する。その膨大な費用のうちの相当額を日本に拠出させるために、その見返りとして先般のスペースシャトルに日本人宇宙飛行士を搭乗させたのだ。

月面でUFOや建造物を見たと告白した宇宙飛行士は何人かいる。いかに箝口令をしいても、「隠されている事で洩らされないものはない」というイエスの言葉の真実性を、この人達ほどに例証した者はいないだろう。人間だから無理もないのだ。

しかしもっと問題なのは、月面どころかこの地球上でさらに目撃され、写真にも撮影された例が多数あるのに、いまだにUFOをプラズマだの幻覚だ

のと称して實在を否定する人が絶えないことだ。この世界の新事実の発見が市民権を得るには、なんと長年月を要することだろうと切齒扼腕する必要がある。これは時代の潮流のひとコマであつて、いつまでも寝ぼけた世界が持続するわけではないからだ。

ドイツの大物理学者マックス・プランクは言っている。

「反対論者をして屈伏させて転向させるという形で重要な科学的革新が行なわれることはめつたにない。パウロがパウロに変わることとはほとんどないのだ（注：迫害者パウロは後に転向して使徒パウロとなり、不滅の名を残した。パウロはヘブル名）。それが変わるのには、反対論者がしだいに死に絶えると次の世代は革新的な学説を支持するからだ。結局未来は若者の手にあるのだ」

このプランクの言葉をUFO問題や月面の状況にあてはめてもおかしくはない。若い人達に期待しよう。

いつの時代でも新発見や画期的な理論を展開する人は必ず攻撃の矢面にさらされる。しかしジョージ・アダムスキーはいつまでも無名の殉教者ではあるまい。いつか今世紀最大の偉人として脚光を浴びる日が必ず来ると確信する。そのときには彼を罵っていた人達が首を吊らないことを切に望むしだいである。パウロのように悔い改めて転向すればそれでよいのだ。（久）

月は異星人の基地だった！

アポロ宇宙飛行士の驚くべき交信記録を発見した男の実話

★久保田八郎 〈日本GAP会長〉

一九六九年から七二年にかけてアメリカはアポロ計画により九回の月探査を行ない、そのうち有人宇宙船が六回ほど着陸に成功して有史以来の快挙をなしとげた。それはよかつたのだが、その陰には驚異的な秘密が隠されていた。我らの月は別な惑星から来た大明を持つと思われる「人間たち」によって基地化されていたのだ。このことを早くから伝えたのはアメリカのジョージ・アダムスキーである。彼の著書『Inside The Space Ships』の中で、

彼は別な惑星から来た大母船に乗せられて特殊な望遠鏡で宇宙空間から月面を詳細に観察し、人工建造物や小動物までも目撃している（詳細は中央アート出版社刊・新アダムスキー全集第一巻『第二惑星からの地球訪問者』に収録）。

この歴史的な原書が出たのは一九五五年だったが当時の世間は物笑いのタネにした。現在も彼を世紀のペテン師呼ばわりする者がいる。しかし後年ア

メリカが宇宙開発を手がけて月や太陽系の諸惑星を探索する計画を持っていたことを熟知していたアダムスキーが、いずれ実態が明かされるみになることを承知の上で作り事を発表するほどにボケた人間であつたのだろうか。

実は月面に次々と着陸したアポロ宇宙船の搭乗員達は、すでに何者かによって月面に巨大な建築物や施設などが建設されていたり、「UFO」と地球で呼ばれる宇宙船が月面上を飛びかう驚異的な光景を目撃していたのである。ずっと以前に来日したアポロ一五号の着陸船ファルコンの操縦士であつたジェームズ・アーウィン中佐は、日本のテレビに出演して、I saw UFOs on the Moon.（私は月面でUFOを見ました）とはつきり語つたのを筆者はこの耳で聞いたのである！ その瞬間、驚愕と歓喜でひっくりかえりそうになつたが、今も彼の声は耳にこびりついている。

このときの彼の英語による話は逐次

▼アポロ11号の発射。

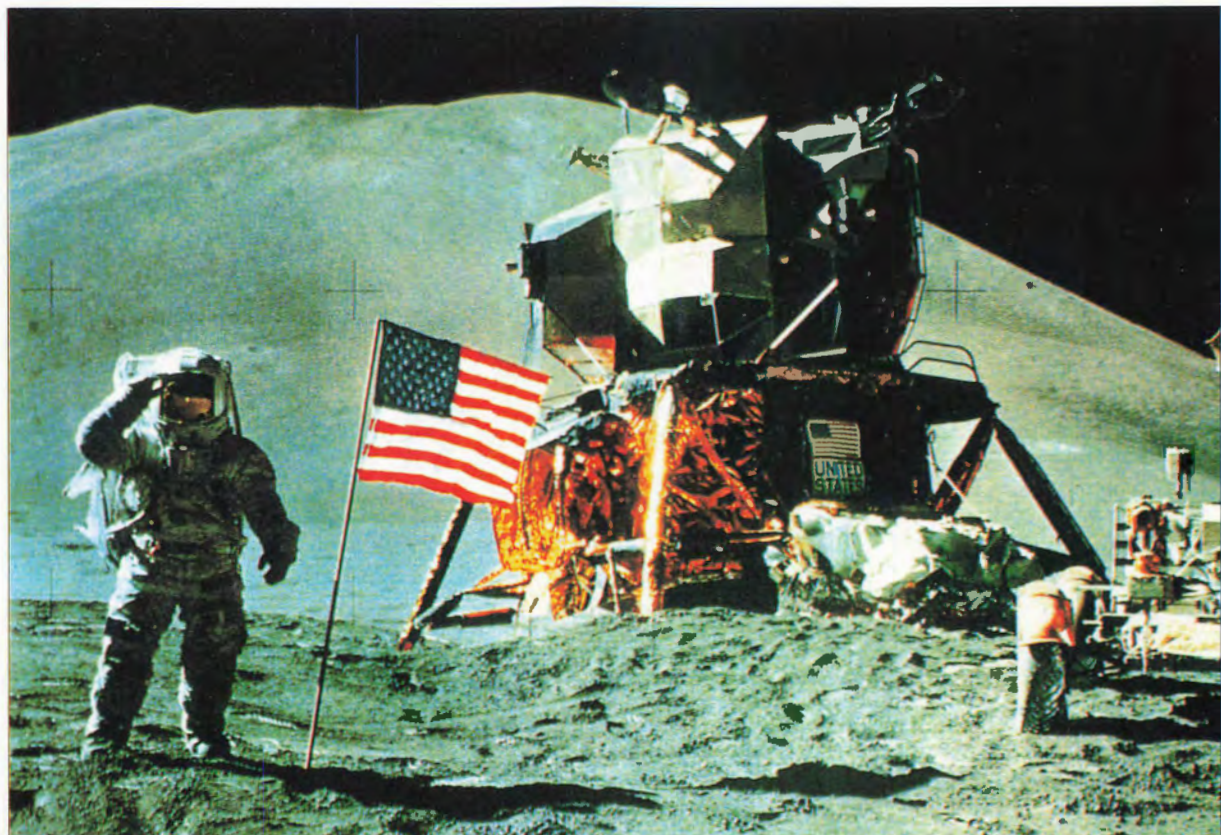


日本語に訳されて字幕が画面に流れていたが、このUFO目撃の説明の部分だけはなぜか字幕が出なかつた。彼はそのときUFOを複数で「ユーエフオーズ」と発音したので、一般に「ユーフォー」と言い慣れている日本では翻訳者に理解できなかつたのか、または裏面で何かの圧力が働いたのか、いまもって謎である（ちなみに筆者が知るかぎり英米人はUFOをユーエフオーと言っている）。

しかし月面でUFOや人工建造物を見たのはアーウィンだけではない。筆者の研究によれば月に着陸した宇宙飛行士達のほとんどすべてが驚異的な光景を目撃しているのだが、みな黙して

語らない。嚴重に口止めされているからだ。アーウィンの例は全く特殊であつたと言えるだろう。彼のテレビ出演時の重大きわまりない発言に気づいたのは筆者一人だつたのか！

以下の記事はアメリカの宇宙開発の壮大なプロジェクトを展開している巨大なNASA（米航空宇宙局）の一分散施設であるヒューストン市のジョンソン宇宙センターへ絶大な困難を乗り越えて入り込み、ついにアポロ宇宙船による膨大な月面写真の閲覧入手に成功した上、月面に驚異的な人工建造物とUFOが撮影されている写真を確認した二人の勇敢な男の実話である。アダムスキーの説明は真実だつたのだ！



▲1971年7月末から8月上旬にかけて月へ向かったアポロ15号の着陸船ファルコン（右後方）から月へ降り立ったジェームズ・アーウィン中佐が米国旗に敬礼している勇姿。後方はアペニン山脈。

とつぴな話を聞いて大笑い

一九七九年にビトー・サッチェリーはベネズエラの製油産業関係のある技術系会社の企画部長だった。ベネズエラには得意先の米系会社があり、この技術部長でレスタター・ハウズという男がビトーの窓口になっており、よく電話で話しあう仲だったが、会ったことはない。

ビトーは大体にヒューストンに在住していたが、たまたまレスタターが表向き「仕事」でヒューストンへやってきたので、二人は初めて顔を合わせて、たちまち意気投合した。

数日後にレスタターがまじめな顔で言った。「ヒューストンへ来たのはある秘密の動機があるからなんだ」

笑わないで聞いてくれと前置きしてから、実は自分はアマチュア天文家でUFO研究者でもあり、NASA（米航空宇宙局）のどこかに保管してある秘密の月面写真を入手したいので手を貸してくれないかと言う。

ビトーは大笑いしたが相手は大マジだ。仕事仲間の話によると、このレスタターという男は少しいかげんな、頭のおかしな人間だと言うが、レスタターはビトーが自分の言うことをどう思うかと気にしている様子だ。

レスタターはカバンから本を出して見せた。ジョージ・レナードの書いた

『月面に誰かがいる』と題するポケット版だ。これを読んでおいてくれとビトーに貸したので、その夜ビトーは徹夜で読みふけた。

消えゆく月面のクレーター群

この本には古代から——ひよっとすれば現在も——月面に文明が存在するかもしれないと思わせるような月の写真類をレナードが見たと述べてある。

その説明によれば、一九六一年にケネディー大統領が今後一〇年以内に月へ到着せよと米政府に指令を発していたのだが、その理由は一九五〇年代に科学界が各地の天文台によってゆさぶられていたからである。

というのは、月面のクレーター群が最新技術の粋をこらした望遠鏡の鋭敏な「目」で注視しても消滅しつつあると、多くの天文台が報告し始めたからだ！

この事実が次々と派生しつつあることは明白なので、ケネディーはアメリカが真っ先に月を制覇しようと決めたのだ。

月面写真類の公開についてNASAの職員達と無益な論争が続けた後、レナードは自分の本にその写真類を掲載した。彼に言わせれば、NASAが知っている秘密を一般納税者は知る権利があるのであって、納税者に隠すのは不当だと言う。だいいち数十億ドルも

の費用をかけて月面探査を九年間も行ったにもかかわらず、六回の月着陸で探査計画を突然に中止したのはおかしいというのだ。彼によれば、アメリカは他人の土地である月を侵害していることになったのだという。

その本を読み終えたビトーはレスターに電話して、とても興味深いので協力しようとする約束をした。

繁雑きわまりない手続き

翌日二人はNASAへ出向いて施設内を遊覧し、次の日に行動を起こした。この施設にはガイド付きで案内してくれるシステムがある。ただし上つ面を見るだけだ。

翌日二人は案内所の建物に入って、アポロ宇宙船が撮影した月面写真を見るための手続きをとりたいたと申し出た。最初戸惑った受付の女性は上司の所へ行つて話せと言っているので、行つて話すとその男も困惑している。

見たところ一般の参観者を扱う職員達は月面写真を保管している場所を知らないようだし、そんなものがあるかどうかもご存じないようだ。しかも写真記録課がどのリストにも載っていないのだ。

二人はさらに四名の職員に次々とたらい回しにされたあげく、やっと一人の職員がNASAの施設内のある場所に多数の写真が保管していると白状し

た。だが一般人はNASAのプロジェクトの許可されていない写真類を見ることはできないと言う。

そこで二人は作戦を変えた。レスターがいきなり言う。

「NASAというのは一般納税者の税金で設立された国民の宇宙開発機関ではありませんか」

女性職員の顔に困惑の色がひろがる。ビトーが追い打ちをかけた。

「そうだ、我々二人は納税者なのだ。だから我々は自分達の写真」を見に来たんですよ。それがなんで悪いんだ。誰がその写真を持っているんですか」

二人はレナードの本をチラチラめくつて見せた。

「ほら、すでにこうしてNASAの月面写真が公開されているのに、なぜこれが見せられないんですか」

二人は意地になってねばり続けた。助っ人が呼ばれたが、管理部の職員達と同じ話を続けるだけだ。誰もその本を読んでいなかったが、意味ありげに

一人の職員が調べてくれた結果、意外な事実が判明した。著者のレナードはかつてカリフォルニア州パサデナのNASAの一部門でカリフォルニア工科大学に関連しているジェット推進研究所の元科学者職員であったというのだ。これで彼らは折れてきて、その本についても興味を示すようになった。

これで二人は一応引き返すことにした。よし、こうなれば徹底抗戦だ。必

ず写真を出させてやる。おい、レス、頑張ろうぜ。おう、やるぞ。

だが事は簡単にゆかない。キツツキが頭痛をおこすほどに沢山の用紙類に記入しながら二人は数日を過ごした。

ビトーの会社が知らせてきたところによると、NASAは電話で彼の経歴を調べてきたというし、レスターについても人物調査をしてきたという。また彼のホテル側も誰かが彼の滞在を確認するための電話をかけてきたという。

明らかに車輪は回転しているのだ。ついにNASAから写真閲覧の許可を電話で伝えてきたのは数日後だった。

迷路のような施設

二人は成功を喜びあいながらNASAへ行つたが、事態は容易なことではなかった。彼らは三〇号ビルへ行くように指示されたが、それはまだ見たことのない建物で、だいたいそんなビルは存在しないのだ。

三〇A号ビルはからっぽであることがわかったので、次に三〇B号ビルへ入つて行つた。そこは厳重な機密部署で、ある探査結果がモニターされている場所だった。立入り禁止区域なのだが、二人はなんとかまぎれ込んだ。

みじめな気持でうろろうしているうちに、まもなく放り出されてしまった。警備員が、どうしてこんな場所へ入り込んだのかと尋問してから、二人を簡

単に建物から追つ捕つたのだ。なんという情けないことか。

翌日、係員は二人に謝つた。二人はレナードの本を少なくとも一千部ほどコピーにとつて、その宇宙飛行センターの職員にばらまくぞとほめかけたのである。このゆきづまりをなんとかしてくれと脅しをかけたのだ。これでNASA側は腰をあげることになった。

ついに真剣な討論が発生した。相手側の話によると、その写真保管室はNASAの一号道路に沿った東NASA敷地に隣接した月着陸追跡センターの方へ移転したのだという。そして二日後の朝八時に来てくれと言う。

ついに目的場所を発見

二日後に二人は施設の中央入口を過ぎてNASA一号道路を車で走り、敷地の東側境界線を示すチェーンの囲みを発見した。そしてビルが標識が見えるものと期待したが、うっそうと茂る森林しか見えない。さんざん迷つたあげく、NASAの垣に沿つた森の中へ続いている狭くて汚い道路に気づいた。すると二本の小さな柱をつなぐチェーンに下がっている標識があり、それには簡単に「立入り禁止」とある。

直感的にここがその場所だとわかつた二人は、チェーンを下げて汚い道路を約五〇〇メートル走ると、道はハイ

ウェーの方へ続いている。やがて森に隠れるようにして目指すビルがあった。ビルの番号はつけてなく、入口の近くに小さい標識があつて、それにはなんと上下幅一センチあまりの小さい文字で「月着陸追跡センター」と書いている。だが二人は驚かなかつた。

二人は小部屋に入った。人々が忙しそうに動きまわっているメインルームは右手にある。一見、掃除道具を入れるロッカーのような物が反対側の壁に接している。

写真保管室へ入りたいのだと受付に言うと、女性は掃除道具ロッカーの方を指さした。すると意外にもそれがくると回転して入口がぼつかりとあいた。その向こうはくねつた階段になっており、薄暗い地下のトンネルに通じている。これはNASAの敷地境界の方向へ向かうトンネルらしい。

二人がトンネルの端まで行くと大きな部屋があり、そこには両側の壁に伸びたカウンターがあつて、その向かい側には腰掛けに座つた係員がいる。この男の名前はロジャーだつたとビトールは覚えている。

相手の説明によると、写真保管室には少なくとも二百万枚の写真があるという。

ねねね二人の男

しかし具合のわるいことに、写真を

かたづけしから手当りしだいに見ることはできない。時間が短いし、検索システムが複雑なのだ。いいかえれば、何かの写真を見るためには特殊なコード番号を必要とするのだ。

ロジャーは、二人が見たがっている写真のコード番号を二人とも知っているのに驚いた。要するに彼はレナードの本については何も知らないのだ。

「やつた！」と二人は内心小躍りしながら番号のリストを相手に渡した。だがロジャーはそれをチラッと見て具合の悪い事を言い出した。その番号類はヒューストンでは無意味だという。

説明によると、保安上の理由でNASAは全国を五カ所の地域に分けており、各地域が写真の複写セットを確保して、それに異なるコード番号が付けてあるという。レナードの写真の番号はこの施設では通用しないのだ。

親番号のリストはどこにあるのかとビトールがたずねると、ロジャーはバージニア州のラングレーにあるという。二人は顔を見合わせた。

これは弱つた、どうするか、あきらめるか。いや、ここまで頑張ってきたんだ。なんとか続けよう。二人はヒソヒソと話しあう。

「今あきらめるわけにはゆきません。なんとかして続けたいので、お願いしますよ。」

すると相手は少し気の毒になつたのか、NASAの敷地内の誰かが申し込

み用紙を持つているが、その名前はよく覚えていないという。

「というのは、これまでにごこの写真類の閲覧を願ひ出た人はいなかつたからで、ここではあんたらが最初ののだ。」

ついに見た!

数日後、ロジャーがビトールに電話をかけてきて、こちらへ来て新しい書類に記入せよと言う。あれほど大量の書類を提出したのに、まだ要るのか!

これにはさらに二日を要したが、呼び出しがついにきた。写真はすでに二人の閲覧用に準備してであるとロジャーが言う。

しかし厳重な規則があつた。二人には一日八時間の閲覧が三日間だけ与えられており、ペン、エンピツ、紙、計算器、カメラ、その他いかなる種類の記録用道具も使用できない。また一人で写真を持ち上げてはいけない。持ち物としてはレナードの本と拡大用のルーペが許可されただけだ。

そして内部にいるときや昼食で外に出るときもトイレに行くにも職員が付き添う。これらの条件に同意するならば翌日の朝九時から閲覧を始めてよいと言う。二人はわくわくしながら八時に到着した。

このとき二人には二名の警備員が付き添つた。そしてU字型にセットされ

た五台の長い会議用のテーブルがあるのを見た。二人はレナードの本にリストしてある写真類だけを見ることを期待していた。ところが驚いたことに数千枚の写真があり、すべて番号順にそろえてあるのだ。

レナードはその著書の中で、カメラの撮影順序によつて写真の番号がつけられていると述べている。また彼は、探査機に内蔵されたコンピューターが一枚の写真を分析するあいだに異常を発見したならば、さらに目標物に接近して拡大した一連の写真を撮るのだとも書いている。

眼前に置かれた各写真は大きなもので、横二五センチ、縦二〇センチもあり、鈍い灰色か、ほとんど黒っぽい画面である。アポロ宇宙船では六×六判のハッセルブラッドと日本製の特注のニコンが使用されていた。それらの写真を大きく伸ばしたのである。

各写真の裏側には撮影時における月面からの宇宙船の高度、接近時の角度、宇宙船に関する太陽の位置等の技術的なデータが記載してある。

都合のよいことに二人は三角測量の専門的な計算法をすべて知っている。つまり画面内に見える物の大きさや距離を計算するには、簡単な三角法と代数を応用するだけで充分なのだ。

だが紙、計算器、エンピツなどがないのだから頭の中で暗算をするには限度がある。簡単にはゆかないのだ。

月の裏側のツィオルコフスキー・クレーター

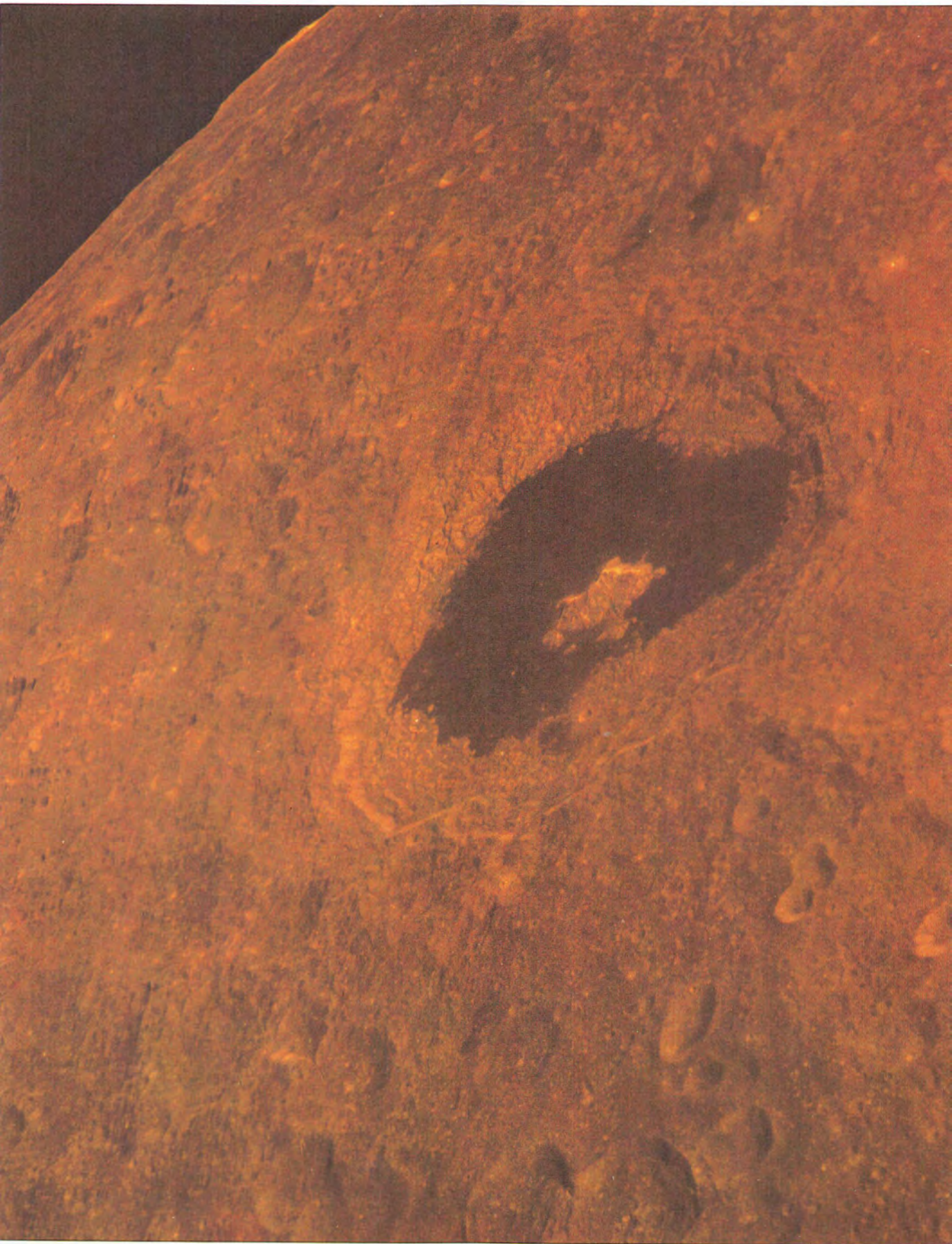
〈アポロ13号より撮影〉

中央右寄りの黒く見える部分は湖水ではないかといわれているが、低角度で撮った別の写真を見ると、黒い部分中に小さなクレーターが無数に存在しているので、湖水ではなくて緑地帯のようにも見える。真相は不明。

1970年4月11日に打ち上げられたアポロ13号は、2日後に電源用の酸素タンクが機械船内で爆発したため、月面着陸を中止して、必死の作業によりラベル、ヘイズ、スワイガートの3宇宙飛行士は無事帰還した。一説によれば、アポロ13号は月面で核爆発の実験を行なう予定であったために、異星人が故障を起こさせて着陸を阻止したのだという。

▼アポロ13号が撮影した月の裏側。





しかも写真は多すぎて状況は深刻だ。あせった二人はレナードの番号に頼ることにしたが、幸いにも彼の見た写真類のすべてを確認することができた。月面に異星人の基地があつたのだ！

現在までにビトー・サッチェリーが記憶しているのは大体に次のとおりである。

●丘の上から転がったと思われる一個の玉石が、その丘の側面に跡を残している。

●地表に見える明白な機械類が、その地域を調査したことを示している。

●グランドキャニオンを思わせる深い峡谷にかかっている三つのぼろぼろの「橋」が見える。

●四方に出入り口のあるTまたはXのような形に見えるパイプの建造物がどの写真にも見える。それらがクレーターの縁にかかっている場合は、その端が上か下に曲がっているものもある。

●三つの驚くべきピラミッドがあり、このために後になってビトーはエジプトのギザのピラミッドを詳細に調べようという意欲が起こった。

●月面の地表に明白なパイプラインが複数のクレーターからクレーターへ伸びている。

●一機のUFOが地面から浮き上がっており、あるクレーターの真上で撮影されている。

●これはたぶん最も忘れ難い光景だが、

まぎれもない長方形の建造物が、撮影された最大のクレーターの中にはつきりと見える。この建造物は非常に古い物かまたは建造中であるように見えるが、そのクレーターは直径が数マイルあると思われる。

カメラアングルは完全な立体的な光景を示している。その明快さと解像度は、ビトー・サッチェリーがそれまでに見たいかなる物体とも異なるものであった。これはそれ以来現在までに発達してきた宇宙スパイ写真技術の始まりだったのかと考えると身ぶるいするほどである。

宇宙飛行士の驚くべき会話

それから三日間というものは二人ともほとんど無言であった。レスターは最大の夢を実現させて至福の状態であり、ビトーはUFOにハマリ込んでいる。

最後の日の最後の時間帯に、ビトーはたつぷりと写真を見たので、足を伸ばして少しくつろぐことにした。それからロジャーにメイソールームに案内されたとき、彼は仮のパネルが少し開いて中が見えるのに気づいた。

床から天井まである書棚には白い三個のリングのついたバインダーがぎっしりとつまっている。ロジャーの説明によれば、このほとんどのバインダーにはNASAの宇宙開発で行なわれた

科学的な実験の詳細が満載しており、それ以外は月着陸を含む有人宇宙飛行の記録文書だと言う。

三日間以上にわたって二人と親しくなった上、ロジャー自身も写真を見て楽しんだので、彼は別れぎわにウィンクして微笑しながらうなずき、付添いなしに部屋へ入らせてくれた。ビトーは文書にさほど関心がなかったので、科学的なデータを見ながら時間をすごしていた。

「結局、自分は四〇億の人間とともに最初の月着陸の光景をテレビで見たのだ」

ここで一大奇跡が生じたのである！彼は文書類に少し目を通すことにならぬにせぬ数頁を指ではじきながら最後の一分五秒をすごしていたところ、彼の目はある驚くべき記録に釘付けになって心臓が高鳴った！

「ヒューズトンへ。我々は（時計の文字板の）二時の方向にボギーを見た」
「了解。アポロへ。アルファへ切り替える。八度横転して逐次制御を開始せよ」
「了解。管制センターへ。アルファを確認中」

ボギー (bogy) という言葉は本来お化けとか幽霊を意味するが、米空軍ではUFOを意味する暗号として使用されているのだ。

ビトー・サッチェリーは本能的にその意味がわかったけれども、この記録は信じられないほどのものだった。彼は頁をめくってから似たような交信記録を見つけた。

「管制センターへ。丘を越えてサンタクローズがやってくるぞ」
「了解。アポロへ。位置を保て。プラボーへ切り替える。わかったか」
「了解。ヒューズトンへ。プラボーとつながっている」

ここでプラボーとかアルファといっている言葉の意味はあとで説明が出てくる。サンタクローズももちろんUFOを意味する暗号である。

なんということだ。この交信は月面でのUFOの活動を報告しているのだ！

だがビトーは一九六九年から七〇年にかけてのアポロ月探査のテレビ生中継を見ていたあいだ、こんな会話を聞いた覚えはない。啞然としたまま一言も言えず、怖くなって、そばにいるレスターにも言えない。ロジャーにはなおさらだ。自分達をトラブルに巻き込みたくないからだ。だいいちこんな文書を見る許可も取っていないではないか。

我々が見た写真を買うことができるのかとレスターがロジャーに聞いているあいだビトーは沈黙していた。

できるとロジャーは答えて、申請用の用紙を渡しながら、写真を渡すまでに数週間かかると言う。

やがて届いた写真類は予想どおりに汚い仕上がりで、かなりぼやけたものだった。これらの写真を見て感動した者はいない。だがそれでもビトーはアポロ宇宙船の月探査飛行に夢中になっていた。UFOという思いがけない発見をしたからだ。

テレビ放映のトリック

数年後、ビトーは二、三の親友にあの記録文書のことを話してみた。すると一人の友人が、ある特殊な女性にそのことを伝えて、その女性に会ってみたらどうかとビトーにすすめた。その女性の本名は内緒にする必要があるのだ、ビトーはジェーンという仮名で呼んでいる。

彼女は当時大学生で、NASAのために録音テープの原稿起こしをやっていた。そこでビトーは彼女に質問したのである。

「宇宙飛行士達が地球に向けて生交信をやっているあいだに、自分達の会話を一般人に聴かれないようにして、しかもUFOについて報告するには、どのような方法でやるんですか」

彼女の説明によると、こうだ。

宇宙開発の結果、多くの技術が発達したが、その内容は産業界には秘密に

されていた。こうした開発の一つに、当時は一般に知られていなかったが、急速再生ビデオがある。これは後に一般化した。しかし一九六九年と七〇年にはひとにぎりの人がこの方法を知っているだけだった。

まず月から来る宇宙飛行士の姿を放映してから、ときどきNASAは月探査のテレビ画面を、着陸船の実物大の模型のそばに立っているニューズレポーターの放送に切り替える。そして視聴者の注意がその方にそらされているあいだに、月からアポロ宇宙船の本物の受信を裏面で行ない続けて、秘密の交信部分を削除しながら急速再生してあたりさわりのない場面だけを流すのである。初期の頃に軍のパイロットだけが宇宙飛行士になったのは、彼らこそは真相を知っている人々なので、極秘事項を保つように訓練された人達でないと都合が悪かったからだ。

アルファやブラボの意味

ビトー・サッチェリーが一九九五年の四月に月面写真研究家のマーウィン・クザニックに会ったとき、彼はNASAで用いられている技術のある分野の開発を手伝ったことがある。そのときに知ったのだが、ビデオの急速再生法以外に彼は「アルファ」とか「ブラボ」という暗号を知っていた。これは各地に点在している切り替え

用の特殊な受信局のことであって、これらがアポロ宇宙船からの交信をヒューストンや管制センターからアメリカの北西部に分散しているミサイル基地へ切り替えるのである。そこには機密通信装置が設置してあるからだ。これがビトーの解けない謎だった。そしてクザニックはあの月面写真類の親リストをだれが持っているかを確実に知っていた。

月への移住は遅すぎた

一九八〇年にビトー・サッチェリーの別な難問が解決した。アポロ宇宙飛行士達が持ち帰った月の岩石と月面の植民地化の可能性に関して、議会の特別委員会が作成した報告書を一友人が彼に見せたのだ。

この文書は一九七二年または七三年となっており、巨大なプラスチックの空気ドームを用いた月植民地化は非現実的で、地球から空気を運ぶ必要があることを論じていた。そして驚いたことにその委員会の報告によれば、月には多量の酸素があり、それは岩石の中に閉じ込められているというのだ。

結局、好ましい解決法は次のとおりである。大規模な発掘によって岩石を粉々にし、開放された酸素は洞窟やトンネルなどの中に貯蔵して、残った岩石の屑は既存のクレーター群の中に廃棄

する。当然のことながら、これらのクレーター群は消滅するだろう。最初の月着陸のはるか以前に天文学者が観測していたクレーターが次々と消える理由はここにあったのだ。

月の実態を知っている米政府

ビトー・サッチェリーは言う。「地球へ定期的に訪れていた(友好的な)異星人によって月が占拠されていたという話は完全につじつまの合うことだ。私が記憶しているのは、一九六〇年代にケネディー大統領がNASAを動員したあと、ロシア人を出し抜いて月に到着し、これを他の惑星へ行くための宇宙ステーションにするという計画だ。当時、もし月に金または他の貴金属が発見された場合、だれが採掘権を得るかという議論がわいたものだ。また当時はミサイルを軍事目的に使用できなかったため、月面に保管しようという論議もあった」

現在アメリカ政府は月を基地にしようという話をしない。そのかわりに宇宙ステーションを建設する方向に進んでいる。その理由は、月はずでに別な惑星の人達によって既成の宇宙ステーションになっていたからだ。アメリカの思惑ははずれたが、太陽系の物凄い科学力を持つ別な惑星群の文明人の存在を確認するというレッスンを学んだのだ。高い授業料だった。

私の 宇宙哲学実践と UFO目撃

加藤 純一

筆者は日本GAP本部役員として活躍する二六歳の真摯な探究者。UFO目撃男の異名をとるほど頻繁にUFOを見るが、これはたんなる興味本位的な現象ではなく、その裏には熱意のある宇宙哲学の実践が秘められている。筆者は編者と同行中に異星人とすれ違ったりUFOを目撃したこともあるが、単独で見る機会が圧倒的に多いという。今生ながらの重要な宿命を帯びていると思われる筆者が、その貴重な体験の一部を吐露した記事を寄せた。

幼児期に巨大UFOを見る

私が日本GAPに入会させて頂いてからこの6年間、実に多くのUFOを目撃することが出来ました。これもひとえに久保田会長をはじめ本部役員の方々と諸先輩の皆様方のご助言のおかげです。

今回ここに紹介させて頂く体験談は全て私が望んで求めた結果であると解釈しています。説明のつかない不可思議な現象についても結局つまるところは私が心のどこかでイメージしたものなのかもしれません。

特に「UFOを見たい」とか「スペースブラザーズ(異星人)に会いたい」とかいうような、誰もが描きやすい夢については、そのきっかけとなるエピソードがそれぞれ存在し、それらは私の今現在の思考、行動に多大な影響を与えていることは確かかなようです。UFOに関して言えば、幼い頃(おそらく幼稚園に行く前後の一九七四年頃)に一歳違いの弟、近所の友達、その母親の七〜八名全員で巨大なオレンジ色のUFOを目撃しました。

この体験については、なぜか上京するまですっかり忘れていたのですが、GAPの月例会にはじめて参加させて頂いた頃と同じタイプの巨大な光体を目撃したことによって、明確に思い出することが出来ました。これは当時住ん

でいた都内K区で帰宅途中、GAP活動やアダムスキー氏のことを考えて歩いていた時に、眼前の空間をオレンジ色に近い巨大な光体が斜めになって横切る姿をはっきりと目撃しました。

私はこの体験により今、自分の中で一番の関心事であるUFOがすでに幼い頃の自分に影響を与えていたことを知り、UFOと自分とのつながりを強く感じられるようになったのを覚えています。

日本GAPの素晴らしさ

また、大げさかもしれませんが、GAPの月例会に参加してからというもの、私は「自分の居場所」をはじめで見つけられた喜びだけで今日まで学び続けてきたように思います。GAPに入会してからは驚きの連続でした。というのも今までになかったUFO出現に伴う流動的な不思議なあなたにかいフイーリングが月例会に参加する度にやってきたからです。

もちろん、これは久保田会長のもとで『生命の科学』、テレパシー等のアダムスキー哲学を学ぶことでよくにつれて感じるようになったことですが、私にしてみればUFOの研究団体がこうまで超能力の研究、開発まで幅広く応用、実践していることに非常な驚きを感じていました。

そして日々アダムスキー哲学を実践

してゆくたびに、また年を追うごとに、素晴らしい体験を重ねてゆくことが出来ました。

九四年から不思議な現象が発生

その中で、九四年は私にとって大きな変化の始まりの年でした。この年の手帳を読み返してみますと、以前にも増してUFOが頻繁に現われて目撃していることが記されています。特に九月に入ってから義父が肺ガンで緊急入院し、余命を宣告されてからは夢の中でブラザーズに励まされたり、実際にUFOを目撃するなどの変化が現われました。私自身も妻と共に直接ヒーリングや会長のご助言によるイメージ法を毎晩のように駆使して、我々に来ることとして、精神面の応用もかかさず行ないました。

九月の後半のある日には夢の中で異星人の婦人の方がやって来て、久保田会長と共に会うという素晴らしい光景を見ることが出来ました。同じ日、妻も不思議な夢を見ていました。その内容は、父が病室からアダムスキー型円盤を見た笑顔で妻に語ったというものでした。

私は九月一六日の夕方にもUFOを実際に目撃し、その後も夢の中に度々現われて下さったので、九月は本当に私の想念が上空に届いていたのかもしれない。九月の二六日には上空へ飛

び立つ UFO を目撃し義父はきつと良くなる！と確信したのを覚えています。

しかし翌二七日の夢では義父と乗ったエレベーターが上ったり下ったりする奇妙な内容だったので、この時はまだ気をゆるさず妻とイメージ法を行なっていました。

私にとつて重大な目撃はまだ続きません。一〇月一日には会員の X 君と共に巨大な母船を見ることが出来ました。翌二日には黎明会の岡田君と共に明治神宮で七機の円盤の編隊を目撃することが出来ました。

一〇月に入ってからには前述の目撃にはじまり、自身の体験も目を追うことにエスカレートしてゆくかのようでした。しかし、義父への直接ヒーリングの反動からかこの年の総会（九四年一〇月九日）の後に持病が悪化してしまいい三日には頭痛や異常な悪寒によりダウン寸前のところまできていました。以前から不思議に思っていたのですが、私の持病が再発し、それを克服しようとする、まるでそれを知っているかのように UFO が現われるのです。そして例にもれずこの時も白金に輝きながらはつきりと UFO が出現したのです。やがてそれはオレンジ色に変化して消えてゆきましたが、これは本当に不思議な事例の一つでもあります（ちなみにこの目撃により私の持病が劇的に治ったことはありません。ただ例えようのない力強さとやる気が湧い

てくるのです。

義父のガンが奇跡的に全快

さて、結局余命六カ月と宣告された義父は毎晩のように妻がカセットテープに吹き込んだミラクルワードを聴き、また会長に勧められたジョセフ・マーフィー博士の本を読み、ついには死の淵からはい上がったのです！（筆者注）義父は小細胞ガン第 3 期 A と診断されていた）

この時はじめて私と妻は久保田会長のもとで学んできたアダムスキー哲学を日常で応用出来たのだと思いました。それは確かな実感となって二人の魂に刻まれたレッスンとなりました。周囲の方々が担当医を驚かせたこの話の根底には我々の信念の力を応用すべき余地がまだまだたくさんあることを教えてくれたような気がします。

GAP の行事に UFO が出現

一〇月一七日には本誌 U コン全国発送の折に、瞬間的に出現した UFO を目撃出来ました。この時は会長のマンシオン（五階）から真正面の空間に数秒間オレンジ色の光体が出現し、会長も光体が消える瞬間を目撃しました。こういった GAP に重要な行事の時には UFO を目撃することが多いのですが、これに関してはもう一つの

エピソードがあります。

今年（九六年）一月の U コン発送日の朝、私の自宅近くで小型の円盤（おそらくスキヤニングディスク）が銀色の船体を太陽に反射させながらゆつくり飛んでいるのを発見しました。この場所は前年の九五年の九月三日に弟と共に金色に光る丸い船体の UFO を目撃した所と同じでした。この時はすぐ近くにいた見知らぬおば様達も見えましたので何か不思議な物体が飛んでいたことは間違いありません。弟はこの目撃により前述の幼い頃に目撃したオレンジ色の巨大な UFO のことを思い出したと言っていました。

大宇宙思念法で UFO が出現

さて話は戻りますが、一〇月二三日には先の明治神宮で大宇宙思念法を行ないました。大宇宙との一体感を得るためには、シンプルでかつ絶大な効果があるこの方法が一番だと思えます。

実際この時も突然一機の小型 UFO が頭上近く（かなり高空でしたが）に滞留しているのを発見しました。物体は細長く、時々光を吸収してか、真っ黒になったりしていました。船体全体は白金の金属質に見えました。こんなにたくさんの方がいるのに何故気付かないのだろうと思うくらいに綺麗な物体でした。それはやがて北西の方向へゆつくりと平行移動してゆきながら見

えなくなりました。明治神宮は大変波動が良く、私は度々この広場（宝物殿前の広場のこと）で、大宇宙思念法を行ないますが、自分にとつてこのような特別な場所をいくつか作っておくと気が滅入った時やエネルギー補充には効果があると思います。（編注）大宇宙思念法は東京月例セミナーで久保田会長が指導する（瞑想法）

またこの帰りがけにも良いヒーリングが続いていましたが、案の定、駅へ向う途中で流星型のはじめて見るタイプの小型円盤が、いかにも私を待っていたかのように滞留していました。この頃は UFO の目撃の他にも不思議な夢をたくさん見ており、とにかくブラザーズをはじめ、久保田会長や秋山眞人氏、スカウトシップや母船などが頻繁に出現して下さいました。このような体験もあって私はますます上空に目を向け、意識的に過ごしてゆくようになりまして。

異星人に気付く方法

さて翌九五年はスペースブラザーズとの出逢いという記念すべき幕開けとなりました（本誌一二九号参照）。この事件は私にとつてブラザーズとの意識的な距離を縮めてくれた一つのきっかけとなりました。私はここで重要なのはブラザーズに気付くための方法であると考えました。（新アダムスキー

土星人が語ったブラザーズに気付くためのたった一つの方法とは「意識を融合させること」であると明言しています。ブラザーズの問題については特に相手の存在に気付いたと主張する場合、物証的なものがないために、いわゆるテレパシーや意識的な話からはじめねばなりませんのでなかなか理解してもらえません。ただ私が今までの経験から言えるのは、ブラザーズが存在もUFO出現時のテレパシクな印象についても「それを体験しなければ知り得ない」ということです。これは私も体験したからこそ言えるのであって、またそれを身につける方法や(応用)理論はすでにアダムスキー氏の著書に提示されているわけですから、アダムスキー哲学を実践し、体験を得るまでやり続ける人と、そうでない人との間には言葉ではうめつくせない、言いあらわせない程の何かが横たわっていると言えると思います。

事実、入会当時の私にとっては先のアダムスキー氏の体験やテレパシーに関する理論は自分とはまるで別次元の現実とはかけ離れたもののように感じたことを覚えていますが。そんな疑問を解きあかしてゆくには、やはり実行し続けるしかないのだと最近特に強く思うようになりました。

また、様々な体験を積んでゆくうちに自分では予期せぬ新しい現象も起き

はじめるようになりました。

奇妙な音が響く

九四年の一二月頃からUFO出現のフィーリングと同時にある特徴のある「音」が耳に入ってくるようになりました。

九四年のデザートセンター旅行の前日のことですが、この時もUFOの出現時に湧き起こる高揚感に伴って、耳への圧迫感を感じた私は、UFOの出現の合図だと直観的に思いました。外へ出てみますと脈動するかのよう光を発しながらUFOが目の上空を飛んでいるのを発見しました。

このように私にとつてこの時期は「体験」という言葉の意味と重要性を考える良いきっかけとなった一年でした。現在もこの「音」を伴ったUFOの出現は続いています。毎回目撃する度に「音」が聞こえるわけではありません。また、「音」に伴う目撃をはじめて体験するまでは何度かその前兆として、夜中に寝ている時に(意識はしっかりとあります)、突然耳の中に「ポーン」と入ってきたり、スカウトシップが飛んでいる夢を見ている途中で音が入ってきたりする現象を体験していました。時には突然音声となって聞いたこともないような言葉が入ってきたりしましたが、私にはさっぱりその言葉の内容や意味が理解出来ません

でした。また、自分自身、心の中で「これがブラザーズのテレパシーのかなア」という期待も半分あり、その一方で「ヤバイなア、チャネリングっぽいかなア」などと案外自分を客観視していることにも気付きました。このような時にはとにかく細かくメモをしました。その時に見えた映像も興味深いものもあつたり、読み返してみると自分の心の願望のパーセンテージが大半を占めていたりして、結構自分自身の傾向を知る良い材料になりました。

同様の体験者がいた

ある日会員のX君にこの件を話してみたところ驚くことにX君も同様の体験をしているというのです。彼とは何度か一緒にUFO観測をして素晴らしい光景を目撃しています。

このX君が「音」とフィーリングを体験するようになったのは私と共に超至近距離で小型の円盤(スキヤニングディスク)を目撃したその翌日からでした。X君はこの目撃に相当のショックを受けたようで(もちろん私も)彼は自宅に戻ってから一人で観測を行なったそうです。その時にも昼間に共に目撃したものと同じタイプと思われるスキヤニングディスクが手の届くところまで発光しながら飛んできたそうです。

そしてそれは出現に先立って耳への

圧迫感(奇妙な音)とフィーリングがやってきたことは言うまでもありません。

異星人に話しかけてはいけない

さてブラザーズの話に戻りますが、先のデザートセンター旅行帰国後からブラザーズが存在を強く感じるようになり、実際にそのような体験をいくつしました(もちろん確証は何一つありませんが)。そこである日、久保田会長にこの件についてご意見を求めたところ厳しい指摘を受けました。これは「相手の存在に気付いても決して騒ぐことなかれ」ということでした。

また別な機会に秋山真人氏に同様の質問を試みたところ、大変厳しい口調でコンタクトに関する以下のようなアドバイスを受けました。

「たとえ相手の存在に気付くようになっても決して自分から話しかけてはいけない」

これは自分がブラザーズが存在に気付くようになると相手もこちらを試すためにやってくるのだということです。

また真実のコンタクトの場合、つまりブラザーズが何かを意図してやってくる場合、必ず「相手の方から直接声をかけてくる」のだそうです。残念ながら私の場合は様々な理由で相手がブラザーズかもしれないと気に止める程



▲1995年11月27日朝9時20分、都内千代田区で筆者が撮影した銀白色の円型UFO。連続3枚の内の1枚。

度の体験はありますが、直接話しかけられたことはありませんし、ブラザーズからのテレパシーを受信したりしたこともまだありません。

前額部の不思議な体験

ただし昨年の五月に高松支部大会では全く新しい不思議な体験をしました。ご存知のとおり支部大会では翌日観光が行なわれ、それが一つの目玉になっていますが、この観光の途中、私は上空からきた光線を額に受けました。それはよくアジナーチャクラ、第三の目と呼ばれる部位でした。後になって手帳を調べてみたところ、実は九二年にも別なタイプの光線が（共に色が違う）部屋の中に入ってきたことを思い出しました。さらに細かく調べてみると、不思議なことに九四年の一月のある日を境に私の夢の中にかにも意味ありげな「一つ目」が現われるようになりました。

簡単にこの件に触れますと、私はとにかくこの一つ目との一体感を得るようになりました。こういった経過から自分の精神的な力と上空の何らかの意志のようなものとの関連を考えていたのですが、その後は上空からやってくる光線をこの目で見ることはなくなりました。

しかし現在も額にそのパワーのような非常に特徴的な振動（波動の一種

か？）が入ってくるのは感覚的なものでよくわかります。この振動は特に頭蓋骨にまで到達する時に心地良く共鳴しています。それはあなたかも外部から何かが発せられて額の第三の目の部分を通して作用しているようにも感じられますが、これは本当に不思議な現象で、最近では額のムズがゆきと同時にUFOが飛んでいる映像が突然パツと見えてきます。ちなみにこの現象と目撃の関連についてはまだ確証はありません。

すべての解答は アダムスキー全集に

さて私の場合、久保田会長のもとでアダムスキー哲学を学び、日常生活の中で実践してゆく内に本当に自然にこのような説明のつきにくい体験や素晴らしい目撃をして参りましたが、これらの解答はアダムスキー氏の著書の中にもうすでに示されています。現在UFOに関して様々な情報が飛び交う中で、何が正しくて何が間違っているのかを探し出すのは大変ですが、アダムスキー氏が残して下さった知識と情報をもってすればそれは比較的簡単であるのだということに気がきました。

私は入会二年目にGAPの研修旅行でイスラエルに行きましたが、その旅行中、はじめて女性の異星人をお見かけしました。この日の夜にホテルで行なわれた質疑応答会の時に久保田会長

はこの事実をほのめかした上で、宇宙的な印象や、ブラザーズに気付くためには「テレパシクにならなければいけない」と力説されていきました。私はその時から自己の能力を本気で開発しなくてははいけない！と思うようになりました。その理論と方法、そして知識は世界に類を見ない「アダムスキー全集」として今我々の手元にあります。そしてまたアダムスキー氏の偉業を継ぐかのように久保田会長が長年打ち込んでこられた月例セミナーでもその深遠な哲学の解説を聞くことが出来るのです。

そういつた今ある恵まれた環境に気付くことによって、私はようやく初心にかえることができました。そして周囲に次々と起こる現象にも冷静さを持って対処出来る自分を発見し、あの頃に決意した「テレパシクに生きよう！」という純粋な思いが私をこまごまで導いてきてくれたのだと思います。

メロンパン型円盤が至近距離に

さて昨年九月に米ワシントン市で開催されたアダムスキー大会ではUFOが度々出現し、ニューヨークではあのアダムスキー氏が撮影した金星の大母船と全く同じタイプの母船を目撃することが出来ました(本誌一三二号参照)。今やアダムスキー問題において、特に我々人類が応用すべき宇宙哲学を

全面にレクチャーされているのは他ならぬ日本GAPの久保田会長において他には見当たりません。

最近あの時出現された大母船に乗っていた大勢のブラザーズのことをよく考えます。そして「我々は何を為すべきか、何処へゆくのか」と自問自答を繰り返していますが、そんな私の想いに呼応するかのようにUFOは現在も出現し続けています。

昨年一月には地上10〜15m前後の上空に直径1〜1.5mほどの小型の円盤(そう、まさにメロンパン型の!)が突然出現しました。至近距離で目撃するのはほぼ一年振りでしたが、実はこの日の朝にも都内のある地区で同様の小型円盤が飛翔しているのをカメラに収めていましたので、二重の驚きとなりました。

しかし一日に二度も同じようなUFOが出現するとは夢にも思わずに(ちなみにこの日の朝の夢は超能力者の清田益章氏と共に念写する夢)いました。なぜか二度目の出現の時にはカメラを向けて写す気にはなれませんでした。この小型円盤は一軌道上を非常に低速でしかも、見たところ高度を全く変更せずに鈍い銀色の船体を時々揺らしながら暗闇に見えなくなっていました。見えなくなる前には全体を何度も規則正しく回転させている様子が見えませんでした。

ますますアダムスキー哲学を学ぼう

このように日本GAPに入会させて頂き、久保田会長のもとで学んでゆくうちに本当に様々な体験をすることが出来、また少しづつではありますが、宇宙的なフィーリングも身につけられてきたようにも思います。

久保田会長が力説されている二〇二〇年前後に太陽系の真相・UFO問題の真相が一般大衆にも広がるという予言がありますが、我々はその日が来るのを待つばかりではなくその瞬間が訪れるまでアダムスキー氏や久保田会長が示されてきたようにその素晴らしい哲学、生き方をもっと学び、また生活の中で実行してゆかなければならない、我々GAP会員にはそんな責

任があるようにも思います。なぜなら我々はその金星や土星のような進化した惑星の方々がその文明や精神性を維持している「宇宙哲学」を知っているからです。

我々が待ち望んだ日が訪れた時こそ太陽系の真相やアダムスキー氏の体験、そして宇宙の法則という不変のものを今度はアダムスキー氏やブラザーズのかわりに我々自らが語らなければならぬのだと強く感じます。

ですから私はその日がくるまで自らを久保田会長のもとで磨き、未来を夢見てゆきたいと願っています。我々地球人が一人残らず幸せを感じ取れるように私はこれからもコンタクトを望みながら頑張ります。今後ともよろしくお願い致します。

素晴らしい会合へどうぞ!

「日本GAP東京月例セミナー」

日本GAP東京本部は下記の要領で毎月月例セミナーを開催しています。久保田会長の「生命の科学」解説講義を主体に会員の講演テレビシー練習、質疑応答などで、きわめて高次元な宇宙的雰囲気にも満たされた素晴らしい研究会にご参加下さい。人間が変わります。GAP会員外の方でも参加できますのでお気軽にどうぞ。一同あたたかくお迎え致します。

日時 毎月第1日曜日午後1時〜5時。
ただし5月のみは第2日曜日の12日に変更。

参加費 ¥2,500(終了後別な場所で夕食会。実費)

会場 都内港区東京タワー前「機械振興会館」6階67号室(本年5月より地下3階から部屋を変更)。詳細は本誌巻末「月例セミナー案内」の東京本部の欄をご参照下さい。

▼東京月例セミナーの久保田会長の講義。



● ひろさき 弘前城のUFO



昨年（一九九五年）十一月四日、横浜市の日本GAP会員・谷本秀雄氏が会社の仕事で青森県弘前市へ行き、昼休みに同僚三人とともに弘前城を散歩し、記念写真を撮った（右端が谷本氏。シャッターはタクシーの運転手さんに切ってもらった）。

帰宅後プリントしてみると、天守閣の左の中空に白い点があるのに気づき（下の写真の矢印）、UFOではないかと思ひ大きく引き延ばしてGAP本部へ送ってよこされた（上の写真）。

秋山真人氏の鑑定によると、本物のUFOであるという。撮影時には誰も気づかなかった。

谷本氏は古くからの会員で、一九九一年五月二五日夜、日本GAP東京本部が神奈川県秦野市の栃窪台地で開催したテレバシーコールUFO観測会時に、出現したUFOを見事に撮影した経験がある。このときUFOは自転しながら直線状にゆっくりと飛んだのを全員が目撃した。谷本氏撮影の写真は本誌一一四号五頁に掲載されている。

この日は東京本部とともに全国の一七支部が各地でいっせいにテレバシーコールUFO観測会を開催していずれも素晴らしい成果をあげた。詳細記事は一四号に掲載済み。テレバシーの呼びかけによるUFOの観測を行なえば思わぬ現象が発生することがあるので個人的に観測を試みるとよいだろう。成果があれば本部宛報告されたい。

From Skeptic To Believer

by Joan H. Laurino

ローリーノ女史は米サンフランシスコに住むアダムスキー派 UFO 研究者。以下は昨年9月に米ワシントン市で開催されたアダムスキー大会において行なわれた女史の講演全文。

私達は孤独ではない

お早うございます。本日はご来場頂きまして有難うございました。

まず最初に私はビル・クレンドンがこの大会の直前に他界したことについて心から哀悼の意を表したいと思えます。余命がもう五カ月あればよい

ジョン・H・ローリーノ／久保田八郎訳

懐疑論者から支持者に転向

ことでしょうか。このことはアダムスキー氏にもあてはまります。たぶん私達の三日間の大会は宇宙のどこかに記録されるでしょう！

私達は孤独ではありません。がんばりましょう！

驚くよりも嘲笑する方が容易

私はこの素晴らしい聴衆の皆さん方を前にして、ジョージ・アダムスキーという魅力的な人に関してお話しできることを無上の名誉に思っています。ここで一つの屋根の下に集まって情報を伝

つたのに！

(訳注)クレンドン氏はアダムスキー型円盤の推進理論を研究していた人の大会にも出演の予定であった) 彼と私の友情は六年間続きました。この会場に見える掲示は彼自身のスローガンでした。それで彼に対する献辞としてあの言葉が掲げられたのです。

(訳注)演壇のうしろに「あなたの UFO に三個の球(球形着陸装置)が付いていなければ我々には不要だ」と大書した掲示がある)

もし彼がここに参加していれば、最前席に座って楽しく時を過ごしていた

えあうことは不思議な感じがします。

その情報の多くは私達に知られていないかもしれない。ここにいる私は、以前は(アダムスキー問題を)疑っていました。今は信じています。それでこれから私が不信を起こすものになった物事を少しお話し致しましょう。その中には他人の意見をやつつけようとする人達のことも含まれています。

まず第一に、ジョージ・アダムスキーの言葉そのものから始めるのが妥当だと思います。それは何かの新しい物事に関して人間が起こす恐怖の要素に言及したものです。次のとおりです。

「本書に掲載されている写真類で裏打ちされた体験記を信ずるか信じないかは各人の自由である。しかし本人がどのような個人的結論を出しても、UFO の存在の事実を決して変えることは

できないことを各人に気づかせておきたい。というのは、このことを立証するには、ほとんどいかなる年でも、どの時代でも歴史の頁を開きさえすればよいのだ。大衆の概念の中にあつて俗



▲講演中のローリーノ女史。撮影／伊藤芳和

事に執着する人間は、自分の住む無限

の宇宙で発見を待っている不思議な物事について、自分の狭い知識に気づくよりもむしろ、新しい驚異的な物事を嘲笑する方が容易であることを常に

見出ししている」

当初は関心に満ちていた

さて、私は決して俗物根性は持ちま

せん。私の十代の始めの頃は、天文学や当時はやりだした空飛ぶ円盤の問題に興味に満ちたものでした。そうです、私は未知の物を一目見ようとして、星々に満ちた空を凝視したものです。一九五四年に私はついに二個の赤い円盤型物体を夜間に見ることに成功しました。しかし、皆さんが信じようと思いません。自由ですが、私はそのことをすっかり忘れてしまったのです。

私のUFO研究資料の源泉はキーホー中佐やその他の有名な研究者の本でした（訳注||キーホーは昔のアメリカの有名なUFO研究者で、アダムスキーを攻撃した人）。そしてきわめて短時間で私は天空に関する自分の個人的な真実を確立したのです。つまりUFOの存在は真実であり、宇宙空間から来るにちがいないと思つたのです。というのは、宇宙旅行は常識として通用することですし、当然のことながら我々地球人は決して唯一の人間ではありません。

私はなんとしても自分の考えを他人に伝えたいと思つていましたが、やがて否定的な関心のない嘲笑する人達に出会いました。これは予期されたことです。むつかしいことではありません。

しかし否定派になつた

私はアダムスキーの体験記を、知識のための扉を開き、人類に希望を与え

るものとして、身震いするほどの内容をもつことがわかつていました。これによつて人間は変わるでしょう。

しかし多くの人と同様に私もつまづいたのです。そして懐疑論者、悪口屋、それに今も広がっているデマ情報を盛つた途方もない大皿を差し出したUFO研究界の誤つた信条などの手に落ちてしまいました。

しかし、空軍のおおやけの立場に関連してアダムスキーに対する絶えまない酷評を聞いてから、私は胸が悪くなつてきました（訳注||米空軍は公式にはアダムスキーの主張を認めていないが、これは表向きなこと、実は凄いい秘密を握っている）。それでアダムスキー問題のすべてを棚の上にあけて、私は普通の生活を続けることにしました。十代の若い娘にとつて、この重要な問題を理解するにはまだ未熟です。なんといつても私は成長しなければいけない。それだけだ！ そうすれば物事はうまくゆくのだと思ひました。

ふたたびアダムスキー研究を開始

奇妙なことに一九七四年になつて、またもUFO問題が私の心をとらえて、二〇年前のUFO目撃をよみがえらせたのです。私の心が天空の彼方に向いたとき、あの目撃のような重要な体験をなぜ忘れてしまったのかと、完全に畏敬の念をいだかせたのです。

復活した熱意が大きく盛り上がり、まもなく私はあるUFOライブラリーと研究センターを見つけましたが、これは現在までの三〇年間のUFO研究を続けさせてくれた巨大な土台になりました。当時は知識を吸収しながら刺激的な日々をすごしたものです。

しかしこうした研究は、私がアダムスキーの体験記のをしぼらない限り完全にはならなかったのです。暴露屋達の言うことが研究の焦点になりましたが、彼らの信頼性には疑問をもちました。

真実を必死になつて隠そうとし、既成の科学的な考え方に反する発見事を無視しようとするのは、いかにも正統派らしいやり方です。彼らは事実の可能性を考えもせずに、軽蔑感をもって画期的な発見を論争して嘲笑するのです。UFO研究界の中では、多数の人がコンタクトイーの実例を認めようとはしません。というのは、私達の宇宙の友（異星人）から寄せられる情報は、恐怖、無視、または頑固さなどと無関係な言外の意味を具体的に表現しているからです。

卑劣きわまりない策動屋

アダムスキーは結果的にこうした悪口屋、すなわちサイレンス・グループを作りだしました（訳注||サイレンス・グループというのはアダムスキー

の宇宙的な体験記を抹殺しようとして暗躍する団体）。私は彼らの態度を調べて、そのいやらしい手口の内容を発見したのです。彼らは究極の証拠を求めて騒ぎまくりました。それにもかかわらず誰かが非常にすぐれた性質をおびている明白な証拠を提示しても、結局はよく似た替え玉を使って結末をつけたり、ゆがめたり、混乱を巻き起こしたりするのです。

こうした策略のすべてが失敗したならば、代わりの古い物事を持ち出して利用し、人格の抹殺さえ行ないます。もつと過激なレベルでは、法律上の策略を弄してUFOの目撃者や研究者を刑務所へ放り込んだ例もありましたし、脅迫や殺すという脅しもありました。（訳注||これは昔のアメリカの話であつて、日本ではこんな事はない）。もうこんなことはたくさんです。

しかし私達の知性にケチがつけられてきました。だが誰も気にしません。一般の大衆はそれを信じています。それだけで充分です。問題なのはそれだけです。誰も調査をしようとはしていません。

ここで私は、科学的な洞察力をもつて自分達の見解を公平にみなそうとする善人や正直な懐疑論者を尊敬しようと思ひます。彼らは真実をわざとゆがめたり愚かな話をしたりしてはけません。注意してみますと、こうした善良な懐疑論者は私達を活発にしてくれる

偉大であったアダムスキー

そこで私は世界で教えられてきたこれまでの多くの教えや学説にしたがつて、オーソドックスの宇宙科学や宗教に疑問を持つようになりました。科学は私達の生涯で偉大な発展を上げてきましたので、多くの古い発見事をも消し去ってしまいました。その結果、論理と可能性の領域の中にあるものとして、ジョージ・アダムスキーの体験を熟視したのです。

ああ、自由に考えることにいかに大きな報いがあったことでしょう。私は皆さん方がご存じのように宇宙飛行士達によって確認されたアダムスキーの体験記のすべてをここで挙げるつもりはありません。それを聞きたければ、あと二日間に私よりも有能な他の講演者のお話を聞くとよいでしょう。

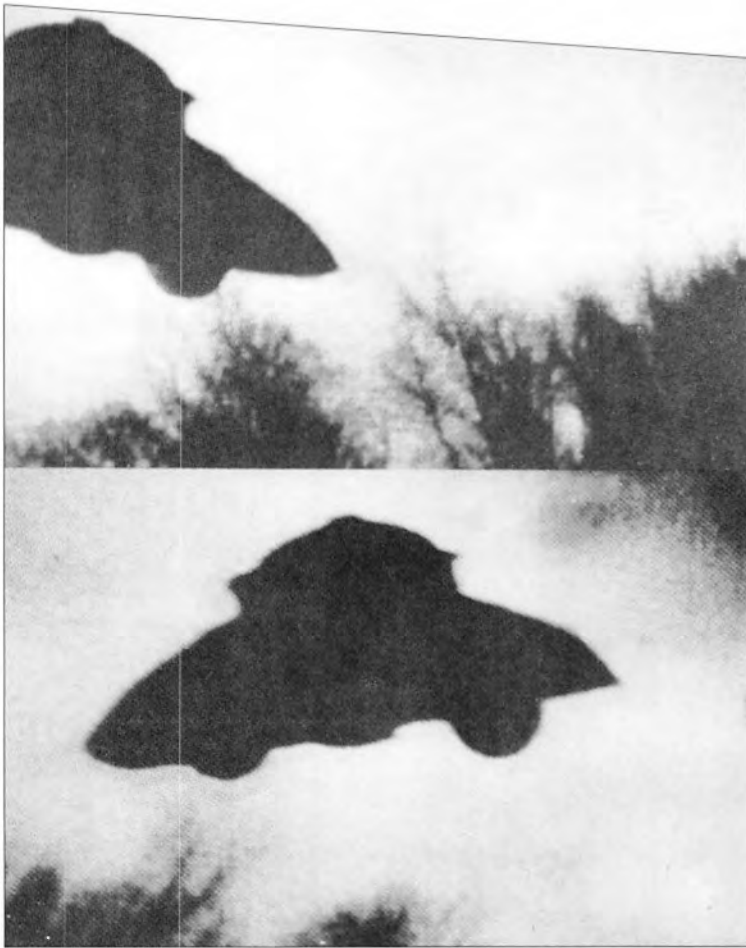
私達はマデリン・ロドファーがシルバースプリングの彼女のお屋敷の上に滞空したスカウトシップを撮影した記憶すべきフィルムを決して忘れないでしよう。あるいはユリアナ女王をアダムスキーが訪問した事、そしてローマ法王ヨハネ二三世、その他の王族との個人的な謁見をも忘れることはできません。

アダムスキーの全生涯と多くの小さな物事は実際私の知性を驚かせました。

●ロドファー円盤

1965年2月26日、米メリーランド州シルバースプリングの自宅でアダムスキーと談笑していたマデリン・ロドファー夫人は、突如庭に超低空で飛来して木の葉運動を続けるスカウトシップ型の円盤を8ミリ映画撮影機でキャッチした。この写真はその中の2コマ。問題になった写真だが、それについては本文の最後に編者が注釈をつけている。

▼下は昨年9月にワシントン市で開催されたアダムスキー大会で講演するロドファー夫人。
撮影/伊東芳和



そして非凡にして素晴らしい人であり、また真面目に解釈すべき人物としての彼に注目したのでした。アダムスキーは自分が撮影した写真に関してお金を要求したことは決してありません。多くの人はお金を欲しがるのですが、彼は決してお金向きの人間ではありません。彼は決しておかしな教団を始めたわけではありません。むしろこんなものを彼は遺憾に思っていました。晩年になっても彼は謙虚であり、貧しい紳士であり、疲れきっていても講演を行なうことを望んでいました。

証拠とは何か

ここで私は『証拠』についてお話し致したいと思います。一人のコンタクトイヤーの体面というものは、関係者としての目撃者、家族、友人達の正直さを問題として調査グループの完璧な方法にもとづいています。したがって、いわゆる証拠なるものは調査する人の心中に存在しているのです。私はアダムスキーの支持者である多くの人と会って友人になりました。

の特権を持っていました。晩年の彼女は療養所で暮らしており、「最も幸せな在院者」と言っていました。なぜならスペースビープルからアダムスキーに伝えられた哲学に絶えず関心を持ち続けることができたからです。それは彼女の心に活気を与え続けたのです。(訳注)ドラー・パウアー女史は昔アダムスキー健在の頃にオーストリアGAPを主宰して活躍していた。訳者もずいぶん文通を続けたが会ったことはない。精神的に非常に高貴な女性であったと聞いている。晩年に彼女の所有するアダムスキー関係の資料をすべて訳者に譲渡したいと言ってきた。療養所宛に返事を出したが、なぜか届かなかったと思われる。だがこの資料はある有望な人に譲られたので安心していい。

私はセンチシヨナルな事を求めているわけではありません。宇宙的な真実だけを求めているのです。これが収穫として存在するのです。

私は今日ここに来ましたが、それは常識を用いながらはるかに理解を深めたからです。そして真面目な探求を続けましたが、これは知覚することにした。私達人間は暗黒の中に滅びないようにして、集合的または個人的な信念の箱の外へとときと足を踏み外さないように気をつけるべきです。一〇年間に新しいアイデアを持たなかった人々

私はアダムスキーの協力者であるオーストリアのドラー・パウアーと文通す

と会うのは退屈なものです。

私達は何をなすべきか

終わりに私はお尋ねします。私達は未来にたいして何ができるでしょうか。私は自分達が真実であることを知っている物事を緊急に実行に移すことにあるとみています。時間は短いのです。スペースビープルから人類に与えられたメッセージは「神意」その他と呼ばれるものと「宇宙の真実」なのです。アダムスキーは良き世界をめざして人類にこの「真実」をわかちあたえようと真摯に努力しましたが、これはすべての人々のためであり、すべての時代のためでもあります。個人的には私はアダムスキー氏と今日ここにおられる支持者達に名声を与え続けて、豊かな精神が存在するところに関心を高め続けようと思います。私の話をお聞き下さいまして有難うございました。お話し致しましたすべての事を考え学ぶためにこの週末を休暇にとつて下さいました皆様方を私は心から愛します。この大会で伝えられた事柄のすべてにご注意をお払い下さい。この大会はもつと早く開催されるべき性質のものであったのです。

皆様方、ごきげんよう。

編者付記

昔からの文通仲間でありながら昨年

のワシントン大会で初めて会ったジョン・ローリーノ女史は、きわめて快活な笑顔を絶やさない女性であった。年齢よりも一〇歳ほど若く見える。明るい想念の持ち主は年をとらないという法則の体現者と言えるだろう。一時は懐疑論者でありながら、結局信奉者に転向したというのは、ネが高次元な宇宙哲学と、それに関連したUFO問題を研鑽する体質であったからであらう。

マデリン・ロドファー夫人のアダムスキー型円盤フィルムについてはひどい批判があった。窓ガラスに円盤の絵を貼りつけてカメラを動かしながら撮ったという誹謗は今も続いているようだが、編者がアメリカで徹底的に調査した限りでは疑念の余地のない真実そのものの写真であることが判明した。だいいち当時社会的地位の高かった夫君と暮らしていたロドファー夫人が、子供だましトリックを用いてニセ写真などを撮影するればどのような結果になるかは常識ある人なら見当がつくはずだ。またアメリカは、欺瞞事件を起こせば徹底的に調査されて本人が恐ろしい報いを受ける国であることは種々の事例で示されている。

ワシントン市のアダムスキー大会でも夫人は堂々と体験を語り、アダムスキーの高貴な人格を讃えていた。

論争のむなしさよりも人間の多様性を感じさせる世界だ、ここは。

アダムスキー哲学と波動感知法

●林 国宣 （日本〇〇〇〇〇〇古風支部代表）

〔一〕波動感知とは

アダムスキー哲学の特徴といえ、心と意識の一体化、英知・フィリッパ・波動のありよう、そして、宇宙空間の知識として、我々の太陽系内には地球を含めて一二個の惑星があり、地球以外の惑星にはすべて、地球を遙かに凌駕する文明を築いているというこれらの点が、おもにスペースブラザーズを通じてアダムスキー氏から私達にもたらされています。

それらの内容の知識・情報は新アダムスキー全集全一〇巻のなかに紹介されていますが、そのなかでも第二巻の『超能力開発法』のまえがきの後半にある一節を、いま一度みてみますと、「真の警戒の状態とは、意識的意識（自分の心を大宇宙の意識と一体化させた状態にして、外界からくる波動を感知しようとする）であって、これこそすべてを包含する宇宙的な知識です」とあります。これは、アダムスキー哲学のひとつのポイントですが、波動感知は最も重要な要素として示されており、波動感知がすべてであると

いつても言い過ぎではないほどのテーマであると思います。

波動感知について特にアダムスキー氏は、「テレビパシーを発信することは容易であるが、受信することは発信より困難である」と述べています。

波動感知の奥はかなり深いようです。私はその第一歩を踏み出したばかりのところ、その道のドアをようやく開いた状態です。前回の記事以降、若干分かった内容をこれから紹介したいと思えます。（編注＝筆者は本誌一九九号に『サイコメトリーによる書物の質の感知法』と題する記事を書いている）

〔二〕波動感知の体感

〔一〕波動の拡張と集束

万物から放射されている波動とは、いったいどのような感じのものだろうか。それは新アダムスキー全集の各所にさまざまな角度から分析され述べられています。特にオープンマインドという表現がありますが、あらゆる想念波動を注意深く観察し、心の拡張により、内奥の意識に従ったプラスの指向

の想念波動のみを受信することが重要であり、基本であることが述べられています。

波動感知について前回の記事では、書籍を中心におこなってまいりましたが、そのとらえ方について、まず全体的な感覚を、大きく分けて二つに区別するならば、フィリッパが自己の内部分から拡張する場合と、集束する場合とに大別されます。あえて述べますと前者がオープンマインド、後者がクローズドマインド（アダムスキー氏の著作のなかにはこの表現はありませんが、あえて表現します）に、いいあらわせると思えます。

この区別には、基準がありません。どちらかという相対的なもので、二つの物の波動が交流し合う時に生じる現象を、結果的に表現したものとして、こういった場合の分析の一手段と考えていただければよいかと思えます。

オープンマインドの最高の波動として、アダムスキー氏が撮影した母船やスカウトシップなどの写真から放たれている波動を基準とすればよいかと思えます。その点からいえばアダムスキー氏が撮影された母船などの写真は、

撮影されたそのことに、重要な意味があるように思えてなりません。

さらに、波動感知の結果は自分自身の変化にともない感覚的に微妙に変化していくようです。けれど対象物に基本的に感じる大まかなパターンに変化はあまりないようです。

特に自己トレーニングを継続していけば心の成長を促進するため、感知結果が依然のあり様とは少なからず異なり、傾向的にはよりプラスの方向に、それも、アダムスキー氏の示す、原因と結果の、原因の方向を感知する傾向が強くなってきた自分に気づきます。

基本的には、およそ波動は、オープンマインドかクローズドマインドかのどちらかがベースである感覚に大別されるようです。しかし、すべての万物は創造主のなせるわざと考えるならば、どのような場合でも意味、すなわち原因があつて結果があらわれているにすぎないこととなります。従つてすべてを、「その原因は何か」の方向へ、そして内奥の意識へと、常に自己を観察することが波動感知の姿勢であると思えます。

〔二〕波動の感じ方

〔A〕身体の箇所

大別して以下の種類に分けられます。

- 1) 身体全体
- 2) 上・下半身
- 3) 首から上と首から下
- 4) 頭全体

- 5) 頭の後ろ・真ん中・前
 - 6) 各チャクラの位置
 - 7) 身体から1メートル程離れた空間の箇所・位置
- 〔B〕 感覚的な種類
- 1) オープンマインド指向
 - ・ 解放感／躍動感
 - ・ うれしさ／楽しさ
 - ・ 暖かさ／時には壮快な冷気
 - ・ さわやかさ／すつきり感
 - ・ 活性化される快感
 - ・ プラス指向の感覚の活性化をとまなう痛み
 - ・ 身体の箇所が緩和化される感覚
 - ・ 軽快感／壮快感
 - ・ あざやかな色彩の感覚
 - ・ 心地よい香り
 - ・ 元気が出る／パワーが増す
 - ・ 美的感覚
 - ・ 思考力が促進される
 - ・ 口中に甘露
 - 2) クローズドマインド指向
 - ・ 締め付けられる感覚
 - ・ わし掴みされる感覚
 - ・ 押さえつけられる感覚
 - ・ 不快な痛み
 - ・ しびれ
 - ・ 不快な冷気／凍気
 - ・ 重くなる感覚
 - ・ 苦しい感覚
 - ・ 疲れる／パワーダウンする
 - ・ 緊張感覚
 - ・ 身体がこわばる

・ 思考力が抑制される
ここで、ふたたびオープンマインドについて記したいと思います。

特にクローズドマインドの特徴として、新アダムスキー全集第八巻第一章の、「おだやかに、賢明に、忍耐強く」の一〇八頁で「一生懸命働こうが働くまいが、肩甲骨間の緊張すなわち、頭部が脊椎骨に連結する場所の緊張は、ひどい頭痛を起こして、洞察力に影響を与えます」と紹介されている箇所が、かなり具体的な参考になります。

ここで、ある方から以前相談があった件について紹介してみたいと思います。相談者の方をAさんとします。

Aさんの話は、「ある方から能力者を紹介されたが会ってもよいか」という問い合わせでした。私はその具体的ないきさつや詳しい情報について聞いてみましたが、Aさん自身詳しくなく、その能力者は関西方面に在住され、かなり高額費用が必要なセミナーや個人指導をされているという程度の情報でした。そこでその情報だけ聞いて、落ち着いて波動感知してみたところ、第三の目のあたりに強い波動を感じ、そこを中心に額から外に向け、感覚的に数十センチの空間まで、かなり強いパワーを生じる手ごたえがありました。と同時に第三の目のあたりを中心に非常に強い緊張感と集束感が感じられました。

実はこの時前回の記事にも協力して

いただいた山本三恵子さんも同席されていて、この情報について感知されたそう聞いてみると、私の感知内容とほとんど同じでした。そこで私はAさんに、「この能力者は、かなりの透視能力者であるが、極端なクローズドマインドがベースにある」という判断を伝え、もしご相談されるなら、かなり厳しいものになるかと思えます、という私の見解を、伝えるまでとしました。また偶然にも、そこに同席されていたある方が、Aさんの情報とよく似た話を他から聞いたと言ってその話をされましたので、こちらも波動感知したところ、感覚的には同じ結果でした。

誰かにパワーがあり超常的な能力があっても、ベースがクローズドマインドの指向の場合、極力警戒する必要があります。ただし完全なるクローズドマインドはありえないと思います。人間は神から創造された分身である魂を有している限り、神の面前にいてごごとく接するのがアダムスキー哲学の学びだと思えます。従って常に建設的な表現をするならば、アダムスキー氏が提唱するオープンマインドのみの表現に結論づけられることになりません。結局は、いかに自己トレーニングを継続・持続し、身体・心を積極的な緩和状態、または厳しい活動状態にするかが、ポイントであると思えます。

(3) 人物の波動感知

まずは人物からくる波動感知をおこなってみたいと思います。今回も先程述べました。山本三恵子さんに、前回同様、波動感知の協力をお願いしました。試料は次のとおりです。

- (1) アダムスキー氏の写真
 - (2) 久保田会長の写真
(九五年度総会翌日の新宿御苑での記念写真)
 - (3) 秋山眞人氏
(本誌一三二号掲載、九五年度総会での講演中の写真)
 - (4) アダムスキー研究者Xさん
 - (5) 霊能力者〇〇さん
- ご本人の著書の表紙写真。

(4) アダムスキー撮影の母船・スカウトシップの波動感知

- (1) 金星の母船
- (2) 金星の深海タイプの母船
- (3) 金星・土星の母船・スカウトシップの図解で、金星と土星の特徴の違い
- (4) Uコン1三1号一頁の雲に映った黒いスジ状の写真

(5) 波動感知の方法は

前回の内容では、対象物の上に手をかざして行なう方法の紹介でしたが、

その後、ある程度実験を繰り返した結果、以下の方法でも可能とわかってきましたので、その方法を述べてみたいと思います。

(1) 目で見て感じる。視線で感じる。

(2) 第三者が対象物を手にしている状態を感じる。この場合、第三者が対象物の波動感知をしている、いないは無関係。

(3) 対象物を名称なり、言葉なりを具体的に発音して感じ取る。

(4) 対象物をイメージして感じ取る。

(5) 口頭で話す話題を感じ取る。

以上の方法にても、感知程度の度合い差は少々あるようですが、波動感知が可能と分かりましたので、今回は特に方法を限定せず、そのつど随時適用して波動感知をおこないました。

全ての物から発する波動・フィーリングなどは直接身体・心で感じることができるという意味でご理解していただくと同時に、感じるためには、空間と距離はあまり影響がないということを強調したいものです。さらに、いろいろな感覚を感じていながらも、これが反応なのかと気づいていない場合もありますので、よく自分の想念も観察する必要があるかと思えます。

(6) 波動感知のあり様

(1) 自己トレーニングを開始し、ある程度経過すると、波動の感知はでき

るようになりませんが、感じ始めの最初は、特徴としてどちらかというと、対象物のよくない面・箇所を見る傾向があるようです。大抵の場合、人はどうしてもネガティブな面を先に見る習慣的な傾向があるようですが、波動感知もそこから入るため、内奥の意識に焦点を合わせてゆくのに、非常な忍耐を要します。つまり、自分の心の状態が宇宙の意識とかなりかけ離れた状態から波動感知が始まりますので、感知が始まり出した時がスタートであるという自覚が必要です。ネガティブななかにも、どういった点がプラスなのか常に内奥の意識に焦点を合わせていくことがポイントとなります。自己トレーニングを励行していくことで、次のステップアップの目標を持つことができると思えます。

(2) 自己トレーニングを毎日励行していくと、身体の内部よりある種のパワーが出てくる感覚があります。このパワーには、全身の外側まで広がった生命エネルギー的な波動のパリアーのような感覚を感じます。この波動のパリアーが生じてくると、傾向として、感覚が自動的にネガティブ指向からポジティブ指向へと変化していきます。いいかえれば、ネガティブな波動よりも、よりポジティブな波動を選択するようになります。

(3) 新アダムスキー全集第八巻第五章、「個人の分析と想念のコントロ

ール」のなかで「各人は人間としての想念を高めるために、自分自身の方法を発見しなければなりません」とあります。結局自己トレーニングの方法は、自分で見つけなければならぬようです。

私の最近感じたことで、自分自身の心の波動、どちらかというと魂意識に即していない習慣想念の波動は、ある独特な感覚で体感されるようになってきました。それは、自分自身を客観視する自己トレーニング中、首から下、腹部から胸にかけては、かなりなスムーズさを感じるのですが、首から上は、イメージした空間が微妙にずれる抵抗感を感じます。首から下と頭部とのわずかな相違も、自己トレーニングを継続するなかで、ひとつの手がかりとなつてきます。いずれにしてもこの感覚は私個人のものでありますので、あくまで参考にとどめていただきたく思います。

(4) アダムスキー氏は自己トレーニングについて「生命の科学」で両手を見つめる方法を紹介していますが、この方法は心を自動的に活性化させるのに大変よい効果をもたらすことがわかってきました。身体の生命力を司る太陽神経叢から下の箇所と、どちらかというと精神的な面を司る胸から上の神経中枢とが相互交流し、融合的現象を促進して心が活性化されるようです。その結果的現象として、呼吸が深く整

つてきて、呼吸とともに内奥のパワーが増大してくる感覚があります。両手を見つめる方法は、結果的には呼吸法としても十分考えられると思います。

(5) 対象物が目の前になくても、情報、話題等でおおまかにその波動のあり様を把握することもできるようです。これは、できるだけ詳しい内容で、そしてターゲットを明確にしたうえで、内奥の意識に問いかける方法ですが、言葉聞いて即印象を感じるほどの瞬時の感知もあります。

(6) 波動の感知は、心霊的波動、すなわち肉体からくる情報の波動感知も十分考えられます。心霊波動には独自の波動があり、その判断はすでに前述しましたので省略しますが、心霊波動に影響されないためには新アダムスキー全集に掲載されている母船やスカウトシップから放たれている波動の、特に特徴的なものとして、全身の解放感、快感、強力壮快なパワー、精妙さ、心地よさ、そして、心が無限に啓発され拡張されるような臨場感を基準にして、それを記憶していれば、心霊波動はある程度、意志力でもって影響されずにつきまします。

(7) さらに特殊なケースとして、自己トレーニングのさなかに、なんともいえないほどの力強さはつきりした、イメージとも言葉とも異なる、明瞭なある独自の感覚で、強烈にメッセージがほとばしる体験をしたことがあります。

す。

それは「GAP活動をさらに強烈に励行すべきだ」という内容のメッセージでした。この内容を言葉にすれば簡単にようになりますが、あれほどまでの強烈な印象は全く初めての体験でした。

これと同様に、自己トレーニング中にさまざまな疑問や悩みの解答が、一瞬、内奥からフツとこもり出される時が多々あります。ただし、これらの疑問等をただ頭で考えるだけに行っているパターンではあまり出てきません。身体と心が活動的なりラックス状態である時のほうがはるかに内奥からのメッセージを把握するのが容易です。

(8) 特定の対象物を人が手にした時も波動感知ができるようです。同じ対象物でも持つ人が変わると、個人差があり、受ける感覚は異なります。

1) 感受性が強い人ほど、対象物を手にしたとき、こちらの波動感知は容易で、感じるパワーも大きく感じられます。いいかえると、それを持つた人の感受力、心の拡張の度合いがパワーとして感じられます。

2) 持つ人により、質的にも異なるようです。

3) 波動感知は心を介して緩和するものであるため、持つ人とこちらの心の状態の相対的なからみによって、微妙に変化するようです。

(7) 能動的なころみ

波動感知の方法でも述べましたが、視線での波動感知も少々できるようなって来たようです。そこで、逆に対象物に波動を与えて影響をおよぼすことはできないかと考え、たまたまコーヒーでそれを試してみました。まず、カップのなかの液面を視線でとらえ、あきらかにカップとは感じ方が異なることがわかりました。そこでまず頭の中にコーヒーのイメージを持ってきて一体化するのです。時間にして数秒ですが、イメージする前と後では、比較するとあきらかに味が異なります。これは複数の人に複数回試みましたが、この「味が変わる」と意見は一致しました。

味の変化としては、マイルドになるようです。タバコもしかりで、一様に味が軽くなるそうです。しかしこの場合、吸う楽しみが半減するとひんしゅくを買うことが多く、私はいたずら心も手伝い、特にひんしゅくを買う場合、一箱丸ごとイメージして、こっそり味を変えておくようにしています。

ところで、この方法をほかに応用できないものかと思っていた矢先、ある知人から、知り合いの人でひどい頭痛を起こす人がいて苦しんでいると聞き、このイメージ法を試みようとして、約一〇分程度おこなってみました。その方は

私の所から二〇キロ離れた所に住んでいるそうですが、後日知人にその方の様子を聞いてみたところ、私がおこなった翌日は、かなり症状がよくなっていったとのことでした。痛みが軽減したのは、ほかの要素もあるかと思いますが、このような状況で何件かおこない、良い結果がみられたことから、距離が離れていてもイメージ法で症状の緩和ができることがわかりました。軽症、重症及び本格的な効果を及ぼすということについては、まだまだこれからの課題であると考えています。

とにかく自己トレーニングを実践するにつけると思っています。

(まとめ)

(1) 波動感知は誰でも可能です。できないという意見に対して私は「自己トレーニングを自分で構築し、毎日励行することで波動感知は可能です」と伝えていきます。

まずは、実行の目的と意志力が重要です。

(2) 継続と繰り返しが必要なポイントです。毎日五分でも実践することによって効果が生じてくるようです。しかし数日間ストップするとすぐに元の状態に戻るようです。ただし波動を感じ始める時は、微弱な感覚であるため、よく観察することが重要です。感知しているながらも、それに気がついていない場合もあるようです。

(3) 自己トレーニング法は、アダムスキー氏は「各自で想念を高めるために自分で見つけなければならぬ」と述べていますが、『生命の科学』のなかで、両手をみつめる方法が紹介されていますので、この方法を選択してもよいと思います。

(4) 波動感知についてはまだ第一歩を歩き始めたところです。今後も自己トレーニングを継続していくなかで、新たな発見が待ち受けていると思いますが、とにかく励行していく途上は、かなり楽しいものと気づきはじめています。

四感を越える意味、示唆、メッセージ等がわかり始める傾向が出てくるとより探究心が強くなり、自己トレーニングを継続する意欲が生じて、プラス指向が強まってくる自分に気づきます。

(5) 波動感知をおこなってきたなかで、特にスペースブラザーズに関しての情報や、UFOに関連のある波動には、特有の波動があることが感じられてきました。UFOに関しては、光体を目撃した時だけでなく、目撃の手書きのイラストを見た時でも、ある種の感覚が明確に感じられるようです。しかし、感じることも非常に重要ですが、自らがそれに近い波動を発する側になることを目標としたいものです。UFO目撃について少し述べてみたいと思いますが、これも波動感知の延

長線上で考えるならば、切っても切れない位置づけになると思います。すなわち、UFO目撃、想念観察、自己トレーニングは、三種合わせてワンセットというものであろうと考えます。そしてそれらを実生活に生かし切っていくことが、今後はさらに重要なテーマとなるように思えてなりません。

アダムスキー哲学を生かし切るためには、徹底して継続と、第三者を主体として何を提供してあげることができののかという非個人的な姿勢を常に意識し、そのなかで、内奥の印象をいかにとらえ、いかにかもし出していくかということが、結果的には、自己成長へと繋がることだと思います。

UFO観測においては、これらを常に意識し、また、自己トレーニング中に感じた印象、フィーリング、イメージ、そして新しい建設的な視点で考える目的、テーマなどを、あらかじめ決めてレバシーコールする姿勢が重要だと思います。こうした姿勢を持つことで、明確にUFO目撃をすることができると思います。

ただし今年に入ってから昨年末までの光体出現パターンが全く変化してきた感じを強く受けます。しかしこの傾向は全くの個人的見解ですが…。

私はそれらの目標を毎回、簡単なイラスト入りで記録していますが、そのイラストや紙面からも、あきらかな波動として印象を感じることができ

ようです。

いずれにしましても、アダムスキー氏を通じて私たちにもたらされた知識・情報は、新アダムスキー全集から必要以上に手にすることができず。要は、これを生かしていくことだけだと思います。

最後に、久保田先生からこのような機会を今回も与えていただいたことに深く感謝致しますと同時に、波動感知の作業に協力いただいた山本三恵子さんにもお礼を申しあげさせていただきます。

▲林国宣氏と山本三恵子さん



●アダムスキー氏の写真

▼最も好まれるア氏の写真。



感覚	身体	林
<ul style="list-style-type: none"> * 背骨から後頭部にかけて快感。 	<ul style="list-style-type: none"> * 太陽神経叢が熱くなる。 * 力強い解放感が全身にいきわたって体の外に解放される。 * 胸とみけんのチャクラが活性化される。 	山本
<ul style="list-style-type: none"> * やわらかさとやさしさが溶けたエネルギーが、外に広がってゆく感じ。 * 背骨に快感。 	<ul style="list-style-type: none"> * 胸、みけんのチャクラが活性化される。 * 外に向かつて気が放射される感じ。 	

●久保田会長の写真

▼1995年度総会翌日の観光(2列目中央)。



感覚	身体	林
<ul style="list-style-type: none"> * 安定感とやさしさ。 * 解放感。 	<ul style="list-style-type: none"> * 胸のチャクラから上へ、パワーがみなぎってくる。 * みけんのチャクラが活性化。 	山本
<ul style="list-style-type: none"> * やさしさとソフトな感覚。 	<ul style="list-style-type: none"> * 胸とみけんのチャクラに快感。 * やさしさを含むエネルギーのような感覚が上昇し、胸のあたりから放射状にやさしくひろがる。 	

コメント	感 覚	身 体	
<p>のか？</p> <p>『「気で心と体が変わる」秋山眞人著TBSブリタニカ刊の写真から感じることで、心のエゴの要素が意識と一体化した解放感を強く感じる。どのようにしたらこうなるのか？』</p>	<p>*力強さ。</p> <p>*「オープンマインド」。</p>	<p>*胸のチャクラの活性化。</p> <p>*全身に快感。</p> <p>*引き寄せられる感覚。</p> <p>*全身の細胞が楽しくなる感覚。</p> <p>*やさしさ。</p> <p>*聡明感。</p> <p>*楽しさ。</p> <p>*フィーリングの拡張</p> <p>(「オープンマインド」)。</p>	林
<p>*九五年の総会でお会いしたとき、その一年前にお会いしたときよりもさらにパワーを感じて、激を与えられた気がした。</p>	<p>*力強さ。</p>	<p>*胸のチャクラの活性化。</p> <p>*胸のチャクラを中心にくすぐられるようなパワーが広がり上昇する。</p> <p>*背骨、うなじに快感。</p> <p>*たのしい感覚。</p>	山本

●秋山眞人氏の写真

▼1995年9月の総会時の秋山氏。



感 覚	身 体	
<p>*集束感</p> <p>*さみしさ。</p> <p>*不快な冷気を感じる。</p>	<p>*胸しめつけ感。</p> <p>*後頭部しめつけ感</p> <p>*全身の身体的パワーのダウン</p>	林
<p>*寂寥感。 <small>せみじょう</small></p>	<p>*頭の中に集束感</p> <p>*胸がしめつけられる感覚</p> <p>*下丹田に空疎感</p>	山本

(以上の他にアダムスキー撮影の円盤や母船の写真類にたいする感知結果が述べてあり、きわめて良好な評価が出ているもの、ここでは省略した)

●ある有名な霊能者(女性) (写真省略)

コメント	感 覚	身 体	
<p>*ポジ面とネガ面が同居。</p>	<p>*やさしさ。</p>	<p>*神経中枢に感じてくるため、ある種の能力が感じられる。</p>	林
<p>*超能力者の感覚を感じる。</p> <p>*写真を見た瞬間、いきなり頭に突き刺す不快な強い痛みが走り、しばらく消えなかつたのが印象的。</p>	<p>*あつた種のパワーが感じられる。</p> <p>*感覚的に少し暖かい面がある。</p> <p>*しかし、ベースはクロロズドマイ</p> <p>ンド。</p>	山本	
		<p>*胸からのど、後頭部が重い。</p> <p>*特に後頭部から頭の芯にかけて痛い。</p> <p>*心臓の左側が痛い。</p> <p>*後頭部をつかまれた感覚。</p> <p>*気がパワフルに上昇。</p> <p>*心臓左側に熱感と痛み。</p> <p>*背骨に快感。</p> <p>*頭に突き刺す痛み。</p> <p>*右半身の女性面の活性化感。</p> <p>*集束した感じのやさしさ。</p>	山本

●あるアダムスキー研究者(女性) (写真省略)

創造のための 宇宙哲学

★佐藤 彰（東京造形大学教授）

先日は大変ご多忙の中を遠路はるばるご来校頂き、ご講演をたまわりまして、まことに有難うございました。私の体育実技関係は五〇名くらいで、一応UFOの話はしてありましたが、荒井先生と非常勤のクラスはしていないわけですから、一〇〇名以上は初めてだったと思います。

初めて先生の話聞いて「エッ！」と思った学生も、先生の丁寧で判りやすい解説に「なるほど」と納得したのではないかと思います。特に太陽の放射線が（または熱が）すべての惑星に平等にあたるようになる原理は、テレビッ子でコンピューターに違和感のない彼らにとっては、ブラウン管を例にした解説で理解できたことと思います。私の大学は開けた大学と言えます。

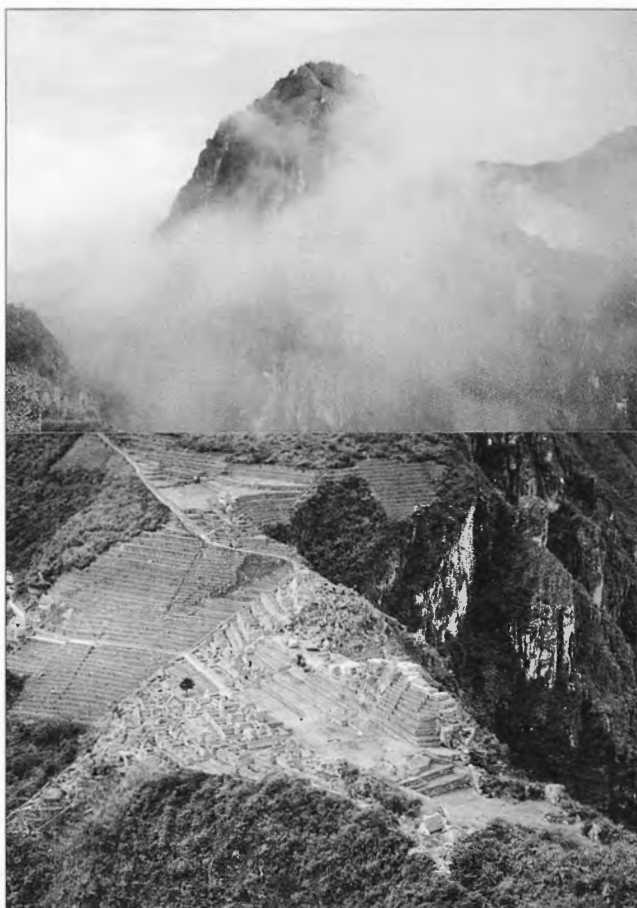
この学生達はあるゆるジャンルで活躍してゆくわけですから、建築にも映像に絵にも彫刻にも、はたまたポスターなどの大衆的なものの創造にもかかわりあって、一般の人に影響を与えると思います。

そのときに頭の片隅にでもUFOや他の惑星の文化を意識していると、それに近い発想がわいてくると思います。

また先生が最後の頃にお話し下さった「宇宙の意識と一体感を持たなくてはならない」という新芸術家像と、「創作の時には他人のマネをせず、個性豊かなくてはならない」という創造哲学は、学生にとっても私にとっても大変重要な示唆を与えて下さったように思います。

そして、何よりも荒井和子先生が、「今までの人生の考え方が一八〇度変えられたような気がする」と、最後にまとめて感謝の言葉を述べられたのが印象的でした。

私が東京造形大学にいて、先生の御身体の続く限り、何十年でもご足労をお願いし、学生達に深い感銘と二一世紀に向けた新しい考え方をご教示願えればと思います。来たるべき二一世紀の初め頃より、UFOが公然と現われて、地球人と他の惑星のプラザーズが仲良くなり、新しい文化や意識改革が始まった時に、卒業生達が「そういえば学生時代に久保田先生とかが学校へ来てUFOや他の惑星の文明の事を講演していたなあ。あれは本当だったんだ！ 私達もたいした大学を出たものだ！」と感心する様子が目に浮かびます。ついでに「佐藤という体育の先生がいたが、もう死んじゃったかなア」などと思いついてくれればと思います。今年は五月頃にまた新一年生を対象にご講演をお願い致します。同封のコピーは、講演会の日に私が読んでいた



▶ペルーの謎の空中都市マチュピチュの端にそびえる聖峰ワイナピチュ（写真上）に登ったGAP会員・高野昌子さん（山形県）が、頂上からマチュピチュを見下ろして撮った珍しい写真（下）。一九九四年末から九五年一月にかけて南米一七日間の旅に参加。

『聖なる予言』の実践ガイドを集約したものです。この小説の最後に精神的に高まった人が俗な人達から見えなくなりません。ペルーの山の頂上で生活した「天の遺跡」の人々が突然いなくなったことを「その民族の人々はすべて精神的に高まって、神になって見えなくなった」という伝説があるそうです。

が、私は他の惑星で暮らせるだけの精神性を持ったので、UFOで運ばれたのだと思っています。

（以上は編者が昨年一二月一日、都内八王子市の東京造形大学でUFO問題と宇宙哲学の講演を行なった件に関する内容。詳細は本誌一三二号に掲載）

宇宙の夢と UFO目撃

★吉川美香（大阪府）

今日ユーコン誌一三二号が届きました。新しい年があげて届くユーコン誌がすごくうれしくて、久しぶりに宇宙的な意識を感じることができました。

すみません。ここ数カ月は何かといろいろありまして、アダムスキー全集から離れていまして、今日のユーコン誌をとて新鮮な気持ちで読むことができました。それで気づいたのですが、私がよく見る夢は目覚めてもはつきりとまだその光景がわかるほど記憶に残るものが多いのに、アダムスキー全集を読まないでいた数カ月間は、全然夢を見た記憶がないのです。何度か友人が出てきたりしても、何も覚えていなくて……特に宇宙的なものを見ていなかったことはわかります。

以前にお便りした夢日記のことですが、UFOどころか宇宙の夢も最近見なくなつたことに気づいたのです。先生に聞いて頂きたい事がないのが残念ですが、実は夢よりもとてもうれしい体験をしました。私は初めてUFOを見たんですよ！

いつもユーコン誌で見る皆様の体験される素晴らしい目撃例にはほど遠いものですが、昨年の一〇月後半だった

と思います。

その日はとてもよく晴れたきれいな青空の日で、友達の運転する車で三國ヶ丘駅近くのケンタッキーへ向かっていました。時間は二時頃だったと思います。私は助手席から正面の広く見える空を自然とながめていました（以前はよくUFOが見えないだろうかと空ばかり見ていた時もありましたが、最近はそのうしくなっていました）。

すると正面の空に銀色つぼい丸いものが（楕円形）本当に正面上に動いたか動かないかのスピードでゆつくりと少しづつ左の方向へ動くのが見えました。青空の中に飛んでいるそれがあまりにはつきりとみえるので、「ああ、飛んでるな」とただ無意識に思っただけでしたが、空に飛んでいるのは飛行機だという考えも何もなく、ただ……そう思ったんです。すみません、うまく説明できませんが、そう思ったんです。

でもすぐに「あれっ」と心中に何か疑問に似たものを感じて、「えっ……まさか！」と思った瞬間、その飛んでいるものの左側が急に二回強く光つたんです！太陽の光を反射して光つただのだからと思いますが、まるで手前に太陽の光を反射させたように、タイミングよく光つたんです。キラッ、キラッと。そのときになつてやつとUFOだとわかつて、「あ——っ、UFOだ！」と心の中で叫びました。

そのとき車が目的地をめざして左へ曲がり始めました。その瞬間、視線が別の方向にそれて、すぐUFOを確認しようと思つて見たのですが、いたところに再確認できず、車が建物のかげに隠れて行きましたので、あつというまに見失つてしまいました。

ほんの数秒だったと思うのですが、ボーゼンとでもいうのでしょうか、なんと心地のよい期待や満足感ではなくて、見たという確信がありまして、それを感じてから隣の友達に、「今UFOを見たよ！」と叫んでいました。夢の中で今までたくさん見てきたUFOを見たときの絶対的な「見た」という感じが同じなのです。

うまく言えませんが、なんか今までとは違う不思議な感じでした。友達も飛行機だと思つているようですが、運転に集中していて全然見えないので、思つても仕方がないのですが、もともとUFOをあまり信じていない子なので、一緒に見て飛行機だと言うでしょうね。

彼女にしてみれば、UFOの存在を認めることが怖いのだそうです。認めたくないらしく、興味があつても関係ないのだそうですよ。私がアダムスキー全集の話をしているために、興味は以前より持つてくれたにはいるのですが、何よりも見たことがないから信じられないという気がするそうです。でも見たことがなくても信じていた者（私）

がここにいたんですけどね。

その目撃の時までアダムスキー全集のことを完全に忘れていましたから、思いださせてくれたのだと、自分で反省しました。「これではいけない、宇宙的な意識の中に自分がいないぞ！」つて。でもその日は車の移動中、いつになくともリラックスしていた自分を思い出します。UFOを見るのに感情や精神的な面で何か関係があるのでしようか。

話は変わりますが先生は同人誌というのをご存じでいらつしやいますか。以前お便りしたときに私は漫画家の夢があると書きましたが、昨年、あるゲームがきっかけで、よく行くゲーム屋さんの店長さんに私と同じゲームが好きな女の子がいると紹介してもらつたのですが、その時から一度に環境が変わりました。私は昨年のUFO目撃後に漫画の本を作つて東京の晴海のイベント会場へ売りに行きました。

会場は活気に溢れていました。全然知らなかつた世界ですけど、その友達との出会い後、少し何かの道が開けてきたように思います。欲しかったワープロが安く手に入つたり、私が描いた漫画が採用されたりと、絶対に夢は実現するのだと信じています。活動の楽しさや楽しい事を考えるという気持ちが高揚して何でも出来るのだと思えてきます。アダムスキー全集を読んだ時からそうなります。

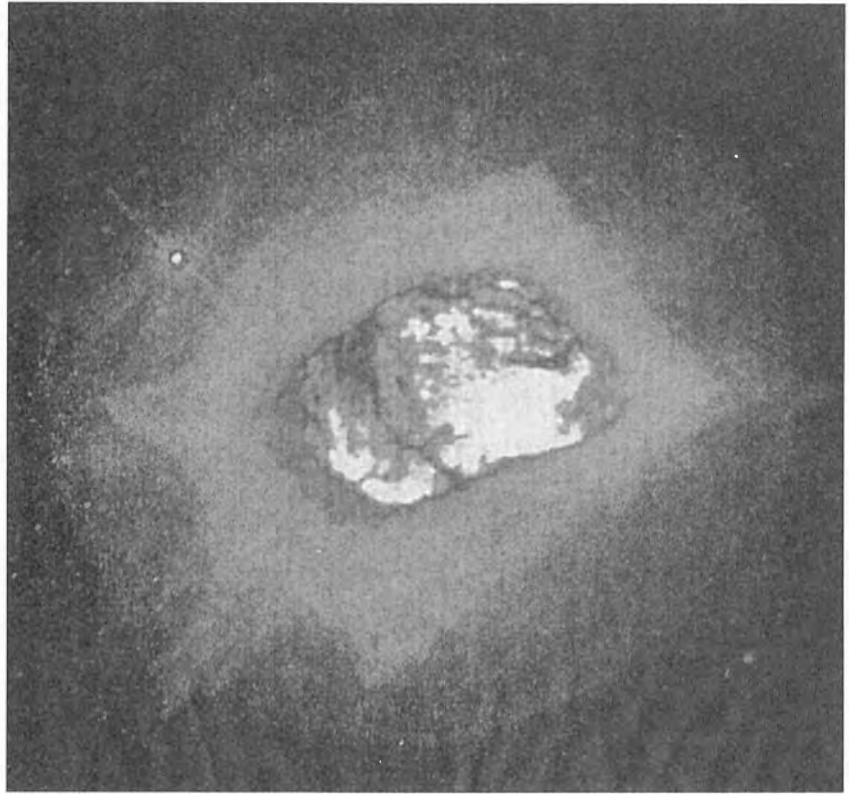
恒星の最後

恒星が最後を迎えつつある姿をNASAのハッブル宇宙望遠鏡がとらえた。私達の太陽もあと五〇億年ほどすれば、こんな姿になるといふ。撮影されたのはNGC7027という天体で、三千光年離れた白鳥座の方向にある。恒星の寿命は約百億年とされているが、爆発するのは死の前の数千年という。(1・24朝)

人体内にエイズ抑制物質

ドイツと米国の二つの研究グループがエイズウイルスを感染初期に抑制する免疫物質を発見した。この物質は人体内の免疫システムが作り出すもので長年探し求められていた。

ドイツのパウル・エールリヒ研究所のグループは、白血球のCD8細胞から分泌されるインターロイキン16という免



疫物質がエイズウイルスの増殖を遅らせることを見つけた。

一方、米国立癌研究所のグループは、CD8細胞によって作られる三つの物質が培養細胞の実験でエイズウイルスの感染と複製を阻害することを確かめた。(12・7毎)

反水素原子の合成に成功

欧州合同原子核研究所の国際研究チームが、反物質原子の合成に世界で初めて成功した。反原子の合成は反物質から成る反世界の研究に道を開くことになる。

同チームは低エネルギー反陽子リングを使って反陽子をキセノン原子と衝突させる実験を続け、九つの反水素原子を合成した。この反水素原子は反陽子一つと陽電子一つから構成され、約四〇ナノ秒後に普通の物質と合体して消滅した。消滅の際に出るガンマ線を観測して反水素原子の合成を確認した。(1・5読)

脳の掃除法さん

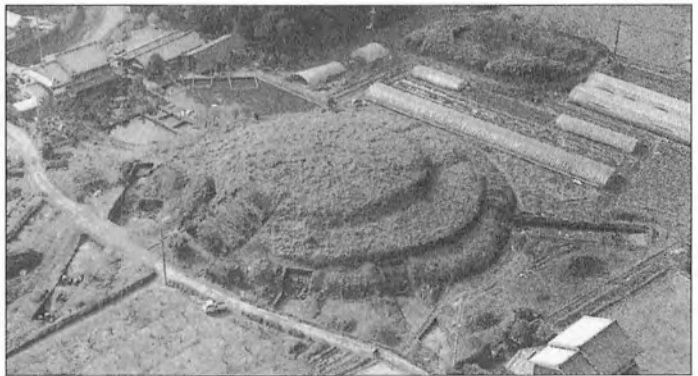
脳の血管の外側にへばりつき、脂肪や蛋白質などのゴミを掃除して脳を守っている特殊な細胞の役割を、自治医大の教授らが突き止めた。この細胞は発見者の間藤教授の名をとって「マトウ細胞」と呼ばれ、体内に侵入した細菌や死んだ細胞などのゴミを食べるマクロファージの仲間である。脳細胞はエネルギー源になるブドウ糖などごく限られた物質以外に出合うと悪影響を受けるが、マトウ細胞は脳の毛細血管の周辺で出生直後から働き始め、脳を守っている。ところが、年齢が進むとゴミを処理しきれなくなり、脂肪分などがたまって膨れた細胞が血管を圧迫して血流が悪くなり、痴呆症や動脈硬化の原因になっている。(1・28朝)

最古の前方後円墳

奈良県立橿原考古学研究所は奈良県桜井市のホケノ山古墳が日本最古の前方後円墳であることを確認した。築造年代は邪馬台国の時代という。年代決定のもとになった土器が後円部の周濠から出土し、「布留ゼロ式」と呼ばれる箸墓古墳の築造時のものと、東海系の弥生式「S字口縁」土器などがあった。(12・8読)

牛乳の蛋白がエイズ感染を防ぐ

牛乳に含まれる特殊な蛋白にエイズウイルス(HIV)の感染を防ぐ効果があることを、米ニューヨーク血液センターのニューラス博士らが発見した。抗エ

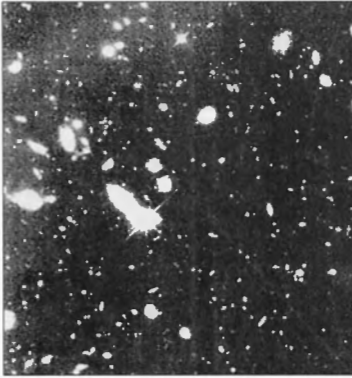


イズ薬などと組み合わせて異性間感染を防止する薬品の開発に役立つという。

同博士はHIVが人のリンパ細胞に感染するときに、CD4と呼ばれる蛋白と結合することに着目した。研究の結果、牛乳からチーズを作る際に残る乳しょうの蛋白B69がCD4と結合しやすいうとを突き止めた。(1・31朝)

エイズ発症を抑える抗体

エイズウイルス(HIV)に感染しても免疫力が保たれて発病しない長期未発症者が注目を集めているが、名古屋市立大医学部のグループがHIVに感染した細胞を殺す抗体を発見した。この抗体が長期未発症の鍵を握っているという。同グループが、HIVを感染させた免疫細胞のTリンパ球に健康な人の血清を加えたところ、免疫細胞が破壊されてしまう現象を見つけた。血清中の免疫グロブリンM(IgM)という抗体がTリンパ球の糖鎖と結合して細胞膜を破壊し、感染細胞を殺してしまうことがわかった。また、HIVに感染して一一年以上生存している血友病患者七人の血清中にもこの抗体があることがわかった。(1・31朝)



多数の新銀河

ハッブル宇宙望遠鏡が数百個の新たな銀河を発見した。北斗七星の方向を撮影したもので、さまざまな構造や形成過程の銀河が含まれている。(1・22朝)

光の玉を大勢が目撃

滋賀県から宮城県までの広い範囲で、上空に赤く輝く物体が飛ぶのが目撃され、関東地方では爆発音も聞こえた。茨城県筑波市の専門学校生が乗用車で走行中に前方五〇メートルの路上に何か落下したのを目撃し、車から降りると道路端に「妙に温かみのある変わった石」を発見した。石の大きさは長さ五センチ、幅三・五センチで、表面は焼け焦げたように真っ黒く、内部は灰色である。他の目撃者によると、東村山市の会社員は「音もなく、明るい光が真下へ落ち、光の通った後に白い煙が残った。一、二秒後に光と煙が広がって消えた」という。また、千葉市の男性は飛行機ほどの大きさと速さの黒い物体が飛んでいるのを発見した。飛行機よりも高い位置で



火花を出しながら進み数秒間止まったあと爆発し、黒い破片が落ちたという。(1・8朝)

地震の発光メカニズムを解明

通産省工業技術院中国工業技術研究所が、地震の前兆である空が光る現象を室内実験で再現することに成功した。

発光現象は、地殻の揺れで岩石が破壊されたときに起こるとされていたが、なぜ発生するかはわかっていなかった。新しい地震予知システムにつながる成果として期待される。

花崗岩を構成する石英ガラスの小片を真空容器に入れて破壊する実験を繰り返したところ、破壊の進行状態に応じて光の色が変わることが判明した。割れ始めてから一〇〇万分の一秒から一〇分の一秒の間に発光し、最初に赤い光が発生して、次に青い光が発生した。赤い光は石英ガラスの成分である酸素と珪素の原子結合がぎざれたときに大量の光子が発生し、青い光は珪素同士が結合した瞬間に発生することがわかった。(2・5朝)

日本版スペースシャトルの実験成功

小笠原海域で水没した極超音速飛行実験機「ハイフレックス」の捜索が、海洋科学技術センターの無人深海探査機「かいこう」で開始される。ハイフレックスの飛行そのものは順調で、日本版スペースシャトルを開発するための実験データは八〇パーセントが収集された。

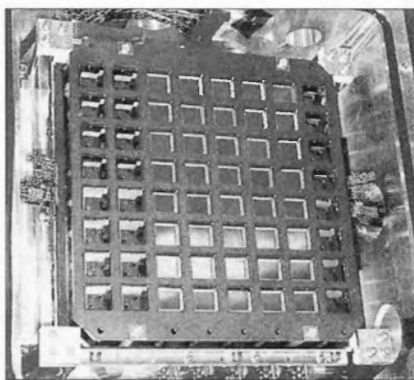
今回の実験では、機体の飛行経路、断熱材の温度変化、機体表面の圧力など二のデータが無事に回収された。

六四億円の費用をかけた日本版スペースシャトルの開発は、日本の宇宙開発の最大目標である。(3・4朝)

宇宙の果てを見る電子の目

国立天文台と東京大学が世界最大の視野を持つ天体観測用デジタルカメラを開発した。

まず目に埋め込まれた一・五センチ角の電荷結合素子(CCD)が六四個あり、四〇〇万画素から成る画像を撮影できる。(3・1朝)



●第六回秋田支部大会開催

秋田支部は従来隔年ごとに支部大会を開催していますが、今年は来たる六月八日(土)に秋田市内のパークホテル新館「寿の間」で、盛大な支部大会を開催します。今回は冒頭より久保田代表の講演が始まって一時間半の熱弁をふるい、UFO問題の真相と宇宙的な生き方により人間が真の幸せな人生を過ごす方法について解説します。

そのあと、昨年米ワシントン市で開催されたアダムスキー大会の模様を撮影したビデオを映写します。これは久保田会長の英語による講演やニューヨークの上空を飛ぶ白銀色の円盤を撮影した珍しい記録映像等が展開する貴重な珍しいビデオです。

翌日は鳥海山麓の由利原高原へマイクロバスで観光。風光絶佳な高原地帯で大空に向かって大宇宙思念法を行なえばUFOが出現するかも――。

東京からは飛行機で一時間一〇分という短時間で行けます。詳細予告は本号四七頁に掲載。同支部は多数の出席を期待しています。

●テレフォンカード新版出る

日本GAPはテレフォンカードの図柄を変えた新カードを発行しました。今度は昔イギリスのコニントンでステイヴン・ダービシャー少年が撮影したアダムスキー型円盤の写真をあしらった斬新なデザインです。頒価一五〇〇円。巻末の広告欄に詳細案内が出て

います。

●月例セミナーの日時臨時変更

東京月例セミナーは原則として毎月第一日曜日に開催されていますが、本年五月に限って第二日曜日の一二日に臨時変更されるのでご注意ください。会場は同じ機械振興会館地下三階の第二研修室です。

東京月例セミナーは今年三月で通算三一九回に達しました。これは久保田会長の不屈の信念と偉大な勇氣、これを支えた本部役員団その他の方々のご援助のためものであり、会長は衷心より感謝しています。近來は会長の「生命の科学」解説講義も斬新な内容となり、多くの実例や古今の哲学思想等を織り交ぜて、ときにユーモラスな話に笑声も起こり、きわめて愉快な雰囲気になり、満ちた会合となっています。初めて来た人は静岡で高次元な楽しい内容に驚くのが普通です。

超能力者の遠藤講師の指導により超能力(オレパシー)の開発指導も行なわれており、大きな成果をあげています。月に一度の精神エネルギー充電のため多数の方々のご来場を本部役員一同お待ちしております。会員でなくても出席可能です。本誌巻末の案内欄をご覧ください。

●誤記のお詫び

本誌一三二一頁に掲載された植木淳一氏の「カイパーベルトはアダムスキーの主張を立証するか」と題する記事の

中に誤記がありましたので、次のように訂正します。

(1)二〇頁二段目の左から七行目の「磁場の方向の変わり目で早い」は「磁場の方向の変わり目で遅い」が正しい。

(2)二二頁の一段目の一六行目の「冥王星とその外側に存在する第一〇番惑星と一一番惑星」は「冥王星とその外側に存在する第一一番惑星と二番惑星」が正しい。

以上については植木氏が不注意であったと謝っています。

●久保田会長また東京造形大学で講演

このところ連続二年にわたって久保田会長は東京造形大学でUFO問題と宇宙哲学の講演を行なってきましたが、今年も五月三十一日に同大学で講演を行います。これは同校の佐藤彰教授が熱心な日本GAP会員で、その幹旋によつて正規の授業として行なわれるものです。毎回学生に大きな刺激を与えて好評を博しています。

●ミツシエル・ジルガー氏、結婚

一昨年四月にフランスから来日して東京に在住しているアダムスキー派UFO研究家のジルガー氏は、このたび日本GAP東京本部役員の佐塚崇子さんと結婚し、去る三月三〇日に都内日比谷の東京会館のフランスレストランで非公式の披露パーティーを開催しました。本部役員、旧役員、黎明会幹事等、全部で約二〇名の宴会でしたが和

気あいあいたる素晴らしい雰囲気のもとに行なわれました。ジルガー氏は日本に永住して久保田会長を援助する決意を固めています。

●日本GAP維持会員制度

日本GAPは普通会員とは別に特別維持会員制度を設けています。これは一種の寄付制度であり、普通会員がさらにGAPの運営と発展に貢献するための援助活動として、絶大な役割を果たしています。これに加入すれば久保田会長が個人で毎月発行している「意識の声」と題する小冊子のエッセイが各維持会員に直送されます。これは本誌に掲載されない秘話、会長独自の宇宙的能力開発法、会長の珍しい体験、行事の速報、その他興味深い記事が掲載されています。これを綴じて保存している人が多くいます。特徴は常に読者に大いなる信念と勇氣と希望を起させるための激励に満ちている点にあります。エッセイ「意識の声」はA4判紙面にぎつしり印刷された記事が三頁分ある美麗オフセット印刷。ときには四頁になることもあります。

特別維持会員に加入希望者はハガキに「特別維持会員案内書」と書いて日本GAP宛に出せば案内書と専用振替用紙が送られます。ただし普通会員でない人が特別維持会員だけになることはできません。退会は自由です。日本GAPは絶対に強制や押し売りをしません。全く自由な雰囲気の中で。

The Meaning Of 'Kalna',
By Masatoshi Hayashidera

カルナの意味

★林寺正俊

ユーコン誌一三二号をご送付下さいましたこと、心より御礼を申しあげます。ありがとうございます。早速各記事を拜読致しましたが、特に秋山真人先生の講演記録は、昨年初めて参加させて頂いた総会の感動を再び呼び覚ましてくれるのに余りあるものでした。

また私のような怠惰な会員の文を丁寧な注記付きで「ユーコン広場」に掲載して下さいまして、有難うございました。会員の皆様の目に触れることを考えますと、内心忸怩たる思いを禁じ得ませんが、やはりそこは単純な私のこととて、素直に心嬉しく感じたりもしております。

先生が記して下さいましたとおり、私は大学（北大）でサンスクリット語を学んでおります。先年、先生よりお手紙を頂いてから、すぐにお返事を差し上げて自分の専攻についてお知らせすればよかったです。大変失礼致しました。申し訳ありません。

実を申しますと、専攻はインド哲学ではなくて（授業では必須科目として履修しておりますが）インド仏教学で

す。仏教学と言いますが、文献自体の歴史の変遷や、そこに現われる思想の跡付けなどを目的とする学問でして、もちろん信仰のための学問ではありません。

もともとこの学問は共観福音書問題を提起したヨーロッパ近代聖書学の研究方法や、プラトン対話篇の真偽問題を決定する方法をインドの文献に応用して始まったものです。具体的にはインド仏教のうち、原始仏教の文献を扱っております。

原始仏教を研究する場合は、確かにサンスクリット語も必要ですが、おもにパーリ語を扱うこととなります。まだ勉強し初めてから日が浅く、サンスクリット語などほとんど読めないにもかかわらず、おこがましくも将来的には原始仏教の文献だけではなく、後代の仏教文献やインド哲学の文献も扱いたいなどというambitionも抱いております（クラーク博士には怒られてしまいそうですが）。

実はサンスクリット語に関して先生にお聞きしたいことがあるのです。アダムスキーが母船の中で会ったスピープルの中に、カルナという女性がおりますが、このカルナという便宜上の名前はサンスクリット語（あるいはパーリ語も同じ）から取っているという可能性はないでしょうか。

カルナというサンスクリット語は、ローマ字表記では Kalna（カルナー）

となりますが、実際、ka と kha という短母音、長母音の区別は、日本人にとって使い分けるのが困難であるらしく、インド人の発音する長母音のkaは、日本人が発音する「あ」にきわめて類似しているということです。

カルナという言葉の意味は、辞書では pity, compassion と記されておりますので、現代語でいう「あわれみ」に相当するのかもしれない。インド仏教の教理体系では、このカルナが非常に重要な位置を占めており、訳経僧はこの言葉を訳すにあたって「悲」という漢字を当て、経典の中で同時に説かれていたマイトリーという言葉に「慈」という漢字を当てて、あわせて「慈悲」としました（現代日本語では一つの言葉になっていますが、もともと二つの言葉の訳語だったのです）。

マイトリーという原語は、「慈」という漢字の意味よりも、むしろ現代語で普通に用いる「友情」というほどの意味です。カルナという言葉も果たして本当に「あわれみ」という意味だけに限定されるものなのかどうか、学問的にはまだ検討する余地も残っているような気がするのですが、少なくともその言葉は、現代日本語で言うような「悲しみ」という意味を含んでいないことは断言してもよいと思われまます。（これについては専門家が明言していただはりますが、今それが手元がないので、はっきりとした典拠をあげること

ができません。すみません）。

みずからが宇宙的に成長することとは全く関係ないことかもしれませんが、以前からアダムスキーの会った女性の名前のカルナが少し気になっていました。カルナという名前がサンスクリット語からの借用であるのかどうか、その可能性の是非について教えて頂けないでしょうか。

あるいは、インド哲学や原始仏教などと宇宙の問題などとの関係について（もし関係があるならば）、私のような者に伝えても差し支えないという範囲の情報については是非ご教示を頂けないでしょうか。

久保田注 II アダムスキーが母船の中で会った金星人の婦人に便宜上「カルナ」という名前をつけていますが、これは林寺君の説のとおり、サンスクリット語から取られたことに間違いありません。というのは、アダムスキーはインド哲学に造詣が深く、彼はインド G A P の主宰者であった S・K・マイトラ博士と文通によって教えを受けていたと聞いたことがあります。マイトラ博士はバナラス・ヒンドゥー大学の教授でインド哲学の権威者であり、非常に高貴な方であったということです。博士はアダムスキーを心から尊敬し、毎年一月二〇日にはデザートセンターのコンタクトを記念して祝賀行事を行なっていました。私（久保田）も昔、マイトラ博士と多年文通しておりまし

たが、惜しくも世界されて、その後インドGAPは解散しました。

新アダムスキー全集第六巻「UFOの謎」の二二二頁には、アダムスキーが一九五九年に世界講演旅行に出かけた途中、インドに立ち寄ったときの情景が述べてあり、左頁にはマイトラ博士の肩を抱いたアダムスキーの写真が出ています。インドについてはアダムスキーが次のように述べています。

「私は長いあいだこの立派な博士と文通をしていた。そして彼とその友人たちが異星人とその来訪について教えてもらっていたが知っていることを知っていた。また、インドの歴史は、宇宙から来た乗り物が地球上に出現したり、その乗船者が地球上に起こる諸変化について地球人に警告する物語で満ちていることも知っていた」

ついでながら、アダムスキーが便宜上つけたスペースビープルの名前で、金星人オースンは「正しい」を意味する英語のOrhoという接頭語からつけたと、昔、アリス・ウェルズ女史から直接に聞いたことがあります。土星人のラミュールは「ムー大陸のラ(王)」と思われませんが確証はありません。

アダムスキーが彼らに仮の名前を付けたのは、彼らは地球人のように一定の名前を持っていないからです。遠隔透視力とテレパシーが発達しているので名前では呼ぶ必要はないわけです。

Cosmic Physics
by Toshino Hamada

宇宙物理学

★浜田敏博

Undulation Function

(1)波動関数について

量子力学において、物理量の量子状態が有効な意味を持つためには、ある時刻の状態がその後の時刻の状態を一義的に決定するようであればなりません。そこで粒子の運動状態を表現するために、波動関数というものを導入します。

この関数の性質として、ある時刻の波動関数が与えられたとき、シュレディンガー方程式を解くことによって、別の時刻の波動関数が決定されるということがあります。

しかし、一個の粒子の運動を表わす波動関数は、個々の粒子の移動先を予言するものではなく、多数回にわたリ実験を行なった場合のその粒子の存在に関する全体像を与えるものであつて、また波動関数は広がった分布を持つのですが、粒子自体が広がった実体ということではありません。

粒子的概念と結びつくエネルギーや運動量は、広がりを持たない質点に關

係した量であるのに対し、波動的概念に結びつく振動数と波長は、時空において無限に広がった波に關係した物理量です。

ただし古典論においては、これらの物理量を結びつけることはできないのですが、電子などの物質波についてはフランスの物理学者ド・ブローイによつて、エネルギーはプランク定数と振動数の積に等しいこと、及び、運動量はプランク定数を波長の値で割つたものに等しいという關係のあることが発見されました。

ところで、先に量子論での波動関数は粒子の正確な座標値を決定するものではなく、粒子がその位置に見出される(存在する)確率を表わすものであることを述べましたが、このとき粒子の位置の不確定さと運動量の不確定さの積が、近似的にプランク定数の値に等しいという不確定性原理を考え合わせれば、例えば電子が粒子と波動の二重性の性質を持つて振る舞うという現象を確かめられることになりました。

Force Against Universal Gravitation

(2)万有引力に逆らう力

一般に空間中にある帯電体は、その周辺の空間を変化させて空間の歪んだ状態をつくり出します。この歪んだ空間が電磁場であり、それが振動することによつて電磁波が生じます。

同様に一般相対論によると、空間中

にある物体は、その周辺に時空の歪みである重力場をつくり出し、また物体自身が振動することによつて、時空をさざ波のように伝播してゆく重力波を生じさせます。

重力波は電磁波のように光速で伝播するのですが、他方、その強度は微弱であり、伝播する空間の変化もごく僅かでありませぬ。

この重力波を検出するには、波の通過によつて生じる二つの物体間の距離の変化を調べればよいのですが、そのスケールが量子的限界の変化であるために、検出は大変困難なことのようにです。

一九六九年には、J・ウェーバーが重力波の検出に成功したという発表をしました。その後の調査で彼のデータはノイズにすぎなかったことが明らかとなりました。しかしこの重力波が検出されれば、それは一般相対論の直接の確証となるのです。

ところで、アダムスキーも宇宙の波動は電磁気的な波の織り成す姿であるということを書かれていたように記憶しています。

現在のところ、重力に関する理論はアインシュタインの一般相対論によるのが最も標準的とされていますが、ある重力研究者によると、上記のウェーバーの重力波の理論を、一般相対論から引き出すときに切り捨てられた誤差のオーダーの中に、重力に関する重大

な要項が入っていると考えています。彼によると、ウェーバーの電磁気学の類推からでも、あるレベルまでの重力理論が得られることが確認されており、その理論を進めていくと、万有引力に逆らう力、いわゆる反重力の項目が見方によっては現われてくるそうです。

物理学は近似の科学ですが、この切り捨てオーダーの要項を取り上げて考えることによって、万有引力に逆らう力の項目が見つければ、UFOがなぜ、あたかも反重力を持つかのように推進するのかの有力な説明が得られることと思います。



不思議な夢を見ました。一九九五年八月三日（木）午後六時三〇分頃、この夢の凄い光景を目を覚めました。この日、五時頃から眠りました。前日少し夜ふかしをしたので、眠る必要があったのです。

円盤や母船が出てくる夢は今まで何度も見たように思いますが、今回のように空一面、空間にびっしり充滿して

いる夢は初めてです。夜空に雲は一つも出ていません。夜空といっても夕方ですが。

私は異星人からのテレパシーを受信したのだと思いますが、皆様方はどう思われますか。その夢というのは、次の図のとおりです。

「母船群団が天の川のように、超高空（宇宙空間）を無数に音もなく一定の方向に移動して行く。一つ一つの母船は三ミリぐらいの白いスジとして見える。そして帯をなしていて、ゆるやかにS字にカーブしている。その帯が一方の地平線から、もう一方の地平線まで続いている。

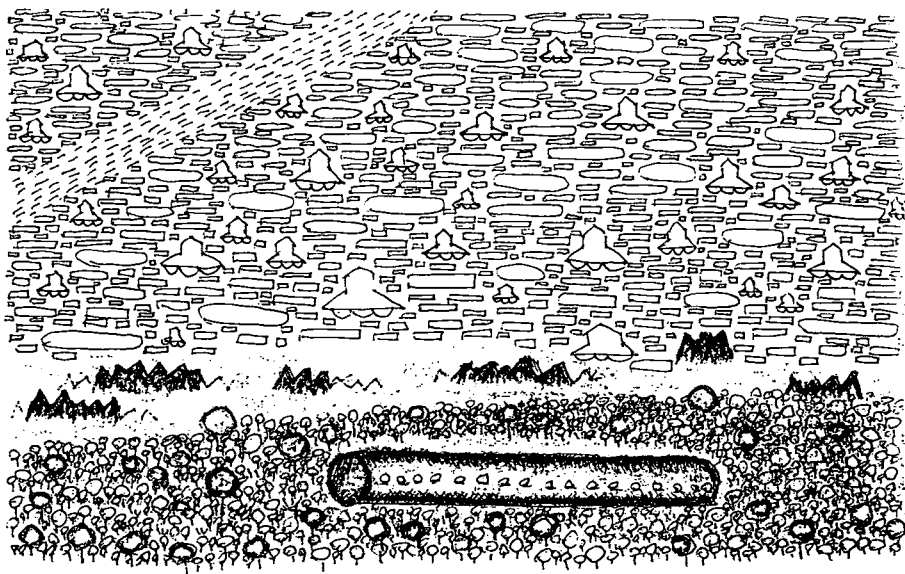
夜バスのような乗り物に乗って、それを見てみんなで喜んで歓声をあげている。バスには年とつた人、若い人、男の人、女の人、赤ちゃん、幼児、子供などが乗っている。

空一面にいつぱい、遠い空も近い空も、母船や円盤が飛んでいる。地上近くにも飛んでいる。みんなはそれを見て別に何も言わない。見慣れている光景のようである。

バスで道を行くと、道のそばに一機の大きな母船が地上にとまっている。船体全体がほのかに輝き、内部の光が窓などからうつすらと外に洩れている。音はしない。」

佐々木八郎氏が見た不思議な夢

—イラストは同氏による—



東京大地震は 〈近未来に〉 発生しない

●1995年度総会講演の続き
秋山 真人

Q&A(2)

by Makoto Akiyama

問6 東京において大地震は近いうちに起こるでしょうか。また、他の県においての大地震はどうでしょうか。

答 地震の問題ですが、九月九日はだいぶ騒がれましたけれどもね。各時期において、今回の神戸地震のときもそうでしたが、やはり予測したグループが沢山いるんです。実は最近、昔の関東大地震のときの直前に、八日の二七日か何かに「九月一日に大地震がおこるぞ」と予言して文章化した人の記録が出てまいりまして、非常に私も驚いたんです。今回も実はそういう能力の高い方のネットワークの中では、どうも今年の（一九九五年の）九月九日から一九日までのあいだに、何か自然災害があるのではないかという予測が沢山されていたわけですね。

ただし人間の直感力というのは、ま

ず結果がわかる、つまり災害がやってきそうだというイメージがわくんです。ところがそれを事こまかに細分化してゆく作業において、いろいろ混乱が生じるわけなんです。

ですから予知的な作業というのは、非常にむづかしいということは確かにあるんです。ただし今回の期間の災害予知においても、能力者といわれる人達のほとんどは、水の害が起こるのではないかと危惧しております、それで人が死ぬということはないだろうという予測がされておりました。

それは一七日の台風の上陸というところがあつたわけですね、いまのところ大きな地震は近いうちにはないだろうと思いますが、これは明確です。他の県において多少可能性がある地域としては東海圏だといわれていますけれども、やはりここでも重要なのは、自然界のこういった変化というのは、自然界の責任だけで起きているのではないんです。要するにその土地に住んでいる人達の想念的なバランスによって、こういったものの最終的な引き金が引かれるという事態があるわけですね。

これは先程の核の問題でも共通しております。人間の意識と現象とはつながっているんです。波動的なものを仲介してつながっているということがあるわけですね。

ですから、やはり地震よ起こってく

れるなとか、ハラハラしながら祈る思想的な祈りではなくて、これだけ創造的なことをやっていけば、私達の未来を疎外するものはないはずだという、明るい創造的な積極的な否定をしてゆくべきです。まず意識の中から、イメージの中から積極的な否定をしてゆくべきではないかなと思います。

問7 先生は善悪の観念に縛られてはいけなさとブラザーズにより教えられたとお書きになっていきます。私もなるべくそうでありたいと願うものの、実生活の中でどうしても他者の悪が気になつてしまいます。また悪に対する怒りがかえつて社会対策に結びつく例もあると思います。たとえば、金権政治に庶民が怒つたこと。巨大企業の無節操なりゾート開発による自然破壊に市民が怒つて、それを阻止したことなどがあります。

それでもやはり他者に対しては絶対に寛大であるべきなのではないでしょうか。場合によっては徹底的に批判し、過激なまでに活動したほうが良いこともあると思うのですが。

答 善悪の問題ですね。これは非常に重要なポイントだと思つてます。金権政治、巨大企業の無節操なりゾート開発、自然破壊など、確かに目で見る限りではいろんな問題が起きているように思えます。ですから今回の例の新興宗教の事件においても、そうだと思うんです。

実は私も以前にGAPで講演をしましたときに、ここにヒゲが生えていたと思います（と云ってアゴをなでる）。ポアされちゃったんです（会場爆笑）。某教祖の逮捕の前日か前々日に警察の方が私の事務所に来られまして、どうも付近からヒゲを生やした三角前の人が入りしているようだと（会場大爆笑）。どうも某教祖ではないかという通報があつたので一応調べに来ましたというのです。ですから私のヒゲは被害をこうむつたということになります。

話をともにもどしましょう。しかしながら、（某教団に関しては）私達の感情からすればたしかに許しがたい問題なのですが、ただし激しい感情に対して激しい感情を返すということは、要するに単純に言えば、カルマを生むことになるんです。

だからといって、カルマを恐れて黙っているということではないんです。なぜそうなったのかをよく読み取ることですね、重要なのは、読み取つてゆくと、感情にうながされたい、はつきりとした結果が出てきます。私達はなぜ責める心を持つかという、恐れるからなんです。なぜかという理由がわからないのに突拍子もないことが起こると恐れる。そしてその次の感情は責める。過激に戦おうとする行動が起きるんです。ですから犬とかライオンとかの動物は、まずウーツと唸ります。

責める反応と恐れる反応とが同時に起こるわけです。人間のなかにもそれが非常に根深くあるんです。

そこを超えるのが知恵の力ではないかと私は思います。つまりバランスを読み取るということです。以前、ある自然保護団体が例のクジラの捕鯨捕獲の反対運動を世界的に展開しました。絶対にいけないんだと。とにかくクジラをとってはだめなんだというわけです。

たしかにクジラは滅亡の危機に瀕していたんです。でもそれをやったことによってその自然保護団体がほかの食肉業者から莫大な利益を得たんです。世の中はそういう裏もあるということもやはり知恵で直観的に読み取る力を持つことだと思えます。そういうことが縦横無尽にあります。

ですから、下手をしたらどこかで逆にそれによる恩恵を自分が受けたりする場面もあります。そうした場合にどういうふうに関与が行動をとっていったらいいのか、そういうことも立体的に考えた上で、やはり世の中の事象を見てゆくべきだと思います。

それについて良いリサーチ方法は、一つの大きな事件があったら、必ず何社かの新聞を見るとというのが非常にいい方法だと思いますね。一つの単純な事件でも、それぞれの新聞によつては全然記事の内容が違うときがあります。下手したら起こった時間の記録も違つ

たりする場合があります。この前、日付が全部違つていたということもありました。

でも私達はそこで一喜一憂したり、その情報がすべてだと、どこかで思い込んでしまう、習慣性のなかに埋没しやすい生き物です。そこに対して傲慢にならずに、謙虚にそのものを癒せるようなやさしく出来るような力を持つということも重要なことではないかなと思えます。

問8 転生について質問します。現在地球の人口がふえてゆき、食糧や環境に多くの影響を与えてゆくと思われますが、転生すると生命はやはり他の惑星から移動してくるものなのでしょうか。また、それらは現在の地球と同質の生命が集まってくるものなのでしょうか。

答 これにはまちがなくこの質問の通りだと思えます。いま人口がふえているということですが、やはり他の惑星からの転生のケースが非常にふえていると思えます。こういう時期というのは、宇宙的ないろんな考え方、地球を守るという考え方と同時に、人口がふえてくるということは物理的に考えても、宇宙に出なければならぬ問題が一杯出てくるんです。

ですから我々が宇宙人化するといいますが、宇宙で生活できるようなレベルのバイブレーションを持たねばならないようになっていこうとしている時

期だという考え方もできると思えます。そして地球に宇宙の生命が転生してくる場合には、地球人と質の近い幅の範囲内での魂が転生してくることはあると思えます。

問9 転生についてご質問致します。各惑星ごとに一定の他の惑星からの受け入れ枠のようなものや定員はあるのでしょうか。そして進歩した惑星に進級することにはたいしては、もう各人の永遠の人生のレッスンによって、ほぼ決まっているのでしょうか。

答 これは受入れ枠というよりも、自然のバランスである一定の人数がその惑星に転生して、いま現在生活しているというようなことは、ほんとうに自然の摂理によって、ある程度は調整されている。要するにバランスをとって調整されているといったほうがいいと思えますね。ですから誰かがこの惑星は四億人とか決めていくわけではないんです。

進歩した惑星に進級することにはたいしては、各人の永遠の人生のレッスンによつてほぼ決まっているのでしょうかというのですが、ここで重要なのは、何が進歩かということを確認しておく必要があると思えます。ですから、それぞれの惑星も非常に個性的です。精神的なものを重んじて進化していることは平均しているんですが、ではどういふ目的を持っている人達がそこに多く転生しているのかということ

ですが、たとえば地球に転生するためには、この惑星と同じような目的意識とか、そういうたものを持っているかどうか、ということのほうが大きく左右するんです。そしてそこでレッスンを受けるということになるわけです。

当然、そのレッスンの先生はその惑星そのもの、その惑星で生きる自分そのもの、ということに最終的にはなつてゆくでしょう。ですからいまの自分の状態に等しい所に行つて、そこで努力して、少しずつその枠の中で自分のバイブレーションの状態を変えていつて、その段階がある一定の所へ行くと、また別な種類の所へ行く。そして目的意識によつて、それが分けられてゆくということになると思えます。

問10 地球人は死にたいして恐怖心を抱きますが、進歩した惑星の方達は死にたいして新しい体験や勉強等が始まるという祝福まで受けるそうですが、死の日時がわかる彼らでも、直前まで人生を楽しんでいるのでしょうか。

またなかにはまだ恐怖心が消えない人もいるのでしょうか。
答 これもある意味では非常に宗教哲学的な問題になると思えますが、ある意味では生きることと死ぬことにたいして、恐怖心のトレーニングというのは、高度に進化した宇宙人でも我々でも同じことを常にやっているんです。ですから、魂は永遠の転生をくりかえすという事実が非常に実感としてわ

かったとしても、そこでまたネガティブになった場合には、生きることの恐怖にも襲われますし、逆説的な言い方をすれば、恐れるという能力も、どんな人にも平等に与えられているんです。そしてそれをトレーニングと変えてゆか、レッスンとしてゆか、または新しいものを創造するための一つの刺激としてとらえてゆか、そういったところで、それを生かせるかどうか、自分の魂の糧にできるかどうかということが別れてくると思うんです。

生きると思ふことは、すべての生命において平等に与えられているというふうに思います。それを要するにどうとらえるか、ということが重要なんですね。

問11 人間は、肉体の死を経験しても、転生して永遠に生き続けるのとこのことです。地球の総人口が増加しているということは、他の惑星から人間が移って転生してきているということでしょうか。

答 これは先ほどの質問と共通しておりますが、いま増加しているということは間違いなく他の惑星から来ている魂が多くなってきているということです。これには非常に重要な意味があるように思います。

問12 成人病はビタミンやミネラルの不足から起こるといわれ、健康状態を維持するために、巷では栄養補助食品が流行していますが、異星人の方々は、

我々の食生活についてどのようにお考えですか。お教え下さい。

答 そうですね、食べるという行為は我々が生きてゆく上で絶対に不可欠な行為なんですけれども、ここでも、なぜ、なぜ、をやってみる必要があると思うんです。いまある野菜とか食品、要するにスーパーへ行って求められるような一般的な物というのは、舌に乗せたときに、ああまいと感じるような工夫がなされているんです。私達には常に生産者側に対しては、調理が便利で見た目がよくて、舌ペロにのつたと、とりあえずとにかくおいしいと感じるように作れ、ということを要求してきた結果が、いまの食品体系になっているということだと思えます。

たしかにそこには問題があります。ですから、たとえば野菜一つでも、いまはその野菜を甘くするための薬品であるとか、肥料であるとか、こういったものであらゆる種類の物が出ているわけですね。虫がついているとイヤだからというので、虫がつかないように農業のいろんな種類のものが出ていますけれども、結果的に虫がつかないような野菜を食べなければならぬという問題も出てきているわけです。

ですから、当然、失われている問題があります。前にもお話ししたかもしれませんが、私は小さいときに母が野菜を買って帰ってくると母が家の扉をあける前からわかつたんです。これは

テレパシーではなくて、私はタマネギが嫌いだったんです。あのタマネギの匂いというのは、昔はほんとに母親が籠に入れて家のそばに来るだけで、プンプン匂った記憶があるんです。小さいときには嗅覚も大人よりも強いですが、そういった問題もあるのかもしれないですが、いまその独特のクセや匂いが野菜から失われているなあという感じはたしかにします。

ですから、子供も嫌わずに食べるような野菜が多くなりましたけれども、その分、やはりミネラルとかビタミンとかが失われている部分が大いと思います。これはなんらかの形でそれが体が要求するものである以上、補給してゆく必要があると思います。

ただし栄養補助食品、栄養補助食品といわれているものをとるにしても、できれば科学的に生成されたものではなくして、自然そのものを濃縮したようなものをつたほうがベストだと思います。

ブラザーズは主要な食料としてやはり天然のものを濃縮した技術によるものをとっている傾向が多いと思います。漢方薬の世界でもそうなんです。いったん、たとえば体にいい食物の根があるとすると、その根を出来るかぎり根のまま煎じてエッセンスを飲むと効くんだけれども、化学的に調べると何と何とかが入っていると。じゃ、この根を粉末にして飲みやすいようにし

てパラパラと袋に入れて飲めるようにしたらどうかというんで、そうやって作ってしまうと、なぜか効き目がなくなるんです。なぜか化学的な抽出処理をしたり、不純物を分けてしまったりして、天然の状態から遠ざける作業をすればするほど、効き目が変わってくるんです。

ということは、やはり天然のままの不純物も少しづつ入ったアンバランスな状態のなかに、成分的と言うよりも波動的に我々の体を活性化する秘訣といったものがあるんだと思うんです。これが先ほど言ったバランスの問題と関係しているように思います。

問13 私は先日秋山先生の本『新興宗教脱宣言』を読みました。本当に最近者が、宇宙人との交流がもうすぐ来るということをかきかんに言っております。しかしそのなかには太陽系の惑星に高度に発達した人間が存在していることは全く言っていない。その上、金星の温度は高温であるので、二次元的な物質としての金星人は生きられないので、高次元な霊的生物ならいるとか、宇宙人は人間にとって友好的なものばかりではなく、キャトルミューティレーションを代表するように、人間にとって非友好的なものが多いから注意が必要とも言っています。これでは宇宙人に対する恐怖が増すばかりです。いまのこの時期にこのような新興宗教が



▲講演中の秋山真人氏。 撮影/松村芳之

現われた意味は何なのでしょか。またその背後には何か大きな組織があるのでしょうか。秋山先生のご意見をお聞かせ下さい。

答 そうですね。宗教論になりますとむつかしい問題なんですけれども、一つ言えるのは、日本GAPで学習されている方々は、この話を聞いたときに、どこがおかしくて、どこが正しいのか、かなりはつきりとしてご理解されるんじゃないかと思えます。

たといえば、最近、非常に心霊的なことを説くグループ、特に宇宙人というのは心霊的なものなんだと説くグループが非常に増えているんです。そのグループの共通見解というのは、大体に太陽系の惑星には何も住んでいない、住んでいるとすれば霊的な生き物だという言い方をします。

私はそのグループの方に尋ねるんで

す。じゃ、霊というのは何ですかと。ところが、霊という言葉そのものの意味を知らずに霊を説いている人が多いんです。ここに問題があると思います。たとえば日本人の霊という言葉は西洋のスピリットとかソウルという言葉と同意語として訳したところに、非常に大きな間違いがあります。

実は日本人のもともと持っていた心霊観というのは、アダムスキーの持っている波動の発想にきわめて近いんです！この事実がいまの霊を説く方々によく理解できていないんです。で、霊とは、どうも肉体から離れて、こちらを風船みたいにフワフワと飛んでいるもので、ときどき背中に乗ったり（会場大笑い）、修学旅行の写真にこの辺に手が移っているもんだと思っていちゃるんです。

それが情報の相互関係による現象だということがかわかっていない。霊とは細胞の記憶とかかわっているんだというところ、そこから出ている波動にかかわっているんだということもわかっていない。霊の問題を知らずして、霊を説きすぎるんです。感覚論だけで言うてしまふんです。

これは能力者もあまりやすい問題なんです。私も能力が出たときに、人の背後にいろんな人の顔が見えたりしました。その人の祖先の顔なども沢山見えました。それと、実際に双方でコミュニケーションできたりすることも



あるんです。

でもそれはそこに霊がいるからではないんです。体の中にすべての情報がタイムリーに刻まれていて、いつでもそこから引き出せるからなんです。潜在意識の中にあるスーパーコンピュータとアクセスして、それが相互の能力のなかで映像化されているだけだということに気づく必要があるんです。

そういう意味では、最近の新興宗教で間違っているものが沢山あります。これだけは、はつきり言っておきます。

肉体を超えて大宇宙と一体化する方法 (1)

ジョージ・アダムスキー / 久保田八郎訳 〈アダムスキー講演集連載13〉

この記事はアダムスキーが一九六〇年代ニューヨーク州ビンガムトンの小集会で行なった質疑応答集の前半部分。人間の肉体と大宇宙との関係を説いた宇宙哲学の凝縮であり、人間の到達すべき最高の真理を展開。個人の向上と至福化に不可欠な方法が述べられている。後半部分は次号に掲載（文中の傍点の部分はポマロイ女史の原文の指定に準拠した。）



創造主とは何か

問 宇宙の創造主はどんなものですか。アダムスキー 例えばここに洗濯機があるとしましよう。そして今、衣類を洗い始めました。衣類を勢いよく回しています。しかし考えてみてください。この中で衣類はいつも同じように回っているんでしょうか？ そんなことはありません。一回ごとに違う変化をしています。この中では、変化が休みなく続いているんです。そうなんです。衣類がこの中でどのように動いているかを良く考えてみてください。分かりますか？ この中には、いかなる単調さも存在しません。なぜならば、あらゆる動きが常に異なった結果を作り出すからです。ちょうど万華鏡まんげきょうのようにです。

そこで、創造主ですが、彼は生命の根源であり、常に同じであるとされています。決して変化することなく、常に若々しいわけです。そうですね？ 彼は決して年をとらないわけです。だ

というのに、人々は神をいつも老人としてイメージしています。私には理解できません。彼らは、神を、醜い顔をした、皆さんの顔に今パンチを浴びせてきそうな老人としてイメージしているんです。生命の根源であるはずの彼をです。変ですね？

さて、それはともかく、創造主自身は、彼が効力を発揮させ始めた原理から学び続けています。彼はどこかに座って、大きな万華鏡——宇宙万華鏡——でも言ったらいいかもしれません——を眺めているわけです。その中には二つの原理しかありません。プラスとマイナス、男性と女性、父と母、あるいはその他、どんな呼び方をしようとかまいませんが、とにかくそこにあるのは二つの原理のみです。その二つが接触するたびに一つの現象が発生します。そして、同じ現象がくり返し発生することは決してありません。常に異なった現象が現われるんです。

人間は創造主の現われ



▲ジョージ・アダムスキー

そして人間は、活動する想念であるのです。事実、そうなんです！ 創造主は人間を創造する前に、あるいは他の何を創造する前に、まずアイデアつまり想念を持たなくてはなりません。という事は、人間とは想念が形になったもの以外の何物でもないわけです。人間は、創造主が持ちたいと思つたものの現われにほかならないんです。だから創造主は自分のその創造物を見て、「これは私が自分の心の中で、あるいは意識の中で描いたパターンと似たものである」と言つたわけです。そして彼は満足し、その形あるものに「生命の息」を吹き込み、その結果、その形あるものは「生きる魂」になつたというわけです。ですから人間とは想念なのです。自分が考えている通りの者なんです。これはイエスも言っていることです。

人間は活動する想念

話を戻しましょう。人間はそれ自体が考える想念であるために常に変化を上げています。そして皆さんは考えないかぎり活動する想念ではあり得ません。皆さんはまず考えねばならないんです。たとえそれが良いことでも悪いことでも、どちらでもないことでも、とにかく行動するためには考えねばなりません。そして我々は、皆さんを、皆さんの行動を通じて知ることになり

ます。我々は皆さんが何を考えているのかは知ることができません。でも皆さんの行動を通じてそれを知ることができません。なぜならば、皆さんは自分の想念に従つて行動するからです。人間は常に想念を表現しながら常に変化を上げていく「活動する観念」なのです。

この宇宙万華鏡内のあらゆる現象は二つの原理が接触することによつて発生し、二度同じ現象は発生しないということが、これで理解しやすくなつたはずなんです。その二つが接触するたびに常に新しいパターン、すなわち新しいアイデアが作り出されます。そしてそのアイデアが観察点に到る想念となります。それは観察者のところに瞬間的に届き、彼の心に言わば印象として飛び込みます。

創造主と人間の相違

人間と創造主との唯一の違いは、創造主は印象を瞬間的に見えず次に目をやるという点にあります。創造主はそれにしがみついたり決してしまいません。彼は一つの印象を受け取るとすぐに新しい印象を招き入れます。そして各印象はそれぞれに意味があります。ちょうど皆さんが見ているテレビドラマの一場面のようにです。皆さんはそのドラマが終了するまで次々と新しい場面を見続けるわけです。

創造主は言わばそのようなして常に我々を観察しているんです。印象として彼の中に進入してくる想念のすべてを、そのようにして次々と見続けていくんです。したがって彼のところに届く想念は常に新しいのです。常にできたとの、他のどれとも違う概念です。そのプロセスにはいかなる時間も介在していません。彼が一つの印象を受け取つてから次の印象を受け取るまでの間にはいかなる時間差も存在しないのです。

そのようにして創造主は常に活動している二つの原理から学び続けているわけです。あるいは、まるで舞台上でくり広げられている素敵なショーでも見るかのように、それらが活動する様子を見て大いに楽しんで、と言つたほうがよいかも知れません。

人間は宇宙そのもの

問 この宇宙のとてつもない広大さを考えたとき、我々はどこにいるのでしょうか？ 人間はどこにいるのでしょうか？

ア 宇宙の広大さというものは存在しません。皆さんは宇宙を巨大なものとして知覚することはできません。皆さんは宇宙を「一つの始まりと終わり」としては知覚できませんが、「一つの始まりと一つの終わり」としては決して知覚できません。では、我々はどこに

いるんでしょう？ 皆さんはどう思いますか？ 我々は宇宙のどこにいるんでしょうか？

問 神の心とハートの中ででしょうか？
ア それも一つの表現法です。ただ、今の質問に対する答えとしては、「我々は宇宙そのものである」と言うほうが適当でしょう。皆さんが宇宙なんです！ もちろん目に見える皆さんの肉体ではなく、皆さんの真の部分です。ただ我々は、我々自身をある一つのものによつて宇宙から分離させてしまっています。我々の「心」によつてです。実はこれを説明するのにとても良い例があるんです。聞いてみてください。

水滴の例え

水滴すゐてき、つまり水のしずくを思い浮かべてください。水がどんなものであるかは皆さんご存じですね？ 水道から出てきますし、空からも降ってきますし、海にもあります。どれもが全く同じ元素からできている水です。

さて、その水滴ですが、それは小さなものでも大きなものでも、地面に落ちると下が平らで天辺が丸いドームのような形になります。そしてそのときそれは個性を持ったことになるんです。つまりそれ自身の独特の形を持つたことになるわけです。

そこでその水滴がもし言葉を話せる

としたら、おそらくこう言うでしょう。「僕が見えるかい？ 僕は平らな庭と丸い天辺てんぺんを持つているんだよ。僕は水という透き通った綺麗な液体でできているんだよ。僕を通して反対側が良く見えるだろう？ これが僕なんだ」

さて、その水滴は、もしそこにそのまま続けたなら、やがて蒸気になり、最終的には見えなくなってしまうでしょう。それはもとも見えない世界からやって来て、水滴という形を持つものになったんです。でも、その水滴は今の形を持つ自分しか感じていません。

また、その水滴はこんなこともできます。小さな坂をコロコロと転がりながら、チリやらホコリやらゴミやら二オイやら、とにかく自分の通る道の上にあるあらゆるものを、次々と身につけていくことができます。そしてその場合、やがてそれは水滴としての外見を失い、泥どろの固まりへと変化することになります。つまり泥のボールができあがるわけです。そうなるともう水はどこにも見えません。その泥のボールは、よりはっきりとした個性を持つて、こう言うでしょう。

「なあ、見てくれよ！ 僕は泥のボールなんだ」

そこで皆さんは言うかもしれません。「違うよ。君は水だよ。水が君を作ったんだよ」

しかしボールは言い返します。「違うのは、あんたらだよ！ 水なん

てどこにも見えないじゃないか。僕は水なんかじゃなくて、泥のボールなんだ！」

泥のボールはなおも言い張ります。「僕が見えないのかい？ 僕は、ほら、こういつたチリとかホコリとかゴミとかでできているんだ。分かるだろう？」

そしてまもなく、そのボールは転がるのをやめます。するとそれはどうなるでしょう？ 元の原料である水が徐々に蒸発して、やがてカラカラに乾いてしまいます。そしてただのチリやホコリに戻ってしまうことになるわけです。

だというのに、そのボールが認識している体験は、泥のボールとして転がり続けてチリやホコリなどを次々と身につけてきたことだけです。そのボールは、自分がそもそも水によって作られたんだということを、もう認識していません。水こそが自分の親だということを忘れてしまっているんです。要するにそれは、泥のボールになった時点で自分自身を分離してしまっただけです。そして我々地球人も今それと全く同じことをしているんです。

別な生き方もある

またその泥のボールは別の生き方もできます。つまり真実を求めて延々と転がり続けることもできるんです。そ

の際にそれはこんなことを言うでしょう。

「彼らが言うように、僕は水なんだろうか？ どう見たって泥のボールだし、水なんかにはとても見えないけどな。でも、もし僕が本当に水から作られたんだとしたら、その水はどこから来たんだろう？ よし、それを確かめてみるか。僕が水だとすれば、その源みなもとが必ずあるはずだ」

そしてそれは転がり続けます。これが、我々が神を探しあてるための、創造主に戻るための、唯一の方法です。

大海原との一体化

さて、その泥のボールは転がり続けて、やがて海岸にたどりつきます。そして最初の波をかぶるや海に飲み込まれ、それまでどんなひどい二オイやゴミを身につけていたとしても、ほとんど瞬間的に浄化されることとなります。

さらには、それを最初に作り上げていた水滴もまた、地面に落ちたときに持ったドームのアイデアを、その瞬間に放棄することになります。

「僕が見えるかい？ 僕は水滴なんだよ」と言った、あの小さなエゴをです。それもまた海の中で完全に消え去ることになるわけです。

そして、海に入った瞬間から、その水滴は海と同等のパワーを手にすることとなります。さらには、海が生き続

けているかぎり延々と生き続けるとともに、その中で発生するいかなることをも認識できるようになります。

我々もまた宇宙的人間として、海に入った水滴のように、あらゆるところに存在しています。我々の真の自己は宇宙的な性質を持つているんです。ですから、我々もまた、もし自分の心を宇宙的な状態に保てたならば、いかなる場所で発生するいかなることをも認識できるようになるんです。

以上が宇宙と我々との関係を説明するための、おそらく最善の方法でしょう。あの水滴は泥のボールができあがるとともに姿を消しました。そして泥のボールは、「僕は水なんかじゃない。泥のボールなんだ」と言い張りました。しかし、泥のボールの存在を可能としたのは水滴でした。

分離の元兇は「心」

水滴は我々の内部の純粋な精神で、泥のボールは、やはり我々の内部の純粋な物質性と言つていいでしょう。その両者は合体しているときにはあらゆる点で同等です。ただ、我々はその両者をつい引き離してしまいがちなんです。その両者は、そもそも一つになりましたがっています。ですから、それらが分離すると当然混乱が生じます。そしてその分離感を決して我々を幸せにしません。



▲1967年3月、ペルーのユンガイに出現した2機のUFO。撮影者不詳。

そこで我々には自己覚醒が必要になります。我々は自分の心をその真実に対して目覚めさせねばなりません。我々の内部にクサビを打ち込んで分離を発生させているのは我々の心なんです。エゴなんです。泥のボールなんです。

我々は、「自分たちの心は、より高度な性質を持つ何かによって作り上げられている。それには親がいる。そうでなければ、その泥のボールは到底存在し得ない」ということを認識しなくてはなりません。そして海に向かって転がり続けねばなりません。海の端に触れるや、我々は速やかにその一部になります。

問 それがいエスの説いた「己をなくす」ということなのでしょうか？

ア その通りです。そのときあなたは、己をなくすことになるわけです。なぜならば泥のボールは海に入った瞬間、もはや泥のボールではなくなってしまうからです。その瞬間、海はそのボールを完璧に分解してしまいます。そしてそれは、その瞬間に泥のボールが海と同じほどに綺麗な物質へと浄化されたことを意味しています。

また、我々の真の自己、すなわち水滴もまた、そのとき全てを包み込んでいる叡知の海と一体化することになります。そしてそのときから、その水滴は海の中で発生するすべての出来事を知覚できるようになるわけです。たと

えどんな事が、どんなに深いところできらうと、どんなに浅いところで、あるいはどんなに広い範囲で起ころうとも、そのすべてを知覚できるようになるんです。

他の生命体は、我々の誰よりも自然の法則に従って生きています。海に住む生物たちを考えてみてください。海の中には、まさにあらゆるタイプの生物が住んでいます。しかし我々は、これらの生物たちを差別する傾向にあります。形あるものが他の形あるものを食べている様子を頻繁に目にするからです。

しかしそれは、泥のボールが他の泥のボールを食べているのと同じことなんです。形あるものは必ず変化します。我々は、形あるもの、つまり物質に、あまりにも執着しすぎています。我々は年とともに自分の体の形がこう変わった、ああ変わったと言っては嘆いています。それよりも自然を観察することです。そうすれば真実が見えてきます。

リンゴの例え

リンゴの体験に目をやってみましよう。あらゆるものがそれと同じような体験をしています。

春になるとリンゴの木は美しい花を咲かせます。そのあまりの美しさにあなただけ言うかもしれません。このまま

ズーッと咲いて欲しい！絶対に散らないで欲しい！一年中咲いて欲しい！だって、こんなに綺麗なんだから！

しかし、皆さんがどんなに願おうとも、自然はその花びらをやがて必ず地上に落とします。そして花びらはいずれ腐って肥料になります。ただ花びらが散った後にはやがてリンゴへと成長する小さな芽が顔を出しています。そして、それが以後、様々な体験をすることになるわけです。その芽は土そのものからはそれほどものは受け取りません。ただし土は、その芽の成長に必要な多くの物の指揮者としての役割を果たします。

さて、そのリンゴはどんどん成長していきます。そして成長過程のある時期に、もし皆さんがそれを取って食べたとしたら、おそらくお腹をこわすことになるでしょう。しかし、やがてそのリンゴは人間のお腹をこわさない価値ある栄養素をたっぷり蓄えて色づき、成熟します。

その時期になると創造主が料（い）なは、か、らいをします。彼はその木を揺らしてくれるんです。それを我々は風と呼んでいます。ちなみに私はそれを神の情けと呼んでいます。いずれにせよ、彼がその木を揺らして熟したリンゴを落としてくれます。そのために我々は熟したリンゴを取るために木登りをしななくてもすむわけです。

食べられることで高次元へ行く

さて、そうやって地面に落ちたリンゴは、初めての痛みを体験します。そのときそれは、父性・母性の両原理から離れて、初めて自分自身の足で立つことになります。地面に落ちたリンゴはその衝撃で傷を負います。そして、もしそこにそのまま続けたとしたら、やがて腐って肥料になるだけです。その場合、そのリンゴは花からリンゴへと成長し、地面に落ち、朽ち果てるという体験のみを得て一生を終えることになりません。

しかし、そこを私が通りかかったとしたらどうなるでしょう？ 私はそのリンゴを見つけ、拾い上げ、食べてしまいます。そのようにして私はそのリンゴの形を破壊してしまいます。その時点でそれはもうリンゴではなくなってしまうことになります。

でも、もしそのリンゴが言葉を話せるとしたら、おそらくこう言うでしょう。

「私を拾い上げて食べてくれて有難う、アダムスキーさん。私はもうリンゴではなくなりました。でもそのかわりに、ジョージ・アダムスキーになったんです。私はこれからあなたの体の一部として、あなたといっしょにいろんな体験をすることができるようなんです」
分かりますね？ もし私に食べられ

なければ、そのリンゴの一生は腐って肥料になることで終わってしまうんです。物質は、宇宙の観知の異なったレベルの表現に貢献するために、そのようにして次々と形を変えていかねばなりません。

テレビの例え

ただ、それは意識ではありません。表現された形あるものは言わばテレビのようなものです。テレビはあらゆる種類のショーや何やらを表現します。テレビと言えば、実は今この時点で、

この部屋には（電波として）多くの人々がいて美しい音楽も流れているんです。ただ皆さんの耳や目はそれらをとらえることができません。彼らは死んでいるわけではありません。ちゃんと生きています。ニューヨークのミュージカル俳優たちが、今ここにいます。皆さんがそれを見て聞くために、ここにテレビを持ってこなくてはなりません。それによって空中から音や映像をピックアップしてもらわねばならないのです。

しかし、人間もまた、それを行なえる段階まで進化する必要があります。テレビという装置を必要としなくなる段階までです。ただしそのためには、まず心（こころ）をその段階まで進歩せなくてはなりません。言い換えるなら、我々の振動数または波動が、そのレベルまで

上昇しなくてはならないということですね。要するにテレビの振動数は皆さんの視覚や聴覚のそれよりも高いわけです。そのためにそれは皆さんに見えない、あるいは聞こえない波動をピックアップできるんです。

それはさらに皆さんのために、その波動の振動数を皆さんが見たり聞いたりできるレベルまで落としてくれていくわけです。良く聞いてください。ここが大切なところですね。もし人間が、テレビも含めて何らかの装置を発明することができたとしたら、それは人間が「自分の心をその装置と同じ機能を果たす程度に進化させられる」ということを意味しているんです。

人間は肉体で生きるのでない

結局、人間の誰もが常にこの宇宙内のあらゆる場所にいるんです。人間はこれまで肉体の中で生きてきたことは一度もありませんでした。それはこれから永遠に変わります。人間の「この肉体の中でずっと生きてきた」という考えは誤っています。それは誤りなんです。皆さんは息を吸うことをやめたならば何になるでしょう？ 死体になります。そして土の中に埋められます。そうですね？ しかし息を吸い続けているかぎり皆さんは元気です。その息とともに様々な想念がやって来ます。地球レベル、太陽レベル、さら

には宇宙レベルからの想念が来ます。皆さんは現象として存在する世界に住んでいるために、自分自身を他の多くの現象に同調させて、それらに自身身を導かせてしまいがちです。そうしているとき、皆さんは、「原因」にではなく「結果」に奉仕しながら生きていくことになるのです。

先程も話したように、もしここにテレビがあつて、それがミュージカルを放映していたとしたら、そのステージ上にいる人々は本物の人々です。しかもそれらの人々は、今、我々といつしよにこの部屋の中にいるんです。もしそうでなければ、テレビは彼らをピックアップできません。そうでしょう？ 彼らはエーテル波に乗ってやって来ているわけです（訳注IIエーテル波とは昔から電磁波を伝える媒質と考えられた仮想物質。後にアインシュタインの相対性理論によって否定された。アダムスキーは電磁波の運び屋としての真空、またはスペースビープルから伝えられた未知の媒体を意味して言ったと思われるが真意は不明）

そして、テレビのアンテナが彼らをピックアップし、彼らの姿を皆さんに見させているんです。しかし皆さんがテレビのスイッチを切ったとしたらどうなるでしょう？ テレビ自体は言うてみれば能無しです。それは、決して知性満ちた装置ではありません。それは、特定の目的を果たす装置の入った、

ただの箱にすぎないんです。

人間もテレビに似ている

我々もそれととても良く似たものを持っています。我々の感覚器官や、我々の肉体を構成する様々な部分もそれと同じような目的を果たすために作られた装置に他ならないんです。皆さんがテレビ受像機にスイッチを入れると、それは皆さんが選択した周波数の電波と、その波に乗ってきているものを吸い込みます。各放送局が受信上の混乱を防ぐために、異なった周波数の電波を送り出しています。皆さんがテレビの周波数を選択すると、テレビはその周波数の電波を吸い込んで吐き出すこととなります。そして皆さんはその吐き出されたものを画面を通じて見ているわけです。

そこで、その画面の映像が止まってしまったとしたら、それが動かなくなってしまうとしたら、つまりテレビ電波を吐き出さなくなるとしたら、それはシャットを起すこととなります。中が焼け焦げて、皆さんは修理を頼まねばならなくなります。テレビが機能し続けるためには、電波を吸い込むとともに吐き出し続けねばなりません。それは一度吸い込んだ電波を吐き出すことによって次の電波を吸い込むことができるんです。

そしてその作業が続けられなくなつ

たとき機能を停止することになります。人間の場合も同じことです。例えばここにこの世界で最も健康な人間がいたとしましょう。彼が完璧な健康の所持者であることは医師によって明確に証明されています。しかし我々がよつてたかつて彼を抑え込み、その口と鼻を完全にふさいだとしたら、おそらく彼は四分もしないうちに、床の上に死人として横たわることになるでしょう。なぜでしょうか？ 生命の息というべき電波を彼が吸えなくなつてしまったからです。それが彼を生きさせていた、あるいは人間にしていた唯一のものだったんです。

テレビ同様、人間の肉体もそれが電波を吸い込み吐き出す作業を通じて取り入れるものに、その機能を完璧に依存しているわけです。テレビは電波を吸い込み、それを吐き出さなかったならば、たちどころにシャットを起し、その時点からテレビとしての機能を果たさなくなります。同様に、もし人間が息を吸い込んで、それを吐き出さなかったとしたら、彼もまたシャットを起し、人間としての機能を果たさなくなる、つまり死ぬことになるわけです。人間が生き続けるためには、息を吸い、吐き出すことを、休みなく続けねばなりません。

人間の本质は最高

ということとは、人間の本质は一瞬の停滞もなく肉体を通過し続ける「生命の息」の中にあることになります。その流れが停止するや、我々の肉体はシヨートを起こし、死ぬことになるわけです。肉体にはそのパワーをコントロールする能力はありません。

そして、それを通じて、あらゆる物事に関するあらゆる知識が我々の内部に入ってきています。人間はそれを通じて、どんなことでも知ることができるとです。事実、これまでの偉大な発見や発明のすべては、様々な個人がそれを通じて必要な知識を得たからこそ、なし遂げられたのです。

人間は、現在この世界に存在する最も優れた装置です。それは、表現され得るいかなるものをも表現する能力を持つ最高の装置なんです。

短気を起さずなかれ

ただ、短気を起さないことです。忍耐の欠如もまた皆さんをシヨートさせてしまいかねません。一〇〇ボルト用の電球に二〇〇ボルトの電流を流すことは決してしないことです。忍耐を持つて着実な進歩を目指すことです。そもそも急ぐ必要など全くないんです。何度も言うように皆さんは(転生によ

って)永遠に存在し続けます。永遠とは終わりが無いということです。もし皆さんが、それを心から信じているとしたら、急ぐ必要など全く感じないはずで、急いで誤った理解を持つてしまったりすれば、それによって自分のみならず他の人々をも傷つけることとなります。気を楽に持って、ゆったりと構え、一つひとつ、正しい理解を深めていくことです。

自分自身を知ること

ところで皆さんは、「自分自身を知れ。そうすれば、あなたはすべてを知るだろう」という言葉をよくご存知のはずです。訳注Ⅱこれは中部ギリシャのフォキス地方の古代都市であったデルフォイの神殿の扉に刻まれてあった有名な言葉。我々が行なうべき最も重要なことは、教会の言うことを聞くことなどではなく、自分自身を知ることです！もちろん心靈主義者や神秘主義者たちの話を聞くことでもありません。皆さん自身の内部にあるもの、その肉体を休みなく通過して、心という受信機に受信され得るもの、それこそが重要なんです！

その事実を知ることが、「自分自身を知ること」なんです。そして、肉体を通過しているものに心を同調させたとき、皆さんはすべてを知ることになります。そのとき皆さんはあらゆる知

識を得ることが出来ます。それ以外に加えるべきものは何一つありません。しかも皆さんの肉体という装置はそれを完璧に行なえるように作られているんです。

ただし、皆さんがすべてを知るのを妨げているものが一つだけあります。皆さんの心、エゴ、あるいは個性がそれです。我々の誰もがエゴを持っています。そして我々は常にそのエゴを満足させようとしています。あるいは自分の(目、耳、鼻、口等の)感覚器官にばかり従おうとしています。そのようにして創造主はもとより、自分の高次元の自己をさえ喜ばせようとはしていません。つまり原因に奉仕しようとするのではなく、結果を喜ばせようとしているわけです。

人間は四つの感覚器官だけを持つ

例えば、人間の心は五つの感覚器官によって作られていると言われてきました。中には六つだと言う人もいます。しかしそれは事実ではありません。人間の心は四つの感覚器官によって作られています。それが自然の法則に合致した数なんです。他のいかなる考え方も自然の法則に合致していません。その四つとは、視覚、嗅覚、味覚、そして聴覚です。いわゆる触覚は肉体の神経反応あるいはフィードバックによって引き起こされる反応にはかなりません。

そのフィードバックは明らかに一種の感覚です。ただし今言った四つの感覚とは全くレベルの違う感覚です。それは言わば宇宙的感觉あるいは意識です。それがなければ四つの感覚器官はどのようなも機能できません。

例えば皆さんは視覚を素晴らしい発達させて、遠くのものテレビの助けを借りなくとも見られるようになるかもしれません(遠隔透視)。いかなる装置も用いないでニューヨークの演奏会を聞けるようになるかもしれません(テレパシー)。まだ咲いていない花の香りを嗅いだり、まだ食べていない食べ物、味の味わたりすることも、できるようになるかもしれません(未来予知)。そのとき皆さんは四つの感覚器官をとつともなく発達させた、言わばスーパー人間です。でももし皆さんが「意識」を永遠に失ってしまったとしたらどうなるでしょう？ いかに発達した感覚器官を持つと、その瞬間から皆さんはそれらを全く利用できなくなります。そのとき皆さんは死体として横たわることになるのです。

またこの世界には、肉体の特定の感覚は失っている「意識」を所持しているという人もいます。彼らは例えば目が見えないために書くことができないかもしれません。でも彼らは自分のアイデアを言葉で表現できます。彼らはアイデアを言葉にして語ることで、素晴らしい偉業を達成できるかもしれ

ません。それも皆、彼らが「意識」を所持しているからです。

人間の本质は「意識」

結局、四つの感覚器官はその存在を「意識」に依存しているわけです。心にはありません。心は肉体の四つの感覚によって作られているものです。当然のごとく「意識」はその存在を心に頼っているわけではありません。それは完璧に自立しています。そして「意識」こそあらゆる人間とあらゆる形ある物の本質なんです。その意識がフィリングを発生させ、そのフィリングが四つの感覚器官に感知力を与えているわけです。そのフィリングがなければ感覚器官は何も感じることができませんし、生きててもいられません（訳注：右の四つの感覚器官の作用については、新アダムスキー全集第二巻「超能力開発法」と第三巻「生命の科学」に詳述してある）。

人間に内在する「叡知」が最高

これを証明する事実他にもありません。皆さんのうちの誰か、例えばあなたが今妊娠しているとしましょう。あなたは自分の体の中にいるその小さな形あるものが、今後どのような成長することになるのかを少しでも知っているでしょうか？ 知らないはずで

す。正確には何一つ知らないはずです！ それを正確に知りえた人間はただ一人として出現していません。

また、今日我々は素敵な昼食をいただきます。あなたもそれを単に出されたからか、お腹がすいていたからか、どちらかの理由で食べました。でも、あなたは、あなたの心はあなたの体の中で、それが今どのように消化され、代謝されているのかを知っているでしょうか？ いや、あなたは今、それを「他の何か」に委ねているということしか知らないはずですよ。

あなたが食べたものの面倒を見ていて、その「他の何か」は、あなたの心でもなければ、あなたの感覚器官でもありません。それは、今、あなたの体の中で、やがてあなたの赤ちゃんとなる「形あるもの」を成長させているものと全く同じものです。つまり、そこにはある「叡知」がすでに存在しているんです。それは地球上に人間と呼ばれる最初の形あるものを出現させた「叡知」と、あらゆる点で一致しています。すでに、そこに、あなたの中に「大いなる叡知」が存在しているんです。あなたはそれを探しにどこかへ出かけて行く必要など全くないんです。そして、あなたは妊娠して間もないとき、表立った変化が全く現れていなくても、その事実を知ることができません。あなたはもちろん、それを肉体的な目で見ることができません。しか

しなせ、それをすることはできるんです。何かがお腹の中で起こっていると感ずることによってです。あなたの「心」はその事実を知りません。でも、あなたはそれをフィリングを通じて知ることになるんです。

では、そのフィリングとは何なんでしょう？ フィリングとは覚醒の状態です。そして覚醒の状態とは「意識される意識」です。その状態はあらゆる形あるものに先行しています。それは宇宙的です。結局、人間は皆、それぞれが「宇宙の総合的意識の一本の光線」に他ならないんです。皆さんは、それを救世主と呼ぶこともできます。

「宇宙の魂」との一体化

問 その部分が、私たちが死んでも残るわけですね？

ア ええ、そうです。ただ、皆さんがもし自分自身をその観点から知らなかつたならば、それを決して認識できません。例えば皆さんは私をアダムスキーという名前前で知っているわけです。そして、もし私が死んで、次にどこかに行つたとしたら——他の惑星かもしれないかもしれませんが——いずれにせよ、そのとき私が同じ名前前で呼ばれることはまずありえないことです。そのとき皆さんは、私を（アダムスキーという）名前前で探そうとしても、決して見つけ

だすことはできません。なぜならば、それは私の前の生涯のエゴにつけられたラベルにすぎないからです。でも、もし皆さんが私の真の自己を知っていたならば、どこで会っても私を見つめることができます。

だからイエスは、「肉体を殺そうとする者を恐れることはない。しかし、魂を殺そうとするものを恐れねばならない」と言つたんです。個人の魂は「宇宙の魂」と一体化しなくてはなりません。ちょうど、あの泥のボールの水滴の海の水と一体化したようにです。皆さんがそれを行なうまでは、皆さんの真の自己、すなわち「意識」は、それ自身を次々と別の形あるものの中で埋没させ続けることになるでしょう。でも、それが破壊されることは永遠にありません。（以下次号）



UFO contacteeバックナンバー主要記事

★在庫は101号105号以降全部（100号以前と102, 103, 104号品切れ絶版）。96年4月よりバックナンバーのみ1冊¥700に値下げ断行。代金後払い可。ハガキに号数、冊数、住所、氏名、電話番号を明記して日本GAP宛気軽にご注文下さい。バックナンバーの送料は本会でサービス。

No.132 1996年(平成8年)1月25日発行 ¥700

別な惑星の文明と創造性——秋山真人
 イエスの時代を透視する——遠藤昭則
 奇跡を起こすイメージ療法——原 永倉
 宇宙船の形態に関する一考察——遠藤昭則
 アダムスキーの思い出と彼の宇宙哲学—アリス・ポマロイ
 好評、名古屋市の講演
 東京造形大学で講演

No.131 1995年(平成7年)10月25日発行 ¥700

アダムスキー問題と日本GAP——久保田八郎
 ワシントン、ニューヨーク両市でUFOがひんぱんに出現！—加藤淳一
 私もワシントン市でUFOを見た！——清水 正
 カイパーベルトはアダムスキーの主張を立証するか——植木淳一
 アダムスキー大会を思う—岡田茂/西川太/大根田匡史/加藤路徳
 熱烈な呼びかけに応えたUFO——石井一江
 私のUFO目撃と宇宙的な生き方——忍田裕昭
 宇宙時代の夜明け——村上博一
 人間の肉体・意識・テレパシー原理——G・アダムスキー

No.130 1995年(平成7年)7月25日発行 ¥700

M氏の「UFOと異星人」体験——久保田八郎
 アダムスキー型UFOの飛行原理を解明——遠藤昭則
 超能力者ディナの驚異のパワー——久保田八郎
 異星人女性との出会い——佐々木八郎
 スペースビートルを見かける私——原垣内良子
 透視・臨死体験・不思議な女性——千葉福造
 白山のUFO——沼倉孝彦
 父と従兄が「UFO」目撃——高橋克彦
 人間の肉体・意識・テレパシー原理——G・アダムスキー

No.129 1995年(平成7年)4月25日発行 ¥700

地獄の大地震からの奇跡の脱出——平塚和義
 大地震を前夜予感した私——西村悠子
 偉大な教訓となった大地震——田辺健司
 ロスで見かけた異星人女性——加藤純一
 アダムスキーの大地を訪れて——黎明会有志
 巨大母船、安比高原に出現！——秋山和広
 サイコメトリーによる書物の質の感知法——林 国宣
 UFOの速度・肉体と魂・
 真の科学・長寿法——G・アダムスキー

No.128 1995年(平成7年)1月25日発行 ¥700

アダムスキー・永遠の真実と栄光——ダニエル・ロス
 わが母の驚異のUFO目撃——ミシェル・ジルガー
 総会の日にUFO出現
 那須高原で巨大母船出現！——堀江健一
 ダニエル・ロス氏宅訪問記——久保田八郎
 あなたもオーラが見える——遠藤昭則
 予知能力を持つ土星人女性の援助——G・アダムスキー

No.127 平成6年10月25日発行 ¥700

UFO出現の国—メキシコ——久保田八郎
 ロズウェル事件とMJ12文書——坂本貢一
 UFO目撃と不思議体験の旅——4名執筆
 私もアダムスキー型円盤を見た！——田口邦雄
 UFOとオーラと想念——山崎和子
 奇跡的に難病を治す方法——久保田八郎
 異星人とUFOの真相②——G・アダムスキー

No.126 平成6年7月25日発行 ¥700

驚異の瞬間移動とUFOの超低空降下——久保田八郎
 UFOを頻繁に見る私のカルマ②——溜池みゆき
 私も母船を見た！——津田篤孝
 ム—大陸から見た原日本人——澤入達男
 昔のUFO目撃の思い出——橋本恵一
 異星人とUFOの真相①——G・アダムスキー

No.125 平成6年4月25日発行 ¥700

UFO、デザートセンター上空を飛ぶ——久保田八郎
 私はアダムスキー型円盤を至近距離で見た——大野義和
 UFOを頻繁に見る私のカルマ——溜池みゆき
 不思議な予知透視——米川宣雄
 突然出現した不思議な人間——千葉敏江
 生命と物質と超能力——伊藤睦史
 異星人はなぜ地球へ来るのか——G・アダムスキー

No.124 平成6年1月25日発行 ¥700

信念の力、希望の力、絶対に諦めない力を起こす方法——久保田八郎
 今世紀末、大変動発生なし！——秋山真人
 私を助けてくれる異星人達——上原則子
 アダムスキー型円盤、長時間出現——石井佳子
 浅草上空に出現したUFO——堀江健一
 UFO・宇宙・人間——G・アダムスキー

No.123 平成5年10月25日発行 ¥700

凄い超能力者のUFO目撃と遠隔透視——編集部
 私を助けてくれる異星人(1)——上原則子
 山梨県に出現した巨大UFO——編集部
 エゼキエルはUFOを見た？——久保田八郎
 私はアダムスキー型円盤を見た——海瀬安子
 UFOと異星人の真像——G・アダムスキー
 謎の古代マヤ遺跡とUFO——久保田八郎

No.122 平成5年7月25日発行 ¥700

金星文字を解読してUFOの推進原理を解明！——バシル・バン・デン・バーグ
 星々への切符——遠藤昭則
 オメ教授が発見した金星？文字——久保田八郎
 不思議な体験連続の人生——千葉福造
 オーラで異星人を見分ける——紙屋光孝
 私だけが見るUFO——須山有美子/宮本浩子
 万物は人間の想念に感応する——塩谷信男
 四感・生命の息・転生——G・アダムスキー

No.121 平成5年1月25日発行 ¥700

パロマー山にUFO出現——久保田八郎
 宇宙ボタルはUFO——久保田八郎
 アダムスキー型円盤、超低空で東京をかすめる！——
 江戸川堤防の怪光体——鈴木 武
 不思議な筒状の雲——沼倉孝彦
 人間・イメージ・波動——佐々木八郎
 驚異の超小型円盤と宇宙の永遠の活動——G・アダムスキー

第6回 秋田支部大会

全国の日本GAPの皆様にはお元気で過ごしのことと存じます。今年も秋田支部は第6回目の支部大会を開催致すことになりました。久保田先生をご招待して宇宙的な素晴らしいご講演のほか、昨年9月に米ワシントン市で開催されたアダムスキー大会の様を撮影したビデオを会場で映写致します。久保田先生の英語による講演、ニューヨーク上空を飛ぶ白銀色のUFOの実写、その他の珍しい場面が展開。質疑応答ではうんとご質問を。翌日は鳥海山麓の由利原高原へ観光。風光明媚な平原で大宇宙思念を。楽しさいっぱいの秋田支部大会に多数ご参加ください。宿舎は安くて豪華版のパークホテル。早めにご予約のほどを。支部一同あたたかくお迎え致します。

秋田支部代表 伊藤正治

今年も秋田支部大会が開催されることになって心からお喜び申し上げます。同支部は隔年で開催するそうでした、その熱意に衷心より感謝しております。秋田は非常に波動の良い街で、そのせいかUFOがよく出現すると聞いています。今回も精一杯の努力を傾注しますので、よろしくお願い致します。

日本GAP会長 久保田八郎

- 日 時 1996年(平成8年) 6月8日(出)
- 会 場 秋田パークホテル 新館「寿の間」
秋田市山王4-5-10 ☎0188-62-1515
- 交 通 JR秋田駅=バス土崎・寺内線でNHK前下車。
秋田空港=リムジンバスで終点の県庁・市役所前下車。いずれも徒歩10分。
- 会 費 ￥2500 (全員記念写真代￥1000は別途前納)
- 宿 舎 秋田パークホテル (予約については下記を参照)
朝食付シングル ￥7100 (税込)
- 夕食会 午後6:00~8:30 新館「ゴールドの間」
- 会 費 ￥6500

プログラム

司会 田村勝則

- 12:00 受付
- 13:00 支部代表挨拶 伊藤正治
- 13:05 講演「UFO問題の真相と宇宙的な生き方」 久保田八郎先生
- 14:30 ビデオ映写「ワシントン市のアダムスキー大会、ニューヨーク上空を飛ぶUFO、その他」
- 15:00 全員記念撮影・休憩
- 15:30 質疑応答 久保田八郎先生
- 17:00 閉会

- 観 光 6月9日(日)朝9:00~午後4:00
- 行 程 9:00ホテル出発(マイクロバス)。11:00由利原高原着、着後観測会。12:00昼食、自由行動。2:00由利原高原出発。4:00秋田駅着。解散。
- 参加費 ￥2000 (昼食代含む)
- 申 込 8日の夕食会、ホテル宿泊、観光参加等の希望者は5月15日までハガキで下記へお申し込み下さい。詳細案内書をお送り致します。
〒010 秋田市山王新町15-4 伊藤正治
☎0188-62-2831
- 交 通 <電車> 上り東京行きは田沢湖線がミニ新幹線工事のため使用不能。奥羽線・羽越線回りか、あるいは横手・北上線経由となります。
<航空> 秋田空港発東京行 ANA878便 16:55発
ANA880便 19:45発

※ご注意 6月の秋田支部月例セミナーは、2日(日)に開催致します。

▼秋田パークホテルの新館



アキタパークホテル

〒010 秋田市山王4-5-10 ☎(0188)62-1515(代)

Letters

ユークン広場



会長の名文を愛す

愛媛県 小野 守

旧年中は何かとお世話様になり、厚く御礼を申し上げます。これは儀礼的な挨拶ではなく、私は、先生のご存じない所で、久保田先生には測り知れない素晴らしいものを一杯頂きました。本当です。

過日は丁寧なご書簡と「意識の声」を、まことに有難うございました。あれから早速詳細をお書きしたのですが、あとで読み返してみても、イヤな思い出を記す事は辛いこととすし、その思いが先生に届く事はもっと辛い事です。人道にはずれる事はしていませんし、大過なく済みましたので、私の胸の内だけで忘れることにしました。今日まで御返事の遅延がずっと気にかかっていました。どうかお許し下さい。そして今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

一カ月前に「UFOと宇宙哲学の行方」を購入しました。久しぶりに先生のお厚い御本に出会えて驚喜しました。ひとつには、私はむかしから久保田先生の名文が大好きなのです。それから久保田先生の豪快なお人柄と風格は私達の希望の星です。先生は今でもとても魅力的で、あらゆる面にセンスがよく、私達の理想です。どうかいつまでも御指導下さい。先生の若かりしころのお写真には、あまりの美青年に感嘆しました。

投稿歓迎字数を問わず。匿名発表可なるも住所氏名明記のこと。

名古屋の大会の大成を祝う

愛知県 古川弘明

昨年一月三日の日本薬局共助会愛知合同支部大会の特別講演を本当に有難うございました。大成功に終わりを感謝致しております。

(編注)この大会で編者は「太陽系文明と宇宙哲学」と題する講演を行った。詳細記事は本誌(一三二号)やつと肩の荷がおりた気分でございます。久保田先生の特別講演の企画は私ならではと改めて注目されました。また非常に喜ばれました。変わった話、夢のような話、面白い話、何となく分かる等々、色々と言われました。

二月一〇日、共助会の代表者会合のとき、若手の一人から「超人ジョージ・アダムスキー」(中央アート出版社刊 新アダムスキー全集第一〇巻)をひと晩で読んだと聞き、非常に嬉しく思いました(編注)この書は当日出席者全員に愛知合同支部からお土産に贈られた。

始めは一人でも二人でも理解する人がいればと思ったのですが、多くの人に心が起こって大成功に終わる感謝致します。今後が楽しみです。

先日先生の新刊本「UFOと宇宙哲学の行方」を早速贈呈し、本当に有難うございました。まだ忙

しくて半分読んだところですが、スバラシ本だと喜んでいきます。今後もし色々御指導賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

永遠に忘れないアダムスキー哲学

愛知県 久田則子

昨午名古屋の日本薬局共助会の大会で会長のお話を聞けたこと、また夕食会のときに身近で同じ時をすごせたことを心より御礼を申し上げます。あのとき、実は会長の近くに行くと、会長から放つフイーリングで涙がこみ上げてきて、何度も泣いてしまいました。

私が病氣とわかって「病氣」を治そうとした頃、上空から(テレビジョン)コールをすれば毎日と言ってもいほど)応援して頂いたプラザーズに、そしてアダムスキーに、そしてこの素晴らしい「宇宙哲学」を伝えて知らせして下さいました久保田会長には本当に有難うございました。

私は日本GAPの会員でありながら「アダムスキー哲学」を枕に眠っております。GAP哲学さえ知ってれば大丈夫などと習慣念をつくり、頭で考え、それを毎日の生活に生かすことすらどうしてよいかわからなない状態でした。自分で穴を掘り落ち込んで穴の中から抜け出そうともがいておりました。病氣も長い間の想念が結果として出たのでした。病氣は自分にとって意識を変える最大の突破口でした。今はすべてに感謝しております。

名古屋支部の林さん、山本さん、蒲さん、本当に有難うございます。この三人の方々にはものすごいパワーで本当に私を導いて下さいました。

私ので私を見守って下さる方々や御先祖、家族に心より御礼を申し上げます。

私の意識の根底に「アダムスキー哲学」が眠りながらも常にあつたという力が、私を支えてくれた大きな力です。前進あるのみですね。進化した人々になる為に努力してゆきたいと思えます。私が今度転生してもGAP哲学は忘れません。何度転生しても必ず持つてゆこうと誓っています。

アダムスキー哲学に縁があつたこと、そしてこの哲学を伝え知らせて下さいました久保田会長には本当に本当に有難うございました。そして最後に私の「宇宙の意識」と「プラザーズ」さんに感謝致します。

日本GAPを援助したい

鹿児島県 小山三紀子

久保田先生、こんにちは。今日はお願いがあつてお便りました。先生や日本GAPの為に何か仕事をしたたいと思っております。何か私にできることがあればお手伝いさせて下さい。

二四歳のとき、結婚と同時期にリウマチという病氣になり、お医者さんからは一生治りませんと言われました。そこで、自分で治る道を探りながら(本当はいろんな人に助けてもらっているのですが)十年以上過ぎてしまいました。

その間、「マシーの法則」という本に出会い、そしてまもなくジョージ・アダムスキーさんの「宇宙哲学」に出会いました。この本を読んだとき、「この地球上で私が読みたかったのはこの本だ。この一冊を

探し続けていたんだあ」と大声で叫びたいほどでした。そしてアダムスキーさんの写真を見るたびに、その優しさや豊かさや正しさといったようなものに包まれる感じがして涙が出てきます。

その後、日本GAPの存在を知り、入会。アダムスキー全集を手に入れて読み続けました。この頃はもうゴクゴクと喉を鳴らしながら読破していったというような感じでした。

UFOの目撃体験はほんの少ししかありませんが、四〇五年前に初めて見たときがとて印象的でした。思いがけず、突然といいますが、あるいはグッドタイミングでいいますか、ヒョイと空の方を向いたとき、そこに二機の美しい母船(だと思えます)が、静かに一列に並んで移動していました。

しかも「それでいいんだよ」というメッセージを受け取ったのです。私にはそんな気がしたのです。心身ともに非常に苦しいときだったので、「自分は間違っていないんだ」という思いを強くしました。初めて見たのにとて懐かしく、安心できてとても楽しくそんなそこへ(母船の中へ)すぐにも飛んで行きたいなあ、という感覚になつたのには我ながら驚きました。

現在は「UFOコンタクトキー」と久保田先生の「意識の声」を読ませて頂いています。しかし読んでいるだけでいいのだろうか、何かしなくていいのだろうか、という思いも募ってきているところです。

体の方はだいぶ回復してきました。しかし、まだ全快とは至っておりません。体の複数の関節に痛み

があり、動きが不自由です。今のところ一番大変なのは左膝の痛みです。けれど、そのうち何とかなるだろうってな、のんきな気持ちで、しかし、あきらめずに全快を目ざしています。こんな状態ではありますが、何か小さなことからでもお手伝いできるんじゃないだろうかという思いでお便り致しました。

水五則
神奈川県 高田幸子
お正月はいかがお過ごしでしたか。アダムスキーに一生をかけた先生の熱意を思うにつけ、すごいという一語です。外の星ではますます人々がエゴをなくした楽園を生きてるのに、地球の歩みは遅いんですね。外に出て働いていると、自分のことしか考えない保身タイプの人々に囲まれて、異国にいるようです。エゴのない水のような人はめったにない。

北海道 佐藤史朗

いつも「UFOコンタクトデー」を送って頂き、有難うございます。実は今から二年前の晩秋の頃、一人で歩道の左側を歩いていました。通行人は僕と前から来た人と二人しかいませんでした、前から来た人は歩道の右側を歩いて来たのですが、なんとなく目が合つてよく見ると、背が高く、頭が良さそうで、黒いサングラスをかけて背広を着ています。わざと田舎から来たように旅行鞆を肩から背負っていました。

僕はなにげなくGAPのことを考えていたのですが、するとその通行人は急に左側の道路の僕の方へつかつかと寄ってきて、体をすれ違うようにして行っていました。

僕はもしかするとスペースピブルかと思いましたが、今でも疑問に思っています。その街の近くには大きな本屋があり、その人はそこへどういう本が売られているか調べに行つたのかなと後か思ったのですが、今でも疑問に思っています。過去にそういうことがあったので、あまり自信はありませんが、ご報告申し上げます。

水五則
一、みずから活動して他を動かさむるは水なり。
一、常に自己の進む道を求めてやまざるは水なり。
一、障得に逢い、激してその勢力を百倍し得るは水なり。
一、みずから清うして他の汚れを洗うは水なり。
一、洋々として大洋を満たし、発しては蒸気となり雲となり雨となり、雪を交じ霧となり、凝っては玲瓏たる鏡となりて、しかも水の本性を失わざるは水なり。
では今年も一層研究に打ち込んで下さい。時はとまっています。だから老けないというのが私の変な理屈です。

超能力開発の実践

茨城県 川窪康寅

二一世紀からは地球でも生きてゆくためには、テレパシー能力の開発がなくてはならない時代になると思うのです。

私もGAP会員としてテレパシー

開発に積極的になじめに考えている人との交流を望んで私は友達に古くなったユーコン誌をあげたりしているのだけれども、何の感想も言ってくれません。だからせつなくあげて読んでもらってもだめなのです。その人はテレパシクな感覚はあるのだけれども、どうも本を読むことはあまり好きではないらしいのです。だから私はもう一度アダムスキー全集を全巻読み返し、言葉で表現してみようと考えています。

私にはテレパシー訓練をする友達がいないので、もし協力してくれる人がいるのならば、年齢は問わないのでご連絡下さい。ただし心靈や宗教、オカルト、神秘主義を増進する人は避けるのでご了承下さい。

卑劣な妨害活動をやめよ

北海道函館市 Y・K

いつもユーコンを拝見させて頂いている一(女性)会員です。ユーコンに載せて頂きたくお便りしました。最近、元会員と思われる人から写真や手紙等が何通か届き、少々戸惑いを感じている次第です。悪く解釈すれば彼らの意図や目的は、私には何となくわかっていきます。私自身は会員になってから五、六年になりましたが、努力はしているものの、アダムスキーの言う宇宙意識については程遠い人間であると思っております。

彼らはUFO自称コンタクトにより、自分達は選ばれた人間であると考えているようですが、アダムスキーでさえ、そこに到達するまでには長年に渡る訓練があったはずで、その努力は到底真似のできるものではあ

りません。いくらカルマ的な要素が絡んでいるからとはいえ、目撃した事で有頂天になったり、選ばれた人間などと安易に解釈するのは幼稚な事であると考えています。私は今後もただ久保田会長を師とし、自分の中に宇宙の意識を引き出していく事を目標とさせていただきます。

から彼らのような人達が出たことは残念です。すでに(GAP)に所属してないのでしたら、現会員に対してGAP活動に関係のない手紙や写真を送るべきではないと思います。本当に選ばれた人達であるなら、もっと別な型で社会に貢献して欲しいものです。

ご注意

日本GAP

右の函館市のY・Kさんからの投書にもありますように、近来、元日本GAP会員であった者達が、誰の目で見ても分かる地球製飛行機を「飛行機型UFOだ」と称し、さらにこの頃はスペースピブルとコンタクトしたと称して文書や飛行機の写真等を多数の日本GAP会員にばらまきながら妨害行為を行なっています。彼らの言う飛行機型UFOなるものは存在しないと秋山眞人氏は言っておられます。本誌一三二号の遠藤昭則氏による科学記事も参照して下さい。

新アダムスキー全集第五巻三六三頁に、編者が昔あるグループに属していた頃、内部の異常分子達により分裂した件でのアダムスキーに対する質問の回答が掲載されています。それに沿いますと、かつてアダムスキーの秘書であったルーシー・マクギニスが何者かに惑わされて離反した件を例証し、編者に激励の言葉を寄せています。ルーシーはその後、不幸な境涯におちいつて寂しくこの世を去りました。他人の錯乱した想念に同調しますと自分の運命を狂わせることになりま

すから、会員の皆様方は重々ご注意下さい。これは自己の想念選択のための訓練でもあります。

日本GAPは宇宙哲学の研究と実践により万全の態勢のもとに活動を続行していますからご安心下さい。昨今は世紀末現象により種々の倒錯した事件が続発しますが、宇宙哲学を基礎にした生き方を続けるならば安泰な生活の確保が可能になります。デマに惑乱されぬように自戒が必要です。

万物を生かす「宇宙の意識」との一体感は、他人の狂った心、に同調することではありません。高次元なレベルを目標にするには理解力のある優れた人達との交流が大切です。

George Adamski

新アダムスキー全集

ジョージ・アダムスキー＝著／久保田八郎＝訳
全面改訂・改訳／全10巻／各 四六判



超絶した文明を持つ、太陽系の他の惑星群の人々と CONTACT したアダムスキーを米政府機関は密かにマークしていた！UFO や惑星群の驚異的実態と深遠な宇宙思想を伝える本全集は、地球人類に宇宙的覚醒の必要性と真の生き方を示す永遠の古典。UFO と宇宙哲学の研究者にとって必読の名著。旧全集を全面改訂した最新決定版。世界に類書なき金字塔！

① 第2惑星からの地球訪問者 ●352頁●定価＝1,980円

UFO 研究者として世界的に著名なジョージ・アダムスキーの、1952年11月20日、米カリフォルニア州の砂漠に着陸した円盤から出てきた金星人との会見から始まる驚異的な CONTACT 実録。著者自ら円盤や母船に乗り込み、他の惑星の超絶的大文明の実態を明かにする、本全集の中心の書。写真多数収録。

② 超能力開発法 (テレビジャー、遠隔透視その他) ●192頁●定価＝1,300円

世間に氾濫する通俗的な超能力開発法とは根本から異なる宇宙的能力の発現法を説いたもの。目、耳、鼻、口、の四官をコントロールして、肉体内部の宇宙の意識から来るメッセージを感じ、真の意味でのテレビジャー、遠隔透視その他の超能力を身につける方法を具体的に詳述。類書皆無の重要文獻。

③ 21世紀/生命の科学 ●208頁●定価＝1,300円

アダムスキーが他界する前年に出した12冊分の講座を一冊にまとめたもの。アダムスキー宇宙哲学の総括的な一大金字塔。特に人体細胞の実態と真実のテレビジャー、及び霊界通信の誤り等を科学的に解説した超能力開発指導書。心霊現象への接近を警告する画期的な理論を明快に説く、第5巻の続編として必読のテキスト。

④ UFO 問答 100 ●216頁●定価＝1,300円

1958年にアダムスキーは、世界中から来る質問の洪水を分類して質疑応答集を出した。全部で100問の UFO 関係の質問に懇切な回答を与えている。現在の混迷した世界の UFO 研究界に的確な示唆と回答を示すものとして、内容は今も驚くほど新鮮で有用である。UFO 研究者の素晴らしいガイドブック。

⑤ 金星・土星探訪記 ●380頁●定価＝2,400円

アダムスキーが母船に乗せられて、想像を絶する進歩をよげた金星と土星を訪れた体験記。特に金星人の少女として生まれかわった亡き妻メリーとの劇的な対面が圧巻。第2部には1958年以来、日本におけるアダムスキーの代理人として啓蒙活動に専念している久保田八郎宛の多数の書簡を収録。

⑥ UFO の謎 ●262頁●定価＝1,980円

UFO の推進原理をはじめ、聖書と UFO との関連などを詳述して様々なミステリーを解明した重要な文獻。第2部はアダムスキーの世界講演旅行記で、各国 GAP 網の活動状況が克明に描写されていて1960年代の UFO 研究界の実情と一般人の宇宙観がよく理解できる。第1巻の続編。

⑦ 21世紀の宇宙哲学 ●148頁●定価＝1,030円

地球人が真に宇宙的な成長をとげるための基本的思想として、マインド (心) と肉体内部に宿る宇宙の意識との一体化を説いた書。既成のあらゆる宗教や哲学では理解し得なかった人間の意識と万物との関係を説いて21世紀の思想を先取りした。第5巻、6巻と合わせてアダムスキー哲学の三部作をなす。

⑧ UFO・人間・宇宙 ●370頁●定価＝2,400円

アダムスキー支持活動団体として世界のトップクラスをゆく日本 GAP の機関誌に掲載された、アダムスキーの UFO と宇宙哲学関係の論文、講演録等を編集。他界する直前の最後の講演が圧巻。第2部には訳者、久保田八郎が再三渡米してアダムスキーの今も亡き高弟たちと接したインタビュー記事を収録。

⑨ UFO の真相 ●320頁●定価＝1,980円

アダムスキーの薫陶を受けた人達の論説・講演録等を収録。宇宙の実像と人間味豊かな庶民性をあわせもつ偉人の素顔を多角的に描写。アダムスキー氏の高弟アリス・ボマロイ、キース・フリットクロフト、ハンス・ピーターセン、金星文字を解説して画期的な永久モーターを開発したバジル・バン・デン・バーグらの証言が白眉。「サンビエトロ大寺院の異星人」と題する久保田八郎の体験記も興味深い。

⑩ 超人ジョージ・アダムスキー ●232頁●定価＝1,300円

歴大な新アダムスキー全集の最後をしめくくる完結篇。アダムスキーの宇宙的な活動と深遠な哲学を集約して伝えるとともに、彼の伝記をも加えてこの巨人の人間像を克明に描写。これ一冊でアダムスキー問題の何たるかが理解できる全集のコンパクト版。豊富な写真入り。国際的なアダムスキー研究者・久保田八郎が書き下ろし執筆。

別巻 UFO-宇宙からの完全な証拠 ●480頁●定価＝2,800円

ダニエル・ロス＝著／久保田八郎＝訳

アメリカの気鋭 UFO 研究者ダニエル・ロス氏が全力で展開した UFO 問題の真相。月・惑星探査結果に関する NASA (米航空宇宙局) の隠蔽工作を暴露し、アダムスキーの体験の真实性を科学的に実証した画期的な内容の本書は、UFO の研究者のみならず、宇宙科学に関心ある人にきわめて有益な知識情報の源泉となる。写真多数掲載。



中央アート出版社
〒104 東京都中央区京橋3-7-13
TEL=03-3561-7017 / 郵便振替=00180-5-66324

*新アダムスキー全集全巻をまとめてご注文頂きますと定価の10%引き+送料がサービスとなります。
*定価は、全て税込みです。

UFOと宇宙哲学の行方(ゆくえ)

●久保田八郎著 定価1650円 送料310円 四六判・288頁

本書はわが国UFO研究界の第一人者・久保田八郎が「UFO contactee」に長年にわたって掲載してきた記事や講演から選りすぐって編集したもので、UFO問題とアダムスキー哲学に関する著者の研究の集大成ともいえる内容になっています。2部構成になっている本書は、まず第1部でUFOと異星人に関する様々な問題について著者の見解を示し、続いて第2部では、アダムスキー哲学を人生に生かしたり、難病の治療に应用する実践法を明らかにしていきます。UFOを研究する人のガイドブックとしても最適の書です。



UFOと異星人の真相

●久保田八郎著 定価1650円 送料310円
四六判・256頁



UFO研究の第一人者・久保田八郎が書き下ろした本書は、別な惑星へ行ってきた青年の驚異の体験をもとにUFOの内部の様子や作動原理、異星人の文明の実態等を明らかにしていきます。加えて超能力等の問題や、氾濫するUFO関連情報の真偽にも迫るUFOを研究する人の必携の書です。

UFO・遭遇と真実—日本編—

●久保田八郎著 定価1500円 送料310円
四六判・264頁



日本で発生した驚異的なUFO事件を8件選び、わが国UFO研究界の第一人者・久保田八郎が書き下ろして読みやすく編集した本書は、実証主義をつらぬく著者が徹底的に調査した結果、真実そのものであると確認した事件のみを流麗な筆致で活写。読者を大気圏外の世界へ誘います。

*上記の書籍は日本GAPでも取扱います。著者の署名捺印入り。
ハガキでご注文下されば代金後払いで直送します。



中央アート出版社

〒104 東京都中央区京橋3-7-13
TEL=03-3561-7017 / 郵便振替=00180-5-86324

英文版「UFO contactee」No.11 日本GAP

B5版/12頁/コート紙使用/¥500 送料¥190/5冊まで¥270/6冊以上¥390 (NO.1~3は品切れ)

日本GAP発行英文版「UFO contactee」誌は、たんなる興味本位や猟奇趣味を排した理想主義的なUFO専門誌として、世界のUFO研究団体や個人研究者から絶賛をあげています。多数のUFO専門誌はオバク宇宙、誘拐事件、その他恐怖心をあおるような記事に終始していますが、日本GAPは日本語版、英文版とも地球世界の未来に大いなる希望をもち、人間の無限の可能性を引き出すための指針に満ちた記事を掲載しています。英文版第11号には1994年度総会におけるミシェル・シルガー氏の英語講演の全文を主体に、きわめて有益な記事と写真を流麗な英文で掲載。ご注文は代金後払いで結構です。

編集集後記

SSSS

●本号は少し古い出来事ですが、アポロ月飛行関連の興味深い記事を冒頭に掲載しました。アポロ宇宙飛行士については色々取りざたされていますが、これは決定的な実録として出色の内容を持つものです。

●加藤純一氏の体験記にも深い味わいがあります。氏は特殊な宿命を帯びた人物らしく、不思議な目撃の連続の日々を過ごしているとのこと。ここに掲載したのは一部分にすぎないようです。

●「懐疑論者から支持者に転向」のローリーノウ氏は、もともと徹底して頑固な分からず屋というタイプではなく、カルミクな要素を秘めていた人で、それが花開く時期が遅かったというだけです。よくあることですね。

●「アダムスキー哲学と波動感知法」の林国宜氏は超能力者ですが、氏はこれをひけらかすことはなく、当方のしつこい要請に応じて執筆を承諾された奥ゆかしい方です。

●再びアダムスキーの講演集連載記事が出ました。今回は宇宙哲学そのもので、熟読含味の末、やがて大宇宙との一体感にひたつている自分を発見して至福感に満たされます。

●UFOの目撃報告、UFO写真、超能力開発体験、宇宙哲学研究実践体験、宇宙科学等の原稿や資料を募集しています。原稿書きの苦手な方には面談して取材します。ふるってご応募ください。掲載分には薄謝を呈します。

●本誌は多数のボランティアにより全国の主要書店に卸されています。この活動に参加希望の方はハガキでお申し込み下さい。説明書をお送りします。

日本GAP専門誌・季刊 夏季号
UFO contactee 133号

編集発行人 久保田八郎

発行所 日本GAP

〒133東京都江戸川区本一色1-12-1-511

☎03-31365110958

振替 00140-2-35912

一九九六年四月二十五日発行

定価九二七円(本体九〇〇円)・送料240円

※本誌掲載の全記事・写真共、他の印刷物への無断引用転載を禁じます。

日本GAP全国月例セミナー案内

支部名	日 時	会 場	会 費	プログラム・テキスト
東京本部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※本年5月のみ第2日曜日の12日に変更。 ※本年5月から毎月の会場を6階67号室に変更。意の多い明るい部屋。風景絶佳。	港区芝公園3丁目5-8「機械振興会館」地下3F第2研究室。 ☎03-3434-8216。JR浜松町駅下車。東京タワーの正面前。 浜松駅から東京タワー行きバスで約8分。 連絡先=日本GAP本部 ☎03-3651-0958 ※日曜日は正面玄関が閉じられているので、右へ回って建物の右側の入口から入る。	会 場 費 ¥1000 セミナー 受 講 料 ¥1500 計¥2500	1:00→1:30 会員による講演。 1:30→3:00 久保田会長による講義。 3:10→5:00 テキスト=「生命の科学」 超能力開発練習/近況報告/質疑応答。
大阪支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	大阪府吹田市出口町4丁目「吹田市民会館」 ☎0238-7351。JRまたは阪急電車吹田駅下車。 連絡先=平塚和義 ☎06-411-2367	¥500	東京月例セミナーにおける久保田会長 の講義のビデオまたは録音テープ を公開。テキストは上記と同じ。
新潟支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	新潟市東万代町9「新潟市青年の家」(万代市民会館と同じ建物) ☎025-246-7711。JR新潟駅より徒歩5分。 連絡先=星 富治夫 ☎02579-2-5562	¥500	同上
名古屋支部	毎月第2日曜日 午後1:00→4:30	名古屋市中区金山1丁目5番1号「名古屋市民会館」特別会議室。 ☎052-331-2141(代) JR東海・名鉄・地下鉄の金山駅より徒歩5分。 連絡先=林 国宣 ☎0586-45-6468	¥300	同上
仙台支部	毎月第3日曜日 午後1:10→4:20 ※当分の間、セミナーは中止。	連絡先=笠原弘可 ☎022-284-2910	¥300	同上
山形支部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※日時に変更があるため、毎月事前に柴田宛 電話で問い合わせることを。	山形県天童市老野森1丁目1-1「天童市中央公民館」 ☎0236-54-1511。天童駅から徒歩10分、タクシー4分。天童市 役所の裏側。 連絡先=柴田光明 ☎0233-25-3261	¥500	同上
札幌支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:30 ※日時と会場は不定につき、事前に高野宛問 い合わせることを。	中央区北一条西13丁目「札幌市教育文化会館」会議室。 ☎011-271-5821 連絡先=高野省志 ☎011-783-6393	¥500	同上
旭川支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	旭川市五条4丁目「旭川ときわ市民ホール」3F 302研修室 ☎0166-23-5577 連絡先=川上三秀 ☎166-61-0044	¥500	同上
沖縄支部	毎月第4日曜日 午後1:00→4:30	宜野湾市嘉数1-6-5早川宅 ☎098-890-1324 連絡先=里 幸人 ☎098-869-9964	¥500	同上
秋田支部	毎月第2日曜日 午後1:00→5:00 ※6月8日は支部大会なるも、2日(回)に月例 セミナーを開催。	秋田市八橋運動公園1-2「中央公民館」趣味の間。 ☎0188-24-5377 連絡先=伊藤正治 ☎0188-62-2831	¥500	同上
横浜支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※本年6月のみは第4日曜日の23日に変更。	横浜市中区万代町2-4-7「横浜市技能文化会館」 ☎045-681-6551 JR 関内駅、地下鉄・伊勢崎長者町駅より徒歩 3分。 連絡先=清水 正 ☎03-5951-3518	¥500	同上
茨城支部	毎月第4日曜日 午後1:20→5:00	水戸市梅香1-2みと好文カレッジ小集会室。 ☎029-224-6602。水戸駅北口より徒歩10分。 連絡先=清水勝一 ☎029-273-1903	¥300	同上
長野支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	塩尻市大門7番地「塩尻総合文化センター」第1会議室。 ☎0263-54-1253 連絡先=博田文喜 ☎0264-24-3012	¥500	同上
紀南会	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※日時については事前に松口に問い合わせる ことを。	和歌山県新宮市春日1番35号 「新宮地域職業訓練センター」工業コーナー ☎0735-23-0005 JR新宮駅下車、徒歩5分、新宮市役所隣。 連絡先=松口幸之助 ☎0735-34-0384	¥300	同上
栃木支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	鹿沼市市役所裏「御殿山会館」1F小会議室。 ☎0289-64-4334。JR鹿沼駅から西へ1.5km。東武新鹿沼駅 から北へ1.5km。市内行きのバスに乗り天神町下車。徒歩5分。 連絡先=渡辺克明 ☎0289-62-3319	¥500	同上
南九州支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	鹿児島市与次郎2-3-1「鹿児島市民文化ホール」 ☎0992-57-8111 連絡先=曾我部勇人 ☎0992-53-2315	¥500	同上
高松支部	毎月第3日曜日 午後1:30→4:30 ※日時に変更があるため事前に電話。	香川県坂出市寿町1-3-5「坂出勤労福祉センター」 ☎0877-46-2463 JR坂出駅より徒歩10分。 連絡先=関 高明 ☎0875-72-2698	¥500	同上
伊豆支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:30 ※日時に変更があるため事前に高梨宛電話。	静岡県三島市一番町20-5「三島市民文化会館」第3会議室。 ☎0559-76-4455。三島駅より徒歩3分。 連絡先=高梨十光 ☎0558-72-7832	¥500	同上
福山支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:00 ※日時に変更があるため事前に電話。	広島県福山市丸の内1-3「びんご荘」 ☎0849-25-3977 福山駅から徒歩3分。 連絡先=斎田(なつめた) 雅則 ☎0847-52-6306	¥500	同上



オーソン肖像写真

1952年11月20日、アダムスキーが米カリフォルニア州のデザートセンターで会見した金星人を、目撃者の一人アリス・ウェルズ女史が双眼鏡で観察しながら描いたスケッチをもとにして女流画家ゲイ・ベッツが油絵に仕上げた絵画の写真。10.5cm×17cm(不許複製転載)

¥1,000 送料¥130



金星のシンボルマーク

中央の眼は万物を見透す宇宙の意識、つまり人体を生かす生命パワーと叡知をあらわし、周囲の4層の放射状ゾーンは人間のマインド(心)の発達状態をあらわしています。人間のマインド(心)は眼・耳・鼻・口の四つから形成されるので4層になっているのです。

¥500 送料¥80



ESPカード(超能力開発用)

テレパシー、遠隔透視等の能力開発用としてアメリカのデューク大学で開発されたカード。5種類の図形カードが各5枚ずつあり、計25枚のセット。堅牢な厚紙製。重さ40g、5.7cm×8.9cm。携帯に便利なポケット用。どこでも気軽に練習できます。使用説明書付き。

¥1,500 送料¥130 (2~5個)¥190



テレフォンカード

日本GAP特製テレフォンカードの第8弾。1954年2月15日、イギリスのランカシャー州のコニストンで、当時13歳のステイーヴン・ダービジャー少年が撮影したアダムスキー型円盤。詳細は新アダムスキー全集第1巻「第2惑星からの地球訪問者」40頁に出ています。

¥1,500 送料10枚まで¥80



GAPキーホルダー

日本GAPがデザインして製作したオリジナル・キーホルダー。シンボルマークの周囲を「WITH COSMIC CONSCIOUSNESS(宇宙の意識とともに)」の金文字が取り巻く優雅なデザイン。円形部分は直径3.2cm。鎖とも全長9cm。非常に堅牢に出来ています。

¥1,900 送料130



会員バッジ

金星のシンボルマークが金色に輝く優雅なデザイン。表面の透明樹脂がガスを防ぎ、光を反射してキラキラ輝きます。男性用は裏の留め金が心棒ネジ留め式。女性用は安全ピン式。実物の直径は1.7cm。

¥2,000 送料4個まで130



ブックカバー

主として新アダムスキー全集用に作られたカバーですが、同じ大きさの四六判の書籍ならどれにも使用できます。表側の中央にシンボルマークと「宇宙の意識とともに」を意味する英文が金色で箔押しされた濃紺色の優雅なデザインです。人造皮革製。

¥1,200 送料¥190 5枚まで¥270

シンボルマークを「宇宙の意識とともに」の英文が取り巻く優雅なデザインのシールです。カバンその他の持ち物に最適。

1枚に大小5個1組 ¥200 送料10枚まで¥80



GAPシール

新アダムスキー全集 訳・著者 久保田八郎の署名捺印入り

中央アート出版社刊「新アダムスキー全集」を日本GAPでも取り扱っています。各巻とも扉に久保田八郎の署名と捺印を入れてお届けします。詳細については本誌の広告を参照して下さい。全巻注文の際の定価割引はありません。送料は1冊310、7冊まで¥660、10冊まで¥900。ハガキでご注文下されば代金後払いでお届け致します。

申込先 上記各商品のご注文の際は住所・氏名・品名・個数・電話番号をご記入の上、郵便振替が現金書留でご注文下さい。代金後払いも承ります。その場合はハガキに上記のとおりにご記入の上お送り下さい。商品の中に郵便振替用紙を同封しておりますから、現品到着後、最寄り郵便局からご送金下さい。消費税は無関係です。

〒133 東京都江戸川区本一色1-12-1-511

日本GAP 振替 00140-2-35912

☎03-3651-0958



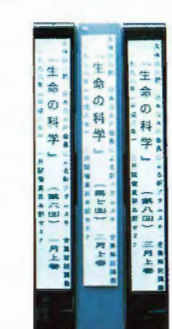
日本GAP能力開発カセットテープ

★日本GAP東京本部月例セミナー

毎月開催される日本GAP東京本部月例セミナーから、久保田会長の「超能力開発法」解説講義と質疑応答その他を録音したテープ。これを聴けば絶大な信念と勇気がわきあがり、あらゆる障害を超えて成功に到達できます。

- テープ① ¥1500
〈内容〉久保田会長による新アダムスキー全集第2巻「超能力開発法」の講義。近況報告。
- テープ② ¥1200
〈内容〉会員による講演、超能力開発練習、質疑応答。
- 1995年度日本GAP総会2巻セット ¥2700
〈内容〉超能力者・秋山眞人博士の「別な惑星の文明と個性」と題する素晴らしい講演と質疑応答。★総会テープのバックナンバーあり、付属ハガキでお問い合わせください。送料=テープ1本 ¥190、2~3本 ¥270、4~8本 ¥390

申込先 品名、〇年〇月分、個数、氏名、住所、電話番号をご明記の上、郵便振替でご注文下さい。(テープの代金後払い不可)
〒133 東京都江戸川区本一色1-24-3-202
松村芳之 振替 00100-2-162644 ☎03-3653-9387



日本GAPビデオ

臨場感溢れる画像があなたを会場に引き込み、宇宙的な一体感を起こします。全巻VHS。

- 東京本部月例セミナー 全1巻 ¥3000
(内容) 久保田会長の解説講義、他、約120分。
- 日本GAP総会 全2巻各¥3000
(内容) 毎年開催される日本GAP総会を完全収録。(1989年度分から在庫あり)。
- 日本GAP海外研修旅行 全1巻 ¥3000
(内容) 旅行のハイライトをまとめた楽しいビデオ。(1989年度分から在庫あり)

●米ワシントン市のアダムスキー大会における久保田会長の講演(英語)。全1巻 ¥3000
〈内容〉1995年9月8日、久保田会長が英語で長時間講演したためらしいビデオ。英文テキスト付き。日本語訳文は本誌131頁に掲載。送料はビデオ1本¥390、2本以上3本まで¥700。

申込先 ご注文の際は品名、〇年〇月分、上下巻の区別、個数、住所氏名、電話番号をご明記の上、郵便振替でお申し込み下さい。(ビデオの代金後払い不可)
〒162 東京都新宿区富久町36-18 富久マンション103
伊東芳和 振替 00140-8-13811 ☎03-3351-9526

UFO contactee

133号

一九九六年四月二五日発行

発行所

日本GAP

〒133東京都江戸川区本一色1-12-1-511

電話00140-2-35912

定価九十七円(本体九〇〇円) 送料一四〇円